

わたしの^{せいしよ}聖書が^{いちばん}一番！ ^{かん}9巻

「ありがとう」を^{わす}忘れずに^{つた}伝えること～
イエス様への^{さま}贈り物^{おく}もの

～ルカによる^{ふくいんしよ}福音書^{しやう}17章 - マタイによる^{ふくいんしよ}福音書^{しやう}26章～





もくじ

だい しょう	第1章	「ありがとう」を <small>わす</small> れずに <small>つた</small> へること	1
だい しょう	第2章	よきサマリヤ人 <small>びと</small>	9
だい しょう	第3章	イエス様 <small>さま</small> の家族 <small>かぞく</small> となった兄弟 <small>きょうだい</small>	17
だい しょう	第4章	行きそこ <small>い</small> なった宴会 <small>えんかい</small>	25
だい しょう	第5章	失われたもの <small>うしな</small> を探し出 <small>さが</small> す	34
だい しょう	第6章	失われた二人 <small>ふたり</small> の息子 <small>むすこ</small>	42
だい しょう	第7章	盲人 <small>もうじん</small> バルテマイとその他 <small>ほか</small> のたとえ話 <small>ばなし</small>	50
だい しょう	第8章	ラザロよ、出 <small>で</small> て来 <small>き</small> なさい	58
だい しょう	第9章	イエス様 <small>さま</small> と子供たち <small>こども</small>	66
だい しょう	第10章	あわれな金持ち <small>かねも</small>	74
だい しょう	第11章	ふたりの金持ち <small>かねも</small>	82
だい しょう	第12章	ぶどう園 <small>えん</small> の働き人 <small>はたら びと</small>	89
だい しょう	第13章	イエス様 <small>さま</small> への贈り物 <small>おく もの</small>	97

だい しょう 第1章 「ありがとう」を忘れずに つた 伝えること



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

しゅ かんしゃ な しゅ めぐ
「主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。主は恵みふかく、そのい
つくしみはかぎりなく、そのまことはよろず代に及ぶからである。」
しへん
詩編 100:4, 5

にちようび 日曜日



ライ〔ハンセン〕病と
よ 呼ばれる、恐ろし
びょうき おそ
い病気のことを覚えています
か？それが、あまりにもひど
びょうき びょうき
い病気だったため、この病気
にかかった人のところへは、
だれも近づこうともしませんで
した。ライ病人たちは、人々から遠くはなれ
て住まなくてはいけませんでした。彼らは、
ひとびと ちか おそ
人々に近づくことを恐れて、ふだん、まち むら
へ行くことはありませんでした。

だれかが近づいてくると、ライ病人たちは
「汚れた者です！汚れた者です！」と大声で
さけ ひとびと じぶん ちか
叫び、人々が自分たちに近づかないように
けいこく
警告しなくてはなりませんでした。

そうぞう くだ
想像してみてください。あなたがその時代
に生きていて、何か白いものが皮ふにあら
われたとします。それがいつまでたっても消
えなければ、祭司に見てもらわなくてはいけ
ません。祭司がそれを調べて、あなたがライ
〔ハンセン〕病であることを告げたとした

ら、どうなると思いますか？あ
あなたは家族と別れ、彼らと会
うことは二度とありません。ラ
イ病を治す手だては、何もあ
りませんでした。

さらに、ライ病人たちが
びょうき びょうにん
病気になったのは、彼ら自身
が恐ろしい罪を犯したためだ
と思われていました。これは
かみさま ばつ けつ
神様からの罰で、決してゆる
されることはないと言われて

いたのでした。

こんしゅう はなし にん びょうにん
今週のお話は、10人のライ病人について
です。その中の何人かはユダヤ人でしたが、
すく ひと びと しょうばい
少なくともひとりにはサマリア人でした。商売
をするとき以外に、ユダヤ人とサマリア人が
おたが かが じん びと
お互いに関わりあうことはありませんでした。
しかし、これら10人のライ病人たちは、み
んなが同じ恐ろしい病気にかかっている、
じぶん かみさま みす おも
自分たちは神様から見捨てられていると思わ
されていたので、仲良くいっしょにいることに
したのでした。

かんが
考えてみよう：もしあなたが、これら10人
びょうにん
のライ病人のひとりだったとしたら、どんな

気持ちになっていたと思いますか？ライ病は「罪」のようなものです。もしわたしたちのためにイエス様がおられなかったなら、わたしたちは皆、ライ病にかかっているような状態なのです。だれも、希望を持つことができなかったことでしょう。この地上で生きたすべての人が、永遠に死ななくてはならなかったことでしょう。イエス様は、わたしたちを愛するあまり、よろこんでわたしたちのために死んで下さったのです。なんとすばらしい愛でしょう！

げつようび 月曜日

10人のライ〔ハンセン〕病人たちは、どこからか、イエス様のことと、イエス様が人々を助けるためになされた数々のすばらしい奇跡について聞きつけました。おそらく、ライ病にかかった人でもいやされたという話を聞いたのでしょう。そして、「イエス様に会いたい！」と心から願ったことでしょう。するとある日、その願いがかなったのです。

いつものように、イエス様はあちらこちらをめぐり歩いて教え、いやし、人々を助けておられました。こんどは、どこの町に行かれるのでしょうか？ルカ 17:11。

イエス様が自分たちの住んでいるところへ向かっておられることを耳にしたライ病人たちは、とても信じられない気持ちだったこ



とでしょう。いよいよ、エルサレムへ行く途中にある、彼らの小さな村に、イエス様が近づいてこられました。そして彼らは、イエス様があらわれる時を、今か今かと待っていました。12節。

すぐに、イエス様のもとへ走って行きたかったのですが、もちろんそれはゆるされません。しかしだれも、大声で叫ぶのをやめさせることはできないはずです。そこで彼らは、声をふりしぼって叫んだのでした。13節。

イエス様はただちに、叫び声のするほうに目を向けられました。そして目に入ってきた光景は、あまりにもあわれなものでした。イエス様は、彼らの一人ひとりをかわいそうに思い、愛を注いでくださいました。

ライ〔ハンセン〕病が完全に治ったことを宣言できるのは祭司だけだというのを、イエス様はご存じでした。また、これら10人の男たちがいやされるためには、イエス様に完全に信頼しなくてはならないこともご存知でした。信仰がとても重要なのです。

まだ病気が治っていないにもかかわらず、祭司のところへ行って見せるようにイエス様から言われたら、それでも彼らは、いやされるという信仰をもてるでしょうか？

考えてみよう：わたしたちがイエス様に、罪を取りのぞいて心を清めて下さるようお願いするとき、わ

たしたちは、イエス様がそうして下さると
いうお約束に信頼することができますか？1
ヨハネ 1:9。

かようび 火曜日

10人のライ[ハンセン]病人たちは、
「助けてください」と、イエス様
に向かって叫びました。イエス様も、彼ら
を助けたいと思われました。はたして彼ら
には、イエス様から助けてもらえるだけの
信仰がありましたか？

彼らに答えて、イエス様が言われました。
「祭司たちのところへ行って、からだを見
せなさい。」すると10人とも、すぐにした
がいました。急いで去って行く彼らをごら
んになって、イエス様はほほえまれたこと
でしょう。

祭司のところに向かった彼らは、イエス
様が自分たちをいやして下さると信じて
いました。おそらく、はじめはなんの変化
も見られなかったはずですが、しかし、信仰
があったので、イエス様に言われたとおりに
行きました。イエス様がいやもしない
で、祭司のところへ行くように命じるはず
はないと、信じることにしたのでした。そ
してイエス様は、彼らの信仰にこたえてく
ださいました。奇跡が起こったのです。ル
カ 17:14。

10人ともいっぺんにいやされたのか、
ひとりずついやされたのか、それとも歩
いているうちに病気が少しずつよくなって
いったのかは、わかりません。ただ確か
なのは、10人とも完全にいやされたこと

です。私たちにできるのは、彼らがどんな
に喜んだかを想像することぐらいです。

彼らはいやされ、清められたのです！イ
エス様に願い求めたときには、まだライ[ハ
ンセン]病をわずらっていましたが、イエ
ス様の言いつけに従うことを選んだのでし
た。今ではもう、健康な人と変わりません。
これでまた、家族や友だちと過ごせるので
す。あまりにもすばらしくて、本当に起こっ
ているとは信じられないほどでした。

ところが、あまりにもうれしくて、彼らは
あることを忘れていました。それが何だっ
たか、わかりますか？

それは、わたしたちもよく忘れてしまうこ
とです。彼らはもどって、いやして下さ
ったイエス様に「ありがとうございます」と
言うのを忘れてしまったのです。

もしイエス様がいやして下さらなかつ
たなら、10人の男たちはずっと、貧しい
哀れな、みにくいライ病人として、残りの
人生を希望がないまま過ごさなくてはなら
なかったはずですが。

考えてみよう: あなたのとお父さんとお母さ
んは、「ありがとう」を言うことをあなたに
教えてくれましたか？あなたは、感謝を伝
えることをいつでも覚えていますか？つい
忘れてしまいますか？あなたが感謝もしな
いのに、両親がいつもしてくれていること
はありますか？

すいようび 水曜日

10人のライ[ハンセン]
病人全員が、いやされました。

いま けんこう ひと
今ではすっかり健康な人になって、ふたたび家族や友だちといっしょにいられるようになりました。まちがいなく、彼らはみな、とても幸せだったことでしょう。

ところが、喜びいさんで家族のもとにもどろうとしていた彼らでしたが、ひとつ大事なことを忘れていました。それは何でしたか？

かれら びょうき とりのぞき、ふたたび健康にしてくださったイエス様に感謝することを、全員が忘れてしまったのでしょうか？

ルカ 17:15。

いやされたひとりがもどって来るのを見て、イエス様はよろこんだと同時に悲しい気持ちにもなられたことでしょう。イエス様のところに向かってきた男は、あまりにもうれしくて、感謝の叫び声をあげ、神様をほめたたえました。彼が、何度もなんどもイエス様に頭を下げ、いやされたお礼を言うようすが想像できますか？彼はユダヤ人でしたか？それともサマリヤ人でしたか？ 16 節。

もちろんイエス様は、お礼を言われてよろこばれました。でも、ほかの 9 人が、自分たちのために行われた奇跡に感謝するのを忘れてしまったことには、がっかりなさいました。そのお気持ちが、どんなお言葉であらわされていましたか？ 17,18 節。

かんが
考えてみよう：もしかしら、わたしたちも今、何かを思い出すべきかもしれせん。まずは、イエス様がわたしたちにして下さった、多くのことを思い出してみましよう。どれだけ思い出せましたか？ざっと数

えてみて、少なくとも 10 ぐらいはありますか？それらのうち、忘れずイエス様に感謝をささげたのは、いくつですか？

もくようび 木曜日

イエス様がこれまであなたのためにしてくださったことで、今でもしてくださっていることが何かありますか？きのうは、イエス様に感謝する時間をもちましたか？それとも、ほかのことをするのに夢中になって、感謝することをすっかり忘れてしまいましたか？

ところで、ここにリストがあります。このリストの中に、あなたが感謝していることはいくつありますか？ひとつずつ読んで、もしそれがなければどうなるのか、またどんな気持ちになるかを話して下さい。

① **イエス様：**もし、イエス様がわたしたちのために自らすすんで人間となり、死んで下さらなかったとしたら、どうなっていたと思いますか？もしイエス様が、いつもわたしたちのことを助けて下さらなかったら、どうなるでしょう？

② **聖書：**聖書がなければ、わたしたちはどのようにして、神様のすばらしいご計画を知ることができるでしょうか？イエス様のお約束について、またイエス様はかならず約束を守ってくださることを、どうやって知ることができるでしょうか？私たちを滅ぼそうとたくらんでいるサタンについては、どうやって知ることができるでしょうか？

③ **天使：**わたしたち一人ひとりには

守護天使がついていて、わたしたちを
守ってくれています。その天使は、わた
したちが言うこと、することだけでなく、感
じたことや心に思ったことまでも記録して
います。サタンは、わたしたちが犯したま
ちがいを神様の前でさし示すことを好み
ます。私たちは汚れているので天国に入
るにふさわしくないと、彼は言います。た
しかにそのとおりですが、わたしたちが罪
を悔いてゆるしを願い求めたので、イエ
ス様の完全な生涯が私たちの生涯にとっ
て代わることを、天使の記録は示してい
ます。そしてそうすると、イエス様は私
たちを救うことができるのです。それからイ
エス様は、わたしたちを彼に似るものに、
毎日変えてくださいます!

④天国:天国は、実際に存在しています!

なんて素晴らしいことでしょう!そしてイエ
ス様の助けによって、わたしたちはそこへ
行くことができます!

⑤自由に選べること:たとえ自分で選ん
でも、サタンから自由になる道が閉ざされ
ていたとしたら、どうでしょうか?

考えてみよう:わたしたちには、イエス
様に感謝すべきことがたくさんありますか?
あなたは毎日そのことを覚えて、イエス様
に感謝していますか?

きんようび 金曜日

感謝を伝えに来たライ [ハンセン]
病の男と別れる前に、イエス様
は、男とほかの9人がいやされた大事な
理由を思い起こさせました。ルカ 17:19。

10人のライ病人たちは、イエス様が
自分たちをいやすことがおできになると信
じていることを、どのように示していまし
たか? **14節**。

そして、わたしたちの優しい、愛情ぶ
かいイエス様は、10人ともいやしてくだ
さいました。ただし、中でもとくに祝福さ
れたのは、だれでしたか?感謝の心をもと
うと決心するとき、わたしたちにも特別な
祝福が与えられると思いますか?

つい文句を言ったり、ふくれたりして、
感謝と喜びにみちた心をもつことによっ
て受けられる祝福を逃がしてしまうことはな
いでしょうか?

神様はわたしたちに、毎日、数えきれ
ないほどの祝福を下さっています。太陽
の光、水、空気、食物などのことを考え
てみてください。これらのものがなくても、
わたしたちは生きてくことができるでしょ
うか?

⑥健康:あなたはこれまでに、病気に
かかったことがありますか?それは楽しい
経験でしたか?どのようにして治りました
か?病気になっても回復するような体を、
だれが造ってくださいましたか?健康にな
るために、したがわなくてはならない、ど
んな法則がありますか?あなたは、それら
の法則にしたがおうとしていますか?

次は、どのようにイエス様への感謝をあ
らわすかについて考えてみましょう。食事
のお祈りをする時に、自分の言葉を考え
もせず大急ぎでイエス様に感謝をささげ
るのは、礼儀正しいでしょうか?食事の
お祈りで、わたしたちは心からの感謝を



あらわしていますか？朝のお祈りと寝る前のお祈りはどうでしょう？お祈りすることすら、忘れてしまうことがありますか？また、家庭礼拝でのわたしたちの態度はどうでしょうか？イエス様は、いつも愛をもってわたしたちを見守って下さいますか？もし実際にイエス様とお会いしたなら、もっと礼儀正しくじょうずに、「ありがとうございます」と言えるのでしょうか？イエス様への「ありがとう」の言い方を変えてみるのはどうでしょうか？

まな もっと学ぼう！

★ルカ 17:11-19;

★各時代の希望（中巻）36章

p. 74-77;



『伝道犬スнка』より

スнкаのペルー旅行記 その1

アンナ・ラーセン



スнкаは、顔と耳は茶色で、体は白い色をしたメス犬です。専門家によれば、スнкаは純血種ではない

とのことですが、いちおう、ワイヤーヘヤード・テリアということになっています。純血種であれば、鼻は茶色ではなく、本来は黒のはずだと専門家たちは言います。まあ、雑種であろうとなかろうと、とにかくスнкаはかわいいのです。わたしにとってスнкаは、最高にすてきで賢い犬なのですから。

スнкаは、南米ペルーの生まれです。血統書つきではありませんが、まわりの犬たちと比べて、みんなから特別に一目おかれて、愛されています。

「スнка」という名前は、ペルーのアンデス高地に住む原住民たちのケチュア語で「ほおひげ」という意味です。原住民たちは、顔まで毛むくじゅらの犬のことを「ペロ・スнка」と呼んでいて、主人とわたしは、「スнка」という名前が、この犬にぴったりだと思ったのです。

わたしたちが出かけるころへは、スнкаはいつでもいっしょに車に乗って行きました。ですからスнкаは、かつてインカ帝国であった3つの国、つまりエクアドル、ペルー、ボリビアを旅したことになるのです。わたしたちがインカの地で34年過ごす間に、何匹かの犬を飼うことができましたが、スнкаのような犬は初めてでした。これからお話しする物語のうちのいくつかは、飼っていた別の犬たちとの体験もふくまれています。物語を単純でわかりやすくするために、どれもスнкаの名前で話したいと思います。すべては、本当にあったお話です。

スнкаは、車で旅行をするのが大好きでしたが、その日は、旅行の距離と時間が長すぎました。朝早くから、一日中車にこもりっきりになっていました。ただし、スнка自身はそれを楽しんでいましたけどね。窓から身を乗り出して、通り過ぎて行く牛やロバに向かってほえたり、また、主人かわたしのどちらかがスнкаにシートの間にも、ラマや羊の群れを見るたびに鼻をクンクンさせてうなったりしていました。

わたしたちは、アンデス山脈の東側山あいにある、ワヌコと呼ばれる小さな町へやってきました。そこで、すてきなホテルに泊まりました。スнкаもホテルが気に入ったようでした。というのは、わたしたちといっしょに寝室で眠れるからです。家では、スнкаがわたしたちといっしょに寝ることは、ゆるされていませんでした。

さて、主人が町を見物してから部屋へもどってくると、「今晚の集会にうってつけの、いい会場があるぞ」と言いました。おどろいた私は、「あら、そうなの!？」と思わず声をあげました。



「この町に来るのは初めてなのに、もう集会の手はずを整えたってこと？」

「この真向かいのショッピングセンターに、会場があるんだ。ほら、見えるだろう？」主人は窓から、町の中心的な建物を指さしました。「2階にはラジオ局があるんだけど、そこには大広間もあって、ラジオ局と町役場が講堂として使っているんだ。」

「それで、その人たちは、あなたがそこで集会を持つことをゆるしてくれると思うの？」

「ああ。もう市長さんとお話して、許可をいただいたよ。」

「すごいじゃないの！」わたしが、あんまり激しく手をたたいてよろこんだので、スンはあわててベッドの下へかけこみました。「でも、集会にどうやって人を集めようかしら？」

「それは、僕も考えているところだよ」と言ってから、主人は一瞬だまりこみました。「この町には、知り合いがひとりもないしなあ。だれにも手伝いを頼むことはできないので、僕たちふたりでどうにかするしかないだろう。」

「それって、講演会で話をするあなた自身が道ばたに立って、人集めをするってこと？いいえ！もっといい考えがあるわ。スンカに宣伝をしてもらいましょう。」

スンはベッドカバーの下から、「それって、あたしのこと？」とたずねるかのような目で、じっとこちらを見えています。

「さあ、おいで、スンカ！出かけるわよ。ボールはどこ？」

「ボール！」スンの耳がピンと立ちました。スンはボールで遊ぶのが大好きなので、空気の抜けてぺしゃんこになったボールが置かれている小さなテーブルの横で、飛び跳ねだしました。

わたしは思い切り空気を吹き入れて、ボールを元の形にもどしました。スンは待ちきれません。それはもう興奮して、吠えたり、クンクン泣いたり、とびはねたりしています。このボールは、バレーボールほどの大きさで、とてもやわらかいのです。それは私が、自分で縫って作ったものでした。

(つづく)

だいしょう 第2章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

よきサマリア人^{びと}

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{こころ}心をつくし、^{せいしん}精神をつくし、^{ちから}力をつくし、^{おも}思いを
つくして、^{しゅ}主なるあなたの^{かみ}神を^{あい}愛せよ。また、^{じぶん}自分
を^{あい}愛するように、あなたの^{とな}隣り人^{びと}を^{あい}愛せよ。」

ルカ 10:27

にちようび 日曜日

あなたには、^{とな}隣り人^{びと}と呼べる人^{ひと}たち
^あちがいますか？その人^{ひと}たちは、あ
なたの家^{いえ}の近く^{ちか}に住^すんでいますか？その人^{ひと}
たちみんなの名前^{なまえ}を知^しっていますか？

イエス様^{さま}は、^{とな}隣り人^{びと}についてお話し^{はな}
なさいました。しかし、ただ単^{たん}に、近所^{きんじよ}
や、隣^{となり}に住^すんでいる人^{ひと}という意味^{いみ}で言^いわ
れたのではありません。

イエス様^{さま}のおっしゃる
「^{とな}隣り人^{びと}」とはどうい
う意味^{いみ}だったのか、見^み
つけていきましょう。

^{じっかい}十戒^{さいご}の最後^{じよう}の2条^{じよう}を
おぼえてい^いるなら、言^いっ
てみてくだ^{おぼ}さい。覚^{おぼ}
えてい^いなければ、^{しゅつ}出エジ
プト^き記^よ 20:16-17 を読^よ
みましょう。

ここで神様^{かみさま}は、隣^{となり}に

住^すんでいる人^{ひと}にうそをついてはいけ
ない、または、近所^{きんじよ}に住^すんでいる人^{ひと}の物^{もの}をほし
がってはいけ
ない、と言^いっておられるので
すか？もちろん、近く^{ちか}に住^すんでいる人^{ひと}だけ
ではありません。そのようなこと
は、だれ
に対^{たい}してもしてはいけ
ないと、神様^{かみさま}はおっ
しゃっています。

イエス様^{さま}が人^{ひと}としてこの地上^{ちじよう}に來^こられ
たとき、彼^{かれ}はわたしたちみんなの兄弟^{きょうだい}の
ようにな^なられました。そして、神様^{かみさま}はイエ
ス様^{さま}の父^{ちち}であられる
ので、同じよう^{おな}にわた
したちの父^{ちち}でもあ
られるわけ
です。イエ
ス様^{さま}のおかげ
で、わた
したちは皆^{みな}、
^{きょうだい}兄弟姉妹^{まい}なの
です。だ
とすれば、ど
こに
いる人^{ひと}でも、ど
んな
人^{ひと}であ
っても、わた
したち
は彼^{かれ}ら^きを氣^きに
かけ^あて愛^{あい}すべき
なの
で
しょうか？そ
のと
お



りです。イエス様がわたしたちの模範です。イエス様は、どんな人であっても、一人ひとりを愛されました。その人々がイエス様を愛していなくても、イエス様は彼らを愛されました。

パリサイ人たちは、イエス様がすべての人を同じようにつかわれることを、よく思っていないでした。彼らは、サマリア人や神様を知らない異教徒は、自分たちの隣り人ではないと確信していました。そして、取税人〔ローマのために税金をとりたてる人〕や罪人〔律法にしたがわない人〕、貧しい人や無知な人も、隣り人としてみていませんでした。彼らにふれるだけでも、病人にふれることと同じだと思っていたのです。

考えてみよう：イエス様とパリサイ人の、どちらが正しいと思いますか？十戒は、あたる特定の人たちだけを好きになれば、他の人たちのことは好きにならなくてもよいと教えていますか？

げつようび 月曜日

パリサイ人たちは、議論〔互いの意見を述べて論じ合うこと〕が大好きでした。彼らが言い争っていたことのひとつは、「だれがよい隣り人で、だれがそうでないか」についてでした。イエス様と弟子たちがどんな人とも仲良くなるのを見て、パリサイ人たちは、困ったことだと思いました。

イエス様の弟子のひとりであるレビ・マタイは、取税人でした。イエス様が、

弟子たちといっしょにレビ・マタイの家で食事をしていたときに、何があったかを読んでみましょう。**マタイ 9:11-13。**

イエス様はパリサイ人に、自分が病気であることを知っている人だけが医者のところに行くことをさし示されました。自分には何の病気も問題もないと思っている人は、医者をたずねようとは思わないでしょう。

サタンは、これまでに生まれてきたすべての人の体と心を傷つけてきました。イエス様だけは、うまくいきませんでした。そこでイエス様は、病気の体をいやし、まちがった考えを正すために、わたしたちの世界に來られたのでした。わたしたちの体と心をお造りになったのはイエス様ですから、彼はいやすこともおできになるのです。ただし、無理やりご自分に助けを求めると、人々にせまったことが一度でもあったでしょうか？いいえ、そんなことは一度もありませんでした。

パリサイ人たちは、自分たちにイエス様のいやしは必要ないと、かたく信じていました。自分たちの作り上げた多くの「規則〔きまり〕」に注意深くしたがっていたので、イエス様にいやしていただく必要はないと思っていました。神様が「自分を愛するように他の人々も愛しなさい」とおっしゃっているにもかかわらず、彼らは、自分たちが愛するにふさわしいと決めた人たちだけを愛していました。彼らは、隣り人を愛するように神様から言われているにもかかわらず、隣り人を愛そうとはしませんでした。実は彼ら自身が病気で、いやさ

れる必要がありました
が、そのことを知らな
かったのです。

かんが
考えてみよう:すば
らしい十の戒めにつ
いて、もう学びました
か?戒めのはじめの
4つは、わたしたち
が心をつくして神様を
愛する方法を教えて
います。のこり6つの
戒めは、ほかの人た
ち、すなわち隣り人を



どのように愛するべきかについて教えてい
ます。パリサイ人たちは、神様の「規則
〔きまり〕」に本当にしたがっていましたか?
私たちは、パリサイ人の方法で人を愛して
いることはないでしょうか?イエス様のよう
にほかの人たちを愛せるようになるために
は、イエス様の助けにたよる以外にありま
せん。

かようび 火曜日

イエス様のことを嫌っていたパリサイ人たちは、どうにかしてイエス様にまちがったことを言わせて、彼をひどい目にあわせたいと望んでいました。イエス様が人々と話したり、奇跡を行ったりするのをやめさせたかったのです。

そこである日、人々と話しておられたイエス様のところに、パリサイ人たちは律法の専門家をつれてきて、ある質問をさせました。それは、どんな質問でしたか?ル

カ 10:25。

パリサイ人たちは、自分たちの規則〔きまり〕にしたがってい
れば、永遠の命が得
られると考えていまし
た。そしてイエス様
が、彼らの作り上げた
それらの規則に従っ
ていないことも知って
いました。イエス様
は、パリサイ人たちが
自分をわなにはめよう
としていることをご存知でした。そこで彼は、逆に質問をすることによって、専門家の質問にお答えになりました。26節。

律法の専門家は、その質問の答えを
知っていました。十戒全部をくりかえす
必要はなかったので、全体の意味をまと
めて述べました。27節。

専門家の答えは、まちがっていませんで
したし、イエス様もそれは正しいと言われ
ました。28節。

ところが、この律法の専門家は不安な
気持ちになってしまいました。彼自身が、
自分を愛するように心をつくして神様や他
の人々を愛していないことをわかっていた
からです。そのことは、あまり考えたくな
かったので、あわてて別の質問をイエス
様に投げかけました。29節。

パリサイ人たちは、まさか「隣り人」が
どの人にも当てはまるとは思いもしなかつ
たので、今になって、本当の答えを聞き
たくなりました。専門家の質問はイエス様

にとってむずかしいにちがいないと、パリサイ人たちは確信していました。イエス様がすべての人を愛しておられることを知っていたからです。

けれども、イエス様は彼らと言い争いませんでした。かわりに、最近起こったある出来事についてお話しなさいました。それは、当時の人たちがよく知っている出来事でした。その物語については、明日お勉強しましょう。

かんが **考えてみよう**：律法の専門家のふたつの質問は何でしたか？どちらも重要なことでしたか？もしだれかが同じ質問をしたら、あなたはへと答えますか？

すいようび 水曜日

「わたしの隣り人とはだれのことですか？」という質問に答えて、イエス様は、エルサレムからエリコへ行く途中で起こったある事件について語られました。その道のあるところはせまい岩場になっていて、強盗たちがかんたんに身をひそめることができたので、ひじょうに危険な場所でした。そこを歩いていると、とつぜん強盗たちがおそいかかってきて物をうばい、人々に傷を負わせ、時には殺してしまうこともありました。イエス様が話し始めると、聞いていた人たちは、それが実際に起こった事件であったことを知っていたので、思わず話に聞き入りました。**ルカ 10:30。**

強盗におそわれた哀れなこの男が、道ばたに倒れている姿を想像できますか？と

ても深い傷を負って、血を流しています。おそらく、なかば気を失い、うめき声をあげていたことでしょう。強盗たちは、彼の持ち物をすべて奪って行ってしまいました。お金、そして彼の着ていた服まで、何もかもです。

しばらくすると、足音が聞こえました。この哀れな男は、かすかな希望をいだいたにちがいありません。だれかが助けてくれるかもしれません。それはだれの足音でしたか？その人はどうしましたか？ **31 せつ節。**

この祭司は、エルサレム神殿での礼拝から帰るところでした。祭司なら、人々を助けるはずですが、ところが、血まみれで倒れている男が目にはいるなり、すぐに見て見ぬふりをし、急ぎ足でとおりすぎていきました。さらに、道の反対側に寄っていき、倒れている男からできるだけ離れようとしたのでした。

かんが **考えてみよう**：あなたがこの哀れな男だったとしたら、どんな気持ちになったと思いますか？

もくようび 木曜日

傷ついた哀れな男は、まだ道ばたに倒れたままです。祭司がとおりかかりましたが、助けもせずに行ってしまうました。ところが、別のだれかが近づいてくる足音が聞こえます。足音は、だんだんと近づいてきます。それから、足音がやみました。「ああ、こんどこそ助けてもらえる！」と思ったのですが、ちがいました。

またもや、足音は去って行ってしまいました。こんどは、だれの足音でしたか？ルカ 10:32。

祭司もレビ人も、みんなから先生と呼ばれていて、まさきに人助けをするはずの人たちでした。ところが祭司は、この傷ついた哀れな男をとおりすぎ、あわててそこから立ち去ってしまいました。レビ人は立ち止まって男を見ましたが、自分にも危険がおよぶかもしれないので、助けようとは思いませんでした。彼は、別の道をとおればよかったと後悔しながら、いそいでそこを離れたのでした。

こうなると、傷ついた哀れな男は、もうだれも助けくれないだろうと思い、あきらめかけていたことでしょう。

ところがその時、さらに別の音が聞こえてきました。こんどは、人間の足音ではありません。パッカパッカという口バの足音でした。いよいよ近くにやってくると、足音は止まりました。それから、人間の足音が聞こえたかと思うと、だれかの手がそっとふれて、やさしい声で語りかけました。親切な男は、血が流れる傷口を注意ぶかく手当てして、もっていた布で傷口をふさいであげました。



それだけではありませんでした。親切な男は、この哀れな男を道ばたに放ってはおきませんでした。傷ついた男を口バに乗せ

て、宿屋につれていってくれたのです。そしてそこで、傷が治るまで泊まれるようにしてくれたのです。33,34 節。

もちろん、この哀れな男のお金は全部、強盗にとられてしまっていました。ですから宿屋のお金は、この親切な男がすべて支払ってくれたのでした。35 節。

かんがえてみよう：強盗におそわれてひどい傷を負った男は、ユダヤ人でした。親切な男は、ユダヤ人でしたか、それともサマリヤ人でしたか？サマリヤ人は、ユダヤ人とはちがう方法で礼拝をしていたので、ユダヤ人は彼らを異教徒のようにあつかっていました。しかし、自分を愛するように隣り人を愛したのは、どちらでしたか？祭司でしたか、レビ人でしたか？それともサマリヤ人でしたか？

きんようび 金曜日

律法の専門家は、だれが隣り人なのかを判断する方法をイエス様にたずねました。イエス様は、本当にあつた話、つまり、強盗におそわれて傷ついた男の話をするので、その質問にお答えになりました。それからイエス様は律法の専門家に、助けを必要としていた哀れな男にとって、だれが真の隣り人になったのかをたずねました。ルカ 10:36。

おそらくパリサイ人たちは、自分たちのことを律法の専門家がどう思っているか、知らなかったのでしょうか。専門家は、彼らの考えや行動が正しいとは思いませんでした。ずっと聖書を勉強してきたので、何

ほんとう ただ し
が本当に正しいかを知っ
ていたのです。それに、パ
リサイ人たちが聖書にした
がっていなかったことは、
たやすくわかりました。

ものがたり き
物語を聞きながら、
りっぼう せんもんか
律法の専門家は、イエス
さま ただ
様が正しいこととまちがっ
たことをしっかり理解して
おられることがわかりまし
た。また、パリサイ人がイ
エスさま たい いた
様に対して抱いてい
かんが
る考えが、まちがっていることもわかりま
した。しかしそれでも、「サマリア人です」
とは答えたくありませんでした。そこで彼
は、イエス様の質問にどう答えましたか？
37 節。

ほんとう よ びと
本当の良きサマリア人とは、だれのこと
ですか？わたしたちを救うために、喜んで
死んで下さったのはだれでしたか？その人
の身分や生まれに関係なく、世界中のす
べての人を愛して、みんなのために死ん
でくださったのはだれでしたか？それは、
ぜんうちゅう おう
全宇宙の王であられるイエス様です。イ
エスさま てん じぶん おうざ す
様は、天にあるご自分の王座を捨て
て、わたしたちを救うために、この世界へ
き くだ
来て下さったのです。

かんが
考えてみよう： 律法学者とパリサイ人は、
かみさま じっかい じしん
神様の十戒にしたがっている自信がありま
した。しかし、本当にしたがついていました
か？もし十戒にしたがついていたら、ほかの
ひと
人たちをどのようにあつかうようになるで
しょうか？わたしたちは、まちがったことを
する人たちの行いを嫌うべきですが、その



ひと
人たちをいつも愛し、彼ら
のため*いの*に祈るべきです。い
つでもイエス様は、そのよ
うになされたのですから。

まな もっと学ぼう！

★ルカ 10:25-37

★各時代の希望 54 章



りょこうき
「スンカのペルー旅行記 その2」

アンナ・ラーセン



伝道者のラーセン夫妻は、飼
い犬のスンカをつれて、伝道集
会を開くためにペルーのある小さい
町に着いたところです。ラーセン
夫人とスンカは、今晚開かれる集
会に、できるだけ多くの人を招待
しなくてははいけません。

ショッピングセンターには、たくさん
の人がいました。「あら、見てよ！」
彼らは言います。「なんてかわいらしい犬！」
「犬の名前はなんていうの？」

「スンカです。さあ、転がって、スンカ！」
わたしは命令しました。すると、すぐにス
ンカはひっくり返りました。見ている人た
ちは大喜びです。

「おやまあ！転がってる。犬が転がれる
なんてすごい！」

「とんで、スンカ。」わたしが腕で輪を
作ると、スンカは見事なジャンプでその輪
を通りぬけました。

「見ろよ！この犬、いろんな技ができる
んだな！」ショッピングセンターを
行きかう人々は足を止めて、この小さな
かしこい犬に感心しています。

「スンカは、ボール遊びもできるん
ですよ」とわたしは言いました。「さあ
おいで、スンカ。ボール遊びしましょ。」

スンカは、なんだか転がりました。それ
は、ボール遊びがしたくてたまらないとい

う、スンカのサインです。わたしは、ス
ンカにボールを投げました。スンカは、ジャ
ンプして鼻でボールを突き、わたしのと
ころへ見事にはね返します。もういちど、同
じようにボールを投げると、スンカはそれ
をまたはね返します。観衆がおどろく
中、ボールはわたしたちの間を行ったり来たり
していました。

「じゃあ、輪をつくってみましょうか。」
わたしは、おどろいて見ている少女に声
をかけました。

「さあ、いくわよ。」どこにボールを
投げたらよいか、わたしにはわかりませ
すし、スンカもわかっています。ボールは、ま
さに少女の立っている所へはね返りまし
た。彼女はおどろいて、少しとまどい
ながらも、ボールをつかみました。

「こんどは、あなたがスンカに投
げてみて。」わたしは少女にほほ笑
みました。スンカがまるで、「はやく
始めようよ！」とも言うように少女
のもとへ飛んできたので、彼女は思
わずボールを投げてしまったよう
でした。

少女が投げて、スンカがはね返した
ボールが、こんどは集まっている人々
のど真ん中に飛んで行きました。ス
ンカはそれを追いかけて、人々の
間をぬうようにして進み、芝生
のある場所へ出ました。ボールを
前に押しながら走るスンカのあとを、

興奮した子供たちが叫びながら追いかけてきます。

なんとというもり上がりでしょう! 『ボールを操る犬が、ショッピングセンターにいる』というニュースは、あっという間に広まりました。

見物人の数はふくれあがり、学校へかよう子供たち、若者、そしてお年寄りまでもが、この犬のボール遊びに参加しています。

この遊びの最大の見せ場にきたとき、わたしは公園のベンチにのぼり、大声でこう叫びました。「みなさん、聞いて下さい!」ショッピングセンター内が静まりかえりました。「よくお聞き下さい! 今晚、町の講堂で、無料の映画上映会があります。」

わたしは、建物を指さしました。「ここにいる皆さん、ぜひ来て下さい!そして、たくさんの人にそれを伝えて下さい!無料の上映会は、町の講堂にて、今夜8時です。スнкаもそこに来ます。」

ワヌコで、無料の映画が上映されることはめったになかったので、このうれしい知らせはまたたく間に町のすみずみまで伝えられました。そして、わたしたちの伝道集會に、おどろくほどの聴衆が集められたのです!また、この集會のすばらしかったことといたら!まず、わたしたちが見せたのは、自然や動物、また健康的な生活に関するいくつかの興味深い映画でした。その次に、聖書の様々な場面を美しい絵で描いた、預言の声のプログラムを見せ

ました。その結果、おおぜいの人たちが、聖書通信講座に申しこんでくれたのです。

スнкаも集會に参加しました。わたしの席の近くに横たわるスнкаに、いろいろな人が声をかけていました。何がどうなっているのか、犬のスнкаにはわからなかったでしょうが、人々をここへ連れてくるという仕事を、スнкаは最高の方法でやってのけてくれたのでした。

(つづく)



だい しょう 第3章

さま かぞく きょうだい イエス様の家族となった兄弟



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^な無くてならぬものは^{おお}多くはない。いや、^{ひと}一つだけである。マリヤはその^よ良い方を選んだのだ。そしてそれは、^{かのじょ}彼女から^と取り去ってはならないものである。」ルカ 10:42

にちようび 日曜日

イエス様が、わたしたちを恐ろしい罪の力から解き放そうとなさるのを、サタンはやめさせようとして、あらゆる手をつくしていませんか？そうですね。サタンの誘惑に負けて、イエス様がいちども十戒にしたがわなかったことがあれば、わたしたちを救うこの計画は台無しになり、人類は永遠に滅びてしまうことをサタンは知っていました。

サタンは、イエス様が生まれになった時から、両親にしたがわせないように、いらいらするように、また自分自身のために奇跡を起こすように、あるいは何であってもとにかく悪いことをさせようとかんばってきました。彼はどうにかして、イエス様が人間になり



きらないように、まちがった道を選ばせたいと望んでいました。

多くの人にとって、自分たちが長い間待ち望んでいたメシヤがイエス様であると信じるのは、むずかしいことでした。サタンが彼らの心に、メシヤがどのようなお方か、また何をして下さるのかについての、まちがった考えをすでに吹きこんでいたからです。彼らは、イエス様が人間でありながら、神様だけができるすごいことを行うかたであることは知っていました。しかし、彼が神様でもあられるとは、とても信じるのができませんでした。

祭司たちと役人たちは、イエス様が神の子ではないと決めつけていました。そのうえ彼らは、イエス様の奇跡がサタンの力によって行われている、とまで言い切ったのです。ところが多く人は、イエス様の話を聞き、すばらしい奇跡を

いくつもみているうちに、かれがメシヤであると信じようになりました。それでもなお、さらに多くのおおひとは、信じようとしませんでした。時には弟子たちでさえも、イエス様がメシヤかどうかをうたがうことがありました。そんな時、イエス様は悲しかったにちがいありません。

時にはイエス様の家族も、かれを疑うことがありました。母親のおおははのマリヤは、イエス様がラビ〔ユダヤ教の教師〕たちの教える「規則」にしたがわないのが正しいことなのか、かくしんがもてませんでした。イエス様が神のみ子であると知ってはいましたが、自分が教えられてきたこととは違うことばかり起こるので、大いに悩んでいたのです。

イエス様の最高の友だちは、天のおとうさまでした。ただし、人間であられたので、さびしさを感ずることもよくありました。ですから、ご自分のことを心から愛し、信頼してくれる人たちと一しょにいたいと願っておられたのです。

かんが **考えてみよう:** 今日わたしたちの世界に、**こどく** **孤独**〔ひとりぼっち〕でさびしい人たちはいますか？イエス様は、**こどく** **孤独**な人の**きもち** **気持ち**をご**ぞんじ** **ぞんじ**ですか？あなたは、そのような人を知っていますか？あなたなら、そのような人をどうやって助けることができますか？

げつようび 月曜日

あ あなたには、すいえ **す** 住む家がありますか？
あ すいえ **す** 住む家がある人は、それだけで

かんしゃ **も** 感謝すべきです。なぜなら、よなか **よ** 世の中にはいえ **いえ** 家のない人たちが**おおぜい** **おおぜい** 大勢いるからです。

ふるさと **ふる** 故郷であるナザレのまち **まち** 町を去った後、イエス様には、住まいと呼べる家がありませんでした。そういうわけで、場所から場所へ**いどう** **いどう** 移動する日々をすごしておられたイエス様は、いつもだれかの家に身をよせて、**しょくじ** **しょくじ** 食事**た** **た**も食べさせてもらわなくてははいけません。弟子になりたいたいとユダが**い** **い** 言ってきたときに、イエス様が何とおっしゃったか覚えていますか？**マタイ 8:20**。

イエス様が行かれるところには、ほとんどどこにでもパリサイ人**ひと** **ひと**やほかのいじわるな人たちがいて、何か問題に巻き込まれるようなことを**い** **い** 言わせたりやらせたりしようとして**ころ** **ころ** 試みしました。イエス様を逮捕して、**しけい** **しけい** 死刑にするための口実がほしかったのです。

そんななか **なか** 中でも、イエス様をいつでも**かんげい** **かんげい** 歓迎し、かれがスパイたちから逃れて**ま** **ま** 全く安心できる家庭がありました。その家は、エルサレムから2キロ半ほど離れた、ベタニヤと呼ばれる小さな町にありました。エルサレムやその近くを訪れるたびに、イエス様は、その家に行くのを楽しみにしておられました。

その家の人たちは、初めて会ったときからイエス様を神の子と認め、かれを愛し信頼しました。彼らと一しょにいるのをイエス様が喜ばれたのも、無理のないことでした。彼らのほうも、どんなによろこんでイエス様をお迎えしたことでしょう！それはラザロと彼の姉妹である、マリヤとマルタの家でした。

かんが
考えてみよう: イエス様は、住む家のない人たちの気持ちを理解しておられると思いますか? あなたは、住む家があることに感謝していますか?

かようび 火曜日

マリヤとマルタは、弟のラザロといっしょに、ベタニヤの家に住んでいました。3人とも、イエス様のことが大好きでした。ただ兄弟とはいえ、それぞれ性格が異なっていたので、イエス様への愛のあらわしかたもだいぶ異なっていました。

マリヤには、イエス様を愛する特別な理由がありました。イエス様に出会う前、彼女はサタンのわなにかかり、ずっとまちがった生きかたをしていました。けれどもイエス様に出会って、変わりたいと思うようになりました。彼女は、自分のしてきたことがまちがいであると知っていました。まちがったことをやめて、正しいと知っていることを始めるのは簡単でしょうか? いいえ、そうではありません。イエス様の助けがなければ、罪から離れることはできないのです。

初めてまちがった行いをやめようとしたとき、マリヤは失敗しました。イエス様は悲し



まれましたが、彼女を叱ることはなさいませんでした。叱るのではなく、彼女のために祈られました。そして、神様に助けを求めつつがんばるようと、励ましてくださいました。それから、サタンはマリヤを放したくなかったので、なんとか失敗しました。しかし、神様はサタンよりも強力なおかたであり、イエス様も彼女を見放したりなさいませんでした。マリヤも戦いつづけました。

マリヤは何回ころみたと思いますか? 7回でした。それでもイエス様は、彼女を叱ることも、やる気をくじくこともなさいませんでした。イエス様はよく、祈る時に涙を流されました。それは人々を愛しておられたからでした。サタンとの戦いに勝利するためには、勝利させて下さるイエス様の力を信じる信仰を持つことが大切だと、イエス様は知っておられました。マリヤは、イエス様が泣きながら、自分のことを天のお父様に話しておられるのも耳にしました。

そしてついに、マリヤは勝利しました。サタンは、彼女を奴隷としてつなぎとめることができませんでした。マリヤは自由にな

ったのです。マルタとラザロも喜んでくれましたが、マリヤがどんなにうれしかったかを知っておられたのは、イエス様だけでした。

かんが
考えてみよう: あなたはこれまで、何かをやめようとしてなんども挑戦した経験がありますか? しかし大変でも、決し

てあきらめないで下さい。あきらめてしまっ
たら、サタンのおも^{おも}の思うつぼです。マリヤを助
けられたように、イエス様は、わたしたち
が戦いに勝利できるように助けることがお
できになります。イエス様に信頼しつづけ
て下さい。そして、戦いつづけて下さい。
そうすれば、イエス様の助けを得て、かな
らず勝利することでしょう。

すいようび 水曜日

マルタとマリヤはまるで性格がち
がっていましたが、ふたりともイ
エス様にきてもらうことを心から喜んでい
て、ふたりともイエス様のお話を聞くのが
大好きでした。

イエス様が家に来られるたびに、まず
マルタは、特別な食事を用意することに
心を向けました。大事なお客様であられ
るイエス様のためには最高のおもてなし
をしたいと思っていたので、失礼がないよ
うに、すべてのことに気を配りました。

一方、マリヤが最初に考えたのは、「ま
たイエス様のお話が聞ける!」ということ
だけでした。彼女はイエス様の足もとに
すわり、お話を一言も聞きもらすことのない
よう、一心に耳をかたむけたのでした。

ある日、イエス様がこの家をたずねる
と、マルタはいつものように、台所であわ
ただしく行ったり来たりしていました。そし
て、マリヤはいつものように、イエス様の
足もとにすわっていました。あまりにも忙
しかったマルタは、イエス様のお話がよく
聞こえませんでした。自分が忙しくしてい

るときに、いつもマリヤはお話を聞いている
だけなので、マルタはいらだっていました。
ルカ 10:38,39。

マルタは、おもしろくありません。「こん
なの不公平だわ!」と彼女は思いました。
マリヤもいっしょに手伝うべきだと思っ
たのです。そのことを考えれば考えるほど、
腹立たしくなるのでした。とうとう、彼女
はどうしましたか? 40 節。

考えてみよう: イエス様が話しておられ
るところへ、マルタがこのように割りこんだ
のは、少し失礼だったと思いませんか? そ
れとも、マルタが怒るのも無理はないと思
いますか? イエス様は何とおっしゃったで
しょう? それは、明日のお勉強でわかりま
す。

もくようび 木曜日

イエス様は、ラザロたちの家にきて
おられました。マリヤは、イエス
様の足もとにすわって、一心にお話を聞
いていました。お姉さんのマルタは、腹
を立てていました。とうとう彼女は、イエ
ス様がお話をしておられる部屋に入っ
て、彼に思いを打ち明けたのでした。

イエス様は最初から、マルタの気持ち
をご存じでした。おそらくマリヤは、マル
タの言うことが本当なので、きまりが悪く
なったことでしょう。たしかに、お姉さん
の手伝いをしなかったのですから。マリ
ヤは、イエス様のお話を聞くことしか考え
ていなかったのです。やさしい表情とお
声で、マルタにお答えになるイエス様の

すがた そうぞう
お姿が想像できますか？ルカ 10:41,42。

おそらくマルタは、すぐさま台所にもどったことでしょう。そこで、しばらく考えこんだはずです。イエス様のお言葉は、どんな意味があったのでしょうか？マルタは、**食事**が大切だということを知っています。彼女は、おいしい料理を作るのが上手だったはずです。ところがイエス様は、マリヤのしていることのほうが、特別な**食事**を作ることよりも大切だとおっしゃったのです。

イエス様が、マルタとマリヤのどちらも愛しておられることを、マルタは知っていました。イエス様がこの家族と過ごすことをよろこばれた理由のひとつは、彼らもイエス様を愛し信頼していたことをご存じだったからでした。彼の言葉を曲げて、わざとまちがった意味にとらえようとする人たちに話すのはちがって、彼らは素直にイエス様の言葉を理解しました。

そのことがあってから、マリヤは、これまでよりもっとマルタのお手伝いをするようになったことでしょう。マルタの料理は、以前と変わらずおいしかったはずですが、準備にあまり時間をかけずにすむような、もっと質素な〔つつましい〕**食事**になっていたことでしょう。

考えてみよう：その日に起こった出来事から、わたしたちは何を学ぶことができますか？



きんようび 金曜日

昨日のお勉強で、イエス様がマルタにおっしゃったことは、とても重要なことですので、それをもういちど考えてみましょう。

まず、イエス様のお言葉を、もういちど読んでみましょう。その一部は、暗唱聖句にもなっています。ルカ 10:41,42。

こんどは、マリヤの選んだ「よいほう」について考えてみましょう。あなたは、イエス様といっしょに過ごすために、よるこんで時間を使いますか？聖書を読んだり、お祈りの中でイエス様とお話したり、安息日学校の教課や暗唱聖句を勉強することは、イエス様の声に耳をかたむけていることになりますか？

毎朝、おいしい朝ご飯を食べること、イエス様とすずかなひと時を過ごすのと

では、どちらが大事ですか？どちらも大事ですね。では、どうすれば、両方とも実行できるでしょうか？早寝早起きをするのはどうですか？

朝の時間に家庭礼拝をするのと、少しだけ遅く起きるのとでは、どちらが大事ですか？夜テレビを見たり、遅くまで起きて遊んだりすることと、礼拝することとは、どちらが大事でしょ

うか？家庭礼拝をつづけられるようにする
ために、あなたは何をすることができます
か？

安息日学校に遅刻せずに出席すること
と、夜おそくまで起きていることとは、
どちらが大事ですか？家族みんなが十分
な睡眠をとって、安息日学校に遅刻しな
い時間に家を出られるようにするために、
あなたは何をすることができますか？

マルタのように、いつも忙しくして役に
立つ人たちは、わたしたちにとって必要で
しょうか？たしかに必要です。しかし、い
そがしい人たちも、毎日イエス様とすごす
ために時間をとる必要がありますか？わた
したちの1日は、朝はマリヤのように、そ
のあとの時間はマルタのように過ごすべ
きです。

かんが
考えてみよう：どうすればマリヤのよう
なれますか？また、どうすればマルタのよ
うになれるでしょうか？それはおそらく、あ
なたの両親が教えてくれるでしょう。また
イエス様も、あなたがそうなれるように助
けてくださいます。なぜなら、わたしたち
はみな、マリヤとマルタのどちらにも似る
必要があるからです。

まな
もっと学ぼう！

★ルカ 10:38-42

★各時代の希望中巻 p. 334-336



めいけん ボールの名犬、スンカその1

アンナ・ラーセン



はなし
話です。

これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお

かに会いにきたのです。それまで、彼らはスンカのことをうわさで聞いただけで、会ったことはありませんでした。

ペペは興奮してふるえながら、あわただしく手をこすり合わせ、着ている緑のセーターを上げ下げしています。「この犬、すごいよ！」スンカがぐるぐるまわりながらボールをあやつるのを、ペペは驚いたように見えています。そしてボールが揺られてペペのところへ向かってくと、彼はそれをつかみました。ところが思いがけず、スンカがペペのおなかの方へ飛び込んで来て強くボールを跳ね返してしまいました。

「うわっ！鼻がとれるかと思ったよ。」後ろへ転んだペペはすり傷を負い、顔を手でおおっていました。それでも、「まったく、

スンカは遊びかたが乱暴だな！」と、すぐにまた遊び始めました。妹たちも同じように興奮して、手をたたいたり、おどおどしながらも遊びに参加したりしています。「ひもをはずして遊ぶのはだめですか？」とペペがたずねました。「そしたら、スンカといっしょにバレーボー

ルーのリマのわが家は、裏庭が高さ2メートルほどの緑の木々の生け垣で囲まれ、パンアメリカン・ハイウェイ〔南北アメリカ大陸をむすぶ幹線道路〕のすぐそばにありました。屋根から庭の中央までとどくほどの棒には、軽くて大きなボールをつりさげていました。お客さんが訪ねてくるときには、そのボールを地面から60センチほど上まで巻き上げて、スンカに、それを鼻で突いたり、歯でかんだりして遊ばせました。スンカが鼻で突いて跳ね上げたボールを、落ちてくるところで何度も見事に跳ね上げる様子は、たずねてきた友人たちをおどろかせました。

ある日のこと、8歳の少年ペペと7歳の妹リタ、4歳の妹ルチアが、家に遊びにやってきました。まあ本当のところは、スン



Art: Modified from Harry Lang

ルみたいなのができるのに。」

「できないことはないわよ」と、わたしは言いました。「でもね、ひもがなかったら、スнкаはボールを生け垣の向こうにある道まで跳ね飛ばしてしまうかもしれないでしょう。そうなったら、車にも、ボールを追いかけるほうにも危ないの。」

しばらくして、わたしたちが客間にすわっていると、ペペがわたしにたずねました。「ねえ、アニーおばさん〔子供たちはみんな、わたしのことを「おばさん」と呼んでいました〕、おばさんはどうやってスнкаにこれほどたくさんの芸を教えたの?」彼は、クッキーを小さくわって、それを全部スнкаにあげました。ペペはスнкаに命令して、寝転がったり、起き上がったりさせています。

リタはペペと同じように、スнкаに感心してこう言いました。「スнкаは、ペルーで一番かしい犬よ。ものすごく高い値段で売られていたにちがいないわ。」

「まあまあ、ふたりとも。」わたしは言いました。「質問はふたつね。まず、どこでスнкаを手に入れたか。あとは、どうやってたくさんの芸を教えたか、でしょ。もしあなたたちがそこから動かずに、しずかにすわっていられたら、教えてあげるわ。」

小さいルチアは、大きないすに足をぶらぶらさせてすわっています。ペペとリタは、じゅうたんの上に心地よくすわっています。スнкаは、ペペの足の間で休んでいました。

(つづく)

だい しょう 第 4 章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

いきそこなつた宴會

あんしょうせいく 暗唱聖句

「おおよそ、^{じぶん たか}自分を高くする者は^{もの ひく}低くされ、^{じぶん ひく}自分を低くする者
は^{たか}高くされるであろう。」ルカ 14:11

にちようび 日曜日

イエス様は、あるパリサイ人の家へ
食事に招かれました。いったいど
ういうことでしょうか？パリサイ人は、イエス
様を嫌っていたはずですが、それなのにな
ぜ、彼らのひとりが、安息日にイエス様を
食事に招待したのでしょうか？イエス様に対
する思いが変わったのでしょうか？とうと
う、イエス様を信じる決心をしたのでしょ
うか？それにしてもなぜ、彼らはイエス様
を見張っていたのでしょうか？ルカ 14:1。

実は、パリサイ人たちは、
イエス様にわなをしかけよ
うと計画していたのです。
彼らは、イエス様の注意を
ひこうとして、ひとりの病人
をつれてきていました。イエ
ス様は、彼らの計画をすで
に知っておられたと思います
か？もちろん、ご存じでした。
2 節。



イエス様は、目の前にすわらされた、
あわれな男をごらんになりました。水腫
〔身体の組織液が異常にたまった状態〕の
せいで、体の一部は腫れて痛みがあるの
が、一目でわかりました。また、そこにい
るみんなが、安息日にイエス様がお
いやしになるのかどうか、様子をうかがっ
ていることもわかっていました。もし男を
いやしたら、イエス様は神様の律法をや
ぶったと、彼らは言うでしょう。そこでイ
エス様は、パリサイ人たちにある質問を
なさいました。3 節。

答えを待ちましたが、だれも口を開きま
せんでした。安息日には人間も動物も助

けてはいけなと律法が
教えていないことを、彼ら
は知っていたのです。結局
イエス様は、あわれな男
をいやして家に帰してあげ
ました。それからパリサイ
人たちに向かって、何と
おたずねになりましたか？
4-6 節。

かんが
考えてみよう：なぜ、みんなだまっていたのでしょうか？自分だったら、安息日であっても餓っている動物をすぐに助けるだろうということ、そこにいた全員が自覚したからですか？動物は人間よりも大切でしょうか？

げつようび 月曜日

イエス様はこの哀れな病気の男をおいやりになり、パリサイ人たちのたくらみを食い止められました。彼らは、イエス様が安息日に男をいやしたことで、彼をうったえたかったのです。

イエス様は部屋中をみまわしました。そこにいたパリサイ人や律法学者の一人ひとりを、イエス様は愛しておられました。彼らが自分を騒ぎにまきこみたいと思っていることをご存じでしたが、みんなが彼を信じるようになって神の国に入ってほしいと願っておられたのでした。自分たちがひどくまちがった選り好みをしていることを、彼らは自覚する必要がありました。

その日、部屋に入ってきた人たちが、それぞれ一番いい席につこうとしていることに、イエス様は気づいておられました。利己的〔わがまま〕な思いをいだくのは間違っていますし、それでは自分が恥をかかすことにもなりかねません。もしも、



自分をえらい人間だと思って特別な席を選んだあとで、もっと偉い客が来たから席をゆずるように言われたとしたら、どうなるのでしょうか？ルカ 14:7-9。

わたしたちが招かれた場所へ入るときには、なるべく下座〔目下の人が座る席〕を選んですわるようにと、イエス様はおっしゃいました。そのあと、わたしたちが心にとめておくべき言葉を語られました。**10,11 節。**

かんが
考えてみよう：11 節の意味を、あなたは説明できますか？わたしたちは、生まれつき自己中心〔わがまま〕ですか？あなたはお母さんから、「あなたがすわっている、その上等ないすを、お客様にゆずり

なさい」と言われたことはありませんか？一番大きいケーキか何かを真っ先にとって、「待ちなさい」と言われたことはありませんか？わりこみをして、ほかの人たちよりも先に入ろうとしたことはありませんか？ほかの人がたずねられている質問に、出しやばって先に答えたことはありませんか？ほかの人よりも、つい自分を優先させようとする

ことはないですか？

かようび 火曜日

パリサイ人の家へ招かれたこの日、イエス様は、自分をだれよりも偉いと思っている人たちに、たくさん

なことを理解してもらいたいと、強く望んでおられました。イエス様は、ご自分が彼らから嫌われていることを知っていたにもかかわらず、みんなを愛しておられました。彼を救い主と受け入れさえすれば、みんなが天国に入れるはずでした。ところが、彼らの求めているメシヤは、実際のイエス様とはまったく異なっていました。彼らの求めている神の国も、イエス様の用意しておられる天国とはまったく異なっていたのです。

その安息日、イエス様が気づいたことは他にもありました。このパリサイ人は、彼が偉い人だと思っている人たちばかりを招待していました。彼は、貧しい人や病気の人、または困っている人たちを招待することなど、考えもしませんでした。この病気の男が招かれた理由は、ただひとつ、イエス様を罾におとし入れるためです。裕福〔お金持ち〕で地位〔身分や立場〕の高い人は、あとで自分のことを招いてくれる、ほかの裕福で地位の高い人たちしか招待しませんでした。しかしイエス様は、このパリサイ人に、反対のことをするようにとおっしゃいました。ルカ 14:12-14。

イエス様が話されるのを聞いていた人たちは皆、それは自分に対して言われていることだと分かりました。け



れども、まちがっているのは自分たちのほうで、イエス様のおっしゃることが正しいと認める人はひとりもいませんでした。

イエス様のお話は、招待客たちをきまり悪くさせました。それまでは、自分たちのしていることが、完全に正しいと考えていたのでした。招待客のひとりが、さつと話題を変えようとしたことについては、明日お勉強しましょう。

考えてみよう：自分が聞きたくないことをお父さんやお母さんから言われた時に、話題を変えようとしたことはありませんか？

すいようび 水曜日

ひとりのパリサイ人とお金持ちの友人たちが、安息日にイエス様と食事をしていました。イエス様が安息日を破っているとうたえるための計画を、イエス様はくい止められました。そしてこん

どは、彼らの聞きたくない大事なことを話されました。すると、だれかが話題を変えようと、別の話を始めたのでした。ルカ 14:15。

天国の話よりも、すばらしい話題はありませんね？おそらくイエス様は、話題を変えようとした人を優しく見つめて、ほほ笑まれたことでしょう。天国にいられるのはすばらし

いことですから、その人の言ったことにまちがいはありません。そしてイエス様は、食事の席にいた人全員が、自分はきっと天国に行けると考えていたのをご存じでした。しかし、イエス様をメシヤ〔救い主〕として受け入れないかぎり、だれも天国には入れないこともご存じでした。彼らは、メシヤの王国についての考えを、まったく変えなくてはなりませんでした。

彼らのうちには、自分たちはユダヤ人だから特別だと考えている人たちがいるのを、イエス様はご存知でした。神様は自分たちの祖先に律法をお与えになったのだから、また自分たちはその律法にしたがっているのだから、とうぜん自分たちは神の国に入れるだろうと思っていたわけです。

またパリサイ人たちは、サマリア人や偶像をおがむ異邦人たちが、神の国に入れるはずはないだろうと考えていました。そのような異邦人たちは、天国の外から中にある幸福そうな神の民を見て、自分たちをうらやむのだろうと思っていたのです。

イエス様は、彼らのこのような考えを変えなくては、と思われました。そこで、ひとつのお話をなさいました。その物語を、みんなが聞いていました。部屋中の人たちは、一言もしゃべらずに、お話に聞きいったことでしょう。

考えてみよう: 神様は、ユダヤ人をご自分の特別な民にしようとご計画なさいましたか? そのとおりです。神様は、救われるのはユダヤ人だけだとおっしゃいました

か? いいえ。ヨハネ 3:16 には何と書かれていますか? 神様がわたしたちすべての人を愛しておられることは、この聖句のどの言葉に表されていますか?

もくようび 木曜日

パリサイ人の開いた食事会に出席していたひとりの人が、天国に入る人はとても恵まれていると言いました。そこに招かれた客たちは、神の国に入るのはユダヤ人だけだと思こんでいるのを、イエス様はご存知でした。そこで、それが真実ではないことを教えるために、ある物語を話されたのでした。ルカ 14:16,17。

物語では、ひとりのお金持ちが、特別な宴会に大勢の人を招待しました。ごちそうが用意され、すべての準備ができると、ひとりのしもべが出ていって、宴会場へ来るようにと招待客らに知らせました。招待された人みんなが、それぞれ言い訳をして宴会に行けないというのを聞いて、しもべはひどくおどろいたことでしょう! 彼らはどんな言い訳をして、宴会へ行くのを断りましたか? 18-20 節。

なんと失礼で、恩知らずな人たちでしょう! しかも、なんとばかげた言い訳だったことでしょう! ある人は、土地を買ったからといって断りました。別の日に土地を見に行くことはできなかったのでしょうか? またある人は、10頭の牛を買ったからといって断りました。別の日に確認しに行けばよかったのではないのでしょうか? ある人は、

新婚ホヤホヤだからといって断りました。
奥さんもつれて行けばよかったですのではない
でしょうか?もっともな理由は、ひとつも
ありませんでした。すべて、言い訳にすぎ
なかったのです。

戻ってきたしもべからこれらの言い訳を
聞いて、主人が怒ったのも無理はありません。
彼が人々を招いたのは、親切心
からでした。しかも、宴会にはたくさんの
費用がかかっていました。また、ひじよ
うに念入りに計画され、もう食事を出す
準備までできていました。しかし今となっ
ては、だれが宴会を楽しんでくれるでしょ
うか?宴会のごちそうを決して無駄にはし
たくない、主人は思いました。

考えてみよう: 招待を断った人たちのこ
とを、あなたはどのように思いますか?

きんようび 金曜日

宴会に招待した人たちの言い訳を
しもべから聞いて、家の主人は何
をしましたか? **ルカ 14:21,22。**

それでもまだ、部屋はあいています。
主人は、これらのおいしい食事をできる
だけ多くの人に喜んでもらうために、しも
べに何をしようかと言いつけましたか?
23 節。

親切な主人は、客の一人ひとりに、た
めらわずに来てもらいたいと思いました。
だれも、恥ずかしがったり、自分はふさわ
しくないと感じたりする必要はありません。
主人は、席がいっぱいになり、みんなが
おいしいごちそうを嬉しそうに食べるのを



見て、喜んだことでしょう。

もちろん、最初に招かれた人たちは、
宴会を楽しむことができませんでした。今
となっては、もう遅すぎました。彼らは、
絶好の機会 [チャンス] を逃したのです。
彼らの席には、ほかの人たちがすわって
いました。 **24 節。**

これらのユダヤ教の指導者たちに、彼
らのためには宴会のごちそうよりもはるか
にいいものが用意されていることを知って
もらいたい、イエス様は願っておられま
した。彼らは毎日、小羊を犠牲にささげ
ていましたが、それは、彼らのために死
なれる神の小羊をあらわしてました。そ
して犠牲制度は、彼らが正しい選びをし
て神の国にはいるために与えられたもの
だったので。

今や、神のみ子は来ておられました。
ところが、宴会に招かれた最初の人た
ちのように、ほとんどの人が、「小羊の
婚宴」への招待を断るために様々な言い

わけ
訳をしていました。黙示録 19:7-9。

イエス様が神の小羊であり、小羊の結婚とは、彼が忠実な民とひとつに結ばれることです。その婚宴〔結婚のお祝い〕は、天国の新エルサレムにて行われます。

また、イエス様の物語のように、真の神の小羊であられるイエス様をこぼみ〔断り〕つづけるならば、天国で開かれる「小羊の婚宴」には出られません。そうなってしまったら、ひじょうに悲しいですね!

かんが
考えてみよう: まもなくイエス様は来られます。その時まで、わたしたち一人ひとりが、神様の国に入るかどうかを選ばなくてはなりません。今も、毎日イエス様を選ぶことによって、やがてすばらしい「小羊の婚宴」にあずかることができるのです。

まな
もっと学ぼう!

★ルカ 14:1-24

★キリストの**実物教訓** 18章



めいけん ボールの名犬、スнка その2 アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スнкаについての、本当にあったお話です。子供たちは、利口なスнкаに、ただただおどろくばかりです。ラーセン夫人は、スнкаが家族の一員になった時のことを子供たちに話しています。

「スнкаは子犬だったころから、ずっとわたしたちといっしょにいるの。だから、いろんなことを教えられたのよ。スнкаのお母さんはとてもすてきな犬で、その犬を初めて見たのが、友人のキャシデイズ一家を訪ねたときだったわ。その帰り、わたしは主人に『彼らの犬、すごくすてきだったわね』って言ったら、主人も『ああ、実にすばらしい犬だったね。僕もいつか、ああいう犬が欲しいなって、ずっと願っているんだ』って言ったの。」

「あなたたちにもスнкаのお母さんを見せたかったわ。かわいらしい、いたずら好きそうな四角い顔で、長いひげがあったのよ。」「じゃあスнкаとそっくりだね。」ペペは、興味深そうに目を大きく見開いています。

「スнкаのお母さんは、何ていう名前だったの?」とリタがたずねます。

「ボニーよ。その名前がぴったりな、とてもきれいな犬だったわ。」

「だから、キャシデイズさんたちが近所にいたおかげで、あのころはとても楽しかったわ。とてもいい人たちで、いつも宗教や聖書の真理について興味深く話していたわ。けれどもある日、彼らがペルーを出てアメリカに帰らなくちゃいけないことを、わたしたちに話したの。わたしたちはちょうど、ボニーといっしょに客間にすわっていたから『ボニーはどうするの?』ってたずねたの。そしたら、キャシデイズ夫人が何て言ったと思う?」

すぐに、リタが答えました。「ボニーを売ってあげるって言ったんでしょう?」

「いいえ。」わたしは言いました。「それよりもいい返事だったの。キャシデイズ夫人はね、ボニーをわたしたちにあげるって言ったの。ねえ、すごいでしょ?とても上品で高級な犬を、ただであげるって言ったのよ。」

「それで、この犬をきっと大事にします、って約束したんでしょう?」とペペは言いました。

「そう、もちろん、すごく大事にしたわ。だって私の夢に描いたような犬だったんですもの。ボニーが死ぬまで、ずっと大事にかわいがったの。」



わたしがちょっとだまると、こどもたちは
かな悲しそうにしていました。そして、リタが
い言いました。「スンカがこんなにすてきな
いぬ犬だから、お母さんのボニーも、きっとす
てきな犬だったんでしょうね。」

スンカはじっとすわって、^{みみ}耳をたてて、
まるでわたしたちの話がわかっているかの
ようでした。

「そうよ」とわたしは^い言いました。「ボニー
の子供なので、スンカは^う生まれたときから
うちの犬よ。ここでちょっと話を^{はなし}もどして、
ボニーをもらった翌日^{よくじつ}に起こったことを話
すわね。」

「ボニーを家につれてきたとき、ボニー
は、明らかに家が^{いえ}気に入らないっていうよ
うすだったわ。わたしたちは、ボニーが
来たことをとても喜んでいるって、いろん
な方法でボニーに^{ほうほう}伝えようとしたの。キャ
シデイズ家の人たちがペルーを去る前日^け
の夜、^{よる}彼らはわたしたちの家で過ごすこと
にしていたから、私は夕食の準備^{つた}をして
いたの。そしたら突然^{とつぜん}、ボニーがいなくなっ
ていることに^き気づいたのよ。」

「いなくなった!？」わが家を訪^やれていた
3人の客は、そろって声^{こえ}をあげました。

「そうよ、家のどこにもいなかったの。ど
うやってかは知らないけど、ボニーは家
を出て、姿^{すがた}を消したの。『ああ、大変なこ
とになった!』^{おも}と思ったわ。わたしは必死^{ひっし}
で名前^{なまえ}を呼びつづけて、道^{みち}へ走^{はし}って出て、
角^{かど}をさがしたりしたけど、ボニーは見つか
らなかったの。作^{つく}っていた料理^{りょうり}はコンロ
の上^{うえ}で丸焦^{まるこ}げになって、主人^{しゅじん}がキャシデ
イズ家の人たちを車^{くるま}でつれて来たときに

は、わたしは泣^ないていたわ。泣く以外^なに
ないでしょ?この親切^{しんせつ}な人たちがせつかく
くれたすてきな犬^{いぬ}を、こんなにも早くなく
してしまったんですから。キャシデイズ家
の人たちが到着^{とちやく}してから、みんなでボニー
をさがしに出^でたの。彼らもわたしたち以上^{いじょう}
に、ボニーのことを心配^{しんぱい}していたでしょう
ね。主人^{しゅじん}は車^{くるま}で、あちらこちらをさがした
けれど、見つからなかった。その夜、み
んな、あまりたくさんごはんを食^たべられな
かったけど、ボニーに対する愛情^{あいじょう}が、わ
たしたちお互い^{たが}の友情^{ゆうじょう}をさらに強くしたか
ら、みんなでいっしょに、ひとりずつお祈
りしたのよ。ところで、いなくなった犬^{いぬ}
のためにお祈りするの、いいことだと思
う?」

「うん、いいことだと思う」と、幼いル
チアが^い言いました。「神様^{かみさま}は、子犬^{こいぬ}たちだっ
て愛^{あい}しているもの。」

「そうね」とわたしは^い言いました。「しか
も、神様^{かみさま}はわたしたちのお祈^{いの}りを聞^きいて
下さっているのよ。次の日^{つぎ}に、太陽^{たいよう}がの
ぼると、主人^{しゅじん}はまたさがしに出^でかけたの。」

「そして見^みつけたんだね!」ペペは、口
をはさまずにはいられません。

「よくわかったわね、ペペ。家の前^{まえ}にあ
る階段^{かいだん}の一番上^{いちばんうえ}に、ボニーはずぶぬれで
汚^{よご}れて、寒^{さむ}さでふるえてすわっていたとこ
ろを見^みつけたのよ。」

「おじさんがボニーをつれてもどって来
た時^{とき}、おばさんはとってもうれしかったん
でしょうね。」「そのとおりよ、ルチア。み
んなとてもよろこんで、神様^{かみさま}に感謝^{かんしゃ}したわ。
でももうそろそろ、台所^{だいどころ}で仕事^{しごと}があるから、

あなたたちはお庭にわでもう少しスンカと遊あそんでらっしゃい。ただし、ボールを絶対ぜったいにひもからはずさないこと、あと、道みちへ出でないこと、これだけは守まもってね。」

(つづく)

だいしょう 第5章



うしな さが だ 失われたものを探し出す

子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{つみびと}罪人がひとりでも悔い改めるなら、^{かみ みつかい}神の御使たちの前^{まえ}でよろこびがあるであろう。」ルカ 15:10

にちようび 日曜日

イエス様がなさることのおおおくは、パリサイ人や律法学者たちにはまるで理解できないようなことばかりでした。彼らは、自分たちが罪人とみなした人たちと交わろうともしませんでした。「あの人はなぜ、罪びとに話しかけるのだらう？」と、驚きあきれていました。彼らが罪びととみなしている人たちと食事をし、助けておられるイエス様が、その人たちを愛しておられるのは、彼らの目にも明らかでした。ルカ 15:1,2。

そしてイエス様は、そんな彼らの考えをご存じで、神様の目には一人ひとりがどんなに大事かを、彼らにも理解してほしいと望んでおられました。さらに、自分たちにもイエス様の助けが必要であることを気づくようにと願って



おられました。彼らはあまりにも高慢〔思いあがって人を見下すこと〕だったので、実は自分たちのほうが、イエス様が交わっておられた人たちよりもひどい罪人であることを知りませんでした。

「たとえ話」とは、ある特別な意味や教訓をふくんだ物語のことで、イエス様は多くのたとえ話をなさいました。先週お勉強した「特別な宴会」の物語も、たとえ話です。このお話では、自分を罪人と自覚している人たちに対する神様の愛を教えてください。また、言い訳をして宴会に来なかった人たちは、自分を罪人ではないと思っている人たちのことです。自分を罪人と認めない人は、神様の国に入ることはできません。このたとえ話を聞いた人たちの中には、心を低くしてイエス様を信じるようになった人もいましたが、ほとんどの人はそうしませんでした。それでもイエス様は、

かれ 彼らのことを愛しておられたでしょうか？彼
ら^{こころ}が心を入れかえて、神様^{かみさま}の国^{くに}に入れる
ようにと望^{のぞ}んでおられたでしょうか？もちろ
んです。

そこでイエス様は、別^{さま}の話^{べつ}をなさいまし
た。こんどは、羊^{ひつじ}の話^{はなし}です。イエス様の
話^{はなし}を聞いていた人^{ひと}の中には羊飼^{ひつじかい}もいまし
ましたし、羊^{ひつじ}を何匹^{なんひき}か飼^かっている人^{ひと}もいました。
イエス様は、ひとり^{ひと}の羊飼^{ひつじかい}と、迷子^{まいご}になっ
た1匹^{ひき}の羊^{ひつじ}の物語^{ものがたり}を話^{はな}されました。3,4
節^{せつ}。

かんが **考えてみよう**：羊飼^{ひつじかい}たちは、夜^{よる}、自分^{じぶん}
の羊^{ひつじ}を小屋^{こや}に入れることがよくありました。
お話^{はなし}に出てくる羊飼^{ひつじかい}は、何匹^{なんひき}の羊^{ひつじ}を飼^かって
いましたか？あなたがこの羊飼^{ひつじかい}だったとし
て、もし1匹^{ひき}の羊^{ひつじ}がいなくなったなら、そ
の1匹^{ひき}のことを心配^{しんぱい}するでしょうか？

げつようび 月曜日

もの **物** ^{ものがたり}の中で、夕方^{ゆうがた}になって、羊飼^{ひつじかい}
は羊^{ひつじ}たちを1匹^{ひき}ずつ小屋^{こや}に入れ
ながら、数^{かず}を数^{かぞ}えていました。「96、97、
98、99匹^{ひき}」と数^{かぞ}えて、そこで止^とまりました。
いや、ちょうど100匹^{ひき}いるはず^{はず}です。1匹^{ひき}
だけいなくなってしまったのでしょうか？も



しかししたら、
数^{かぞ}えまちがっ
たのかもしれ
ません。そ
こで羊飼^{ひつじかい}は、
なんども数^{かぞ}
え直^{なお}しまし
た。ところが、

なんど数^{かぞ}えて
も99匹^{ひき}しか
いないので
す。そこでよ
うやく、羊^{ひつじ}
が1匹^{ひき}いなく
なっているこ



とに気がつきました。どこへ行ってしまっ
たのでしょうか？いったい何^{なに}があったのでしょ
う？きっとほかの羊^{ひつじ}たちからはぐれて、ど
こかで迷子^{まいご}になっているにちがいありませ
ん。もしそうだとしたら、迷子^{まいご}になったと
気づいた羊^{ひつじ}は、今頃^{いまごろ}おびえているはずで
す。迷子^{まいご}の羊^{ひつじ}が、自分^{じぶん}の力^{ちから}で小屋^{こや}へ帰^{かえ}
道^{みち}を見つ^みけることができないのも分^わかって
いました。

もしかしたら、迷子^{まいご}の羊^{ひつじ}は、とげのあ
るやぶから出^でられなくなってしまったのか
もしれません。あるいは、深い穴^{ふか}に落ち
てしま^おって出^でられないのかもかもしれません。
もっとも悪い^{わる}場合は、野生^{やせい}の獣^{けもの}におそわ
れてしまったかもしれないのです。

羊飼^{ひつじかい}はつか
羊飼^{ひつじかい}は疲れ^{つか}きっていました。あたりはも
う暗^{くら}くなっていましたし、嵐^{あらし}になりそうな
天気^{てんき}でした。しかし、そんなことは気^きになり
ません。彼^{かれ}
は、自分^{じぶん}の
羊^{ひつじ}をさがさな
くてはならな
いのです。そ
こで、99匹^{ひき}
の羊^{ひつじ}を小屋^{こや}
に残^{のこ}して、ラ
ンプ^{ランプ}を片手^{かたて}
に暗^{くら}く寒^{さむ}い



よる なか
夜の中、かわいそうな迷子の羊をさがし
で
に出かけたのでした。出かけて行って羊
よ
を呼びつづけ、耳をすませました。しかし
「メー」という鳴き声は返ってきません。

かんが
考えてみよう:あなたは、この迷子の羊
のことをかわいそうだと思いますか?また、
ひつじかい
羊飼のこともかわいそうだと思いますか?
それは、どうしてですか?

かようび 火曜日

イ エス様が話しておられた物語の
なか ひつじかい なに
中で、羊飼は何をしていましたか?
ひるま じかん
それは、昼間の時間でしたか?ルカ 15:4。

ひつじかい やす ある
羊飼は、休まずに歩きつづけました。
くら
暗くてほとんど見えません。とげが羊飼の
て きず ち なが だ
手を傷つけ、血が流れ出しました。ごつ
ごつしたいわやま さか
岩山やけわしい坂をのぼったの
で、足はアザだらけになってしまいました。
あし
それでも羊飼は、羊を呼び、耳をすませ
ました。もし嵐の夜だったら、ずぶぬれに
なっ て す っ か り 冷 え き っ て い た で し ょ う 。

とつぜん、羊飼は立ち止まりました。あ
おと
の音はいったい何だろう?すると、ふたた
びきこえてきました。大きい音ではありま
せんでしたが、羊が彼の声を聞いて、弱々
しい声で答えようとしているのがわかりま
した。かれはすぐに、よ かせ
彼はすぐに、呼び返しました。

ひつじ うご
羊はけがをして動けなくなっているにち
がいないと思いました。暗闇の中、でき
るだけ急ぎ足で羊のところへ向かってい
ひつじかい じぶん
た羊飼は、自分がかかっていることをす
わす
かり忘れていました。そしてついに、いな
くなっていた羊を見つけました!

つぎ ひつじかい なに おも
次に、羊飼は何をしたと思いますか?
ひつじ しか ひつじかい つえ つか
羊を叱りましたか?羊飼の杖を使って、む
りやり自分の前を歩かせましたか?まさ
か、そんなことはしませんね。おびえたか
わいそうな羊をもち上げ、優しく抱きしめ
ました。それから、羊を肩にのせて遠い
みち ある ちや かせ
道のりを歩き、小屋までつれ帰ったのでし
た。5 節。

ひつじかい できごと ゆうじん きんじよ
この羊飼は、その出来事を友人や近所
ひと はな くれ ひつじ み
の人たちに話し、彼らもまた、羊が見つ
かったことをよるこんでくれました。6 節。

びと ゆうじん ひつじかい
パリサイ人とその友人たちは、羊飼が
したように、神様からはなれて迷っている
ひとびと たす くれ
人々を助けるべきでした。しかし、彼ら
はそうしましたか?いいえ。彼らは、自分
のこ と し か かんが
のこ と し か 考 え て い ま せ ん で し た 。 イ エ ス
さま ほんもの すく むし つみびと
様が本物の救い主ならば、罪人のために
じかん おも
時間をむだにするはずはないと思ったの
です。しかしこの物語をとおして、イエス
さま つみびと ひとり てん どうさま
様は、罪人の一人ひとりが天のお父様に
とってかけがえのない存在であることを、
かれ ぎ
彼らに気づかせたのでした。パリサイ人た
ちも罪人でしたか?もちろんです。ローマ
3:23。

ものがたり
この物語のしめくり〔まとめ〕に、イ
エス様は何と言われましたか?ルカ 15:7。

かんが
考えてみよう:もしイエス様がわたしたち
すく こ
を救うために来られなかったなら、パリサ
びと おな
イ人たちもみんなと同じようにほろんだは
ずでしたが、かれらはそれをわかっていませ
んでした。せかい いま
世界には、今でもこのような人
たちがいますか?わたしたちはどうすれば、
そうならずにいられるでしょう?このよう
ひと たす
な人たちを、どのように助けたらよいでしょう

か？

すいようび 水曜日

考えてみて下さい。イエス様が創造
なされた何百万もの世界のうち
で、わたしたちの世界だけがサタンにした
がい、あの羊のように迷ってしまいました。
しかし、神様はわたしたちを愛するあまり、
たとえ話の羊飼がたった1匹の羊を救い
に出ていったように、失われたたった1つ
の世界を救うために、イエス様をつかわ
されたのです。イエス様は、サタンにした
がって道に迷った人間がたったひとりだっ
たとしても、その人を救いに来られたこと
でしょう。イエス様はわたしたちにとって、
真のよい羊飼なのです。

パリサイ人たちは、彼らが罪びとと呼ばわ
りしていた人たちと同じくらい失われてい
ましたか？罪人は、自分が助けを必要とし
ていることを知っています。ところがパリ
サイ人たちは、自分が罪人であるとはまっ
たく思っていないでした。私たちがみんな



が罪人であ
ると、どうし
てわかります
か？もういち
ど、**ローマ**
3:23を讀ん
で下さい。

もしイエス
様がわたした
ちを救いに
来られなかつ

たとしたら、生まれてきたすべての人が滅
びることになるのでしょうか？そうです。な
ぜなら、すべての人が罪を犯したからで
す。

ですから、パリサイ人たちが罪人呼ば
わりしていた人たちも、パリサイ人自身も、
みな罪人だということです。どちらのグルー
プであっても、イエス様だけが彼らを救う
ことのできるお方であると信じるを選びをし
なければ、ほろんでしまうのです。

考えてみよう：多くの人イエス様の
お話を聞きました。自分にはイエス様が
必要なことを知っていたのはパリサイ人
でしたか、それとも罪人と呼ばれる人たち
でしたか？イエス様が愛したのはパリサイ人
でしたか、それとも罪人と呼ばれる人たち
でしたか？あるいは、どちらのグループも
愛しておられましたか？

もくようび 木曜日

迷子の羊のお話の後、イエス様は
別のお話をなさいました。**ルカ**
15:8-10を讀んで下さい。

お話に出てくるこの女性は、おそらく貧
しかったのでしょう。また、彼女がなくし
た銀貨は、ふつうのお金ではありませんで
した。それは彼女が結婚した時に母親か
らもらった、特別なお金でした。それらは、
古いお金だったかもしれせん。彼女の
おばあさんがお母さんにあげたものだった
かもしれせん。だとしたら、この女性の
幼い娘が結婚するときに、それをもらえる
ことでしょう。



ですから
この女性
が、これらの
銀貨をどれ
ほど大切に
していたかが

想像できますね。1枚なくすだけでも大ごとです。ところが、そんなことが起こってしまったのです。

貧しい人々がくらしていた家は、窓もない場合が多かったので、中は昼間でも暗かったはず。ある日、女性は、大切にしまっていた銀貨を見ようと思ってとりだしました。そして、数え始めました。1枚、2枚、3枚、4枚、5枚、6枚、7枚、8枚、9枚…「あれ、1枚足りないわ。数えまちがえたのかしら？」注意ぶかく、もういちど数えてみました。やはり、9枚しかありません。

女性は、とても悲しい気持ちになったことでしょう。大切な銀貨が1枚、どうしても見あたらないのです。いったいどうしたのでしょうか？「ああ、どうか盗まれていませんように！」と願いました。すぐさま明かりをつけました。それから注意ぶかく、床をはき始めました。おそらく彼女の家の床は土だったでしょうから、その上にわらをしいていたはず。当然、じゅうたんのようなものはありませんでした。彼女は、銀貨を見つけることができるでしょうか？

かんが **考えてみよう**：この女性がどんな気持ちだったか、想像で



きますか？床をはきながら、彼女はおそらく泣いていたでしょう。女性にとって、この銀貨がそれほど大切だったのはなぜですか？

きんようび 金曜日

物の語に出てくる女性は、心配でたまりませんでした。なぜですか？

彼女は今、大切な銀貨を見つけようと、一生けん命床をはいています。部屋に置いてあるものをすべて動かして、すみずみまでくまなくさがしました。どこかに銀貨が隠れていないか確かめながら、ひたすらさがしつづけました。そしたらなんと、思いがけないところにありました！必死でさがしていた銀貨が、ようやく見つかったのです！

心をおどらせながら、急いでそれをひろい上げます。ほこりをはらい、それがピカピカになるまで磨き上げます。それから外へ飛び出して、こう叫ぶのです、「ありました！銀貨が見つかりました！」

近所の人たちは、彼女の話を聞いて、そう思っていたことでしょう。もし同じよ

うなことが自分に起きたなら、どんな気持ちになるか、わかったから。女性のよるこびにあふれる声を聞いたかれは、その銀貨を見ようと駆けよってきました。そして、それが見つかって本当によかったと、彼女に言ったのでした。

その日、イエス様のお話を聞いていた人たちは、ハッピーエンドの物語に満足したことでしょ。それからイエス様は、前の物語の最後に言われたのと同じようなことを言われました。なんとおっしゃいましたか？ルカ 15:10。

パリサイ人たちは、イエス様のお言葉の意味がわかっていました。彼らが罪人呼ばわりしている人たちを、神様は愛しておられる、という意味です。しかしそれでも、ほとんどのパリサイ人は、それが真理であると信じたくありませんでした。「あんな連中を神様が愛するとは、とても考えられない」と思ったのです。

しかも彼らは、イエス様がメシヤ〔救い主〕だとは信じていませんでした。ただイエス様を受け入れることによって、神の国に入れるようになるということ、どうしても信じようとしませんでした。彼らは、メシヤと神の国について、まちがった考えを持ちつづけたのです。

考えてみよう：イエス様は、すべての人が彼の王国に入ることを望んでおられましたか？わたしたちはどうすれば、その王国に入るができますか？イエス様の力によって、ほかの人たちが何をしようとも何を言おうとも、わたしたちはイエス様を愛し、信頼し、彼に従うことができます。



まな
もっと学ぼう！

★ルカ 15:1-10

★キリストの**実物教訓** 15章



めいけん ボールの名犬、スнка その3

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スнкаについての、本当にあったお話です。子供たちは、利口なスнкаに、ただただおどろくばかりです。ところが、スнкаはひどいけがを負ってしまいます。

どれくらい時間がたったでしょう。わたしは台所での仕事にすっかり夢中になっていました。とつぜん、車の恐ろしくかん高い「キーーツ」という音が聞こえました。そしてすぐに、リタが駆けこんできて、「おばさん、大変よ、スнкаが飛び出した!」と叫びました。「スнкаとペペが道路に出ちゃったの!」

わたしは玄関から飛び出し、公道へと走りました。恐れていたとおり、スнкаが、たくさんの車がいそがしく行き来している道路の真ん中で、死んだように横たわっているのを見たのです。ひとりの男性が、道路の向こうがわで車をおりました。彼はスнкаの足をつかんで道路をわたり、わたしのほうへ向かってきます。ペペはその人の後ろに立って、服のほこりをはらい落としています。

わたしは、「うちの犬を、

そんなに乱暴に運ばないでください!」と仰いました。

男の人は、「らんぼうだって?犬はもう死んでいますよ!」と仰いて、スнкаをわたしの前に放り投げました。わたしはスнкаを抱き上げ、腕でそっとかかえました。

彼はつづけて、「犬をあんなふう道路に放したらだめじゃないですか。それから、その気がい坊や!」と仰いて、ペペのほうに向き直りました。「あやうく、君までひき殺されるところだったんだよ。もう二度と、道路に飛び出してはいけないよ。」

ペペは、うつむいたまま立っていました。あまりにもショックが大きかったようなので、わたしはペペを叱りませんでした。ただ彼の肩に腕をまわして、こちらのほうに引きよせました。

わたしは男の人に、「本当に、申しわけありませんでした」と仰いました。「この子の命を守ってください、ありがとうございます。」



庭にあるピクニック用の椅子に横たわっているスнкаを囲んで、わたしたちは悲しみにくれています。

「ペペがね、ボールをひもからはずしたのよ」とり

夕が言いました。「遊んでいたら、急にス
ンカがボールを強くはねとばして、ボール
が生け垣をとびこえちゃったの。そしたら
スンカが、やぶを通りぬけてボールを追
いかけて。」彼女は、生け垣の穴を指差
していました。そしてさらに、泣きながら
こう言いました。「スンカが死んじゃった
よ!」

ペペはまだ、うつむいたままです。何も
言いません。ただ時々、その小さな手で、
汚れた顔をつたって流れ落ちる涙をぬ
ぐっています。わたしが言うまでもありま
せん。ペペは、わたしの言いつけにした
がわなかったことの恐ろしい結果を、痛
いほど感じていたのです。幼いルチアは、
ただ立って泣きつづけています。

はじめのショックが次第にうすれると、
わたしまで泣きたくなくなりました。
スンカの頭の片側は、ひどく打ったあとが
あり、車がものすごい勢いでスンカをは
ねたことがわかりました。わたしはその小
さな体をさすり、「かわいそうに。わたし
のかわいいスンカ」と、つぶやきました。
「あなたは、本当にすてきな・・・」

え?まさか?いえ、たしかに感触があり
ました。わたしは、「あらまあ、スンカの
心臓が動いているわ!」と叫びました。そ
して、涙にぬれた顔でほほえみました。「ス
ンカは生きてるのよ!」

わたしは、「ああ神様、ありがとうございます」とささやきました。そしてすぐに、「どうかこの小さな犬をいやし、ふたたび健康にしてあげてください」と心の中で祈りました。横たわっている犬のまわりで

立ったまま、わたしたちが「スンカ、ス
ンカ」と呼びかけていると、何と、スンカは
目を開き、短いしっぽをふりました。

子供たちは、歓声をあげました。「ス
ンカが生きてる!」と叫んでいます。

しかしすぐに、スンカは意識を失い、
死んだようになりました。意識をとりも
どすまでに、長い時間がかかりました。
主人が帰って来た音を聞いて、スンカは
立ち上がって彼をむかえました。しかし、
ぐるぐるまわることしか出来ず、また倒れ
てしまうのでした。

主人は、「しばらくたったら良くなるよ」
と言いました。「かなり強くはねられたん
だろう。」

ありがたいことに、数日後、スンカは
すっかり元気になりました。かなり痛い目
にあって、大切なことを学んだはずです。
それからというもの、わたしたちはスンカ
に、道路に出ないように言うことはあり
ませんでした。このことがあってから、ス
ンカはとても注意ぶかくなりました。そし
て、小さな3人のお友だちも、あの日ス
ンカが死にそうになったことと、服従〔従
うこと〕についての教訓を一生忘れないで
しょう。

(つづく)

だい しょう 第 6 章

うしな ふたり むすこ 失われた二人の息子



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実
で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義か
らわたしたちをきよめて下さる。」1ヨハネ1:9

にちようび 日曜日

あ あなたは今までに、敵と味方に分
かれて争うゲームをしたことが

ありますか？そのようなゲームは、ふつう
片方が勝って、もう片方が負けますね。
あなたがボール遊びをしていて、あなたの
チームが負けたとしましょう。「あなたの
チームは勝ちましたか？」とたずねられた
ら、おそらくあなたは「いいえ、負けまし
た」[英語では「失った、なくした、迷った」
という意味にもなる]と言うでしょう。

サタンと
イエス様と
の間のはげ
しい戦いに
おいては、
わたしたち
一人ひとり
が、どちらの
側につくか
を選びます。



イエス様とサタンの、どちらが勝利します
か？もちろんイエス様です。サタンは敗北
し、彼の側につくことを選んだ人たちは、
失われる「滅びる」ことになります。彼ら
は指導者を選びまちがえたために、天国
に入れなくなるのです。

イエス様は、先週学んだふたつの物語
の中で、「失われる」ことについての人々
の理解を助けようとしておられました。ま
た、彼が一人ひとりを愛しておられること
を知るように、そして彼らがみな天国に入
れるようにと望んでおられました。イエス
様の味方につくことを選ぶならば、わたし
たちはかならず勝利できるのです。

多くの人、イエス様のお話に出て
来た迷子の羊のようになっています。
彼らは自分が道に迷ったことに気づい
ていますが、迷子の羊のように、自分
ではどうすることもできないのです。彼
らには、サタンから来る多くの誘惑を
はねのける力がありません。そして、
それはわたしたちも同じです。ですか
ら私たちに、いつでもだれでも助け

とくださるよいひつじかいひつよう
てくださる良い羊飼が必要なのです。

またほかにも、なくなった銀貨のよう
に、自分が失われた状態にあること、また
自分がだれかにとって大切な存在である
ことに気づいていない人たちがいます。
しかし、だれもがイエス様にとって大切な
存在で、イエス様は私たちみんなを救い
たいと望んでおられるのです。イエス様
は、わたしたちの罪をゆるすことも、わた
したちが彼に似る者となれるように助ける
こともおできになります。

どちらのたとえ話も、神様がすべての
罪人を愛しておられることを教えていま
す。このふたつの物語は、人々が罪を悔
いて助けを求めるとき、神様はおよろこび
になることを教えています。それぞれの話
の終わりに、イエス様は何とおっしゃいま
したか？ルカ 15:7,10。

考えてみよう：本人が変わりたいと望ん
でいても、これまであまりにもたくさんの悪
い事をしてきたために、イエス様が助け
られないということはあるでしょうか？いい
え。そんなことは決してありません。

げつようび 月曜日

イエス様は「失われたもの」に
ついて、もうひとつのたとえ
話を語られました。こんどは、ふたり
の兄弟とやさしい父親の話です。ルカ
15:11。

このふたりの兄弟は、まるで似てい
ませんでした。兄の方はいつも従順
〔すなおで逆らわないこと〕で、たより

になる存在でした。時間をむだにしませ
んでしたし、だれかと言いつ争うこともあり
ませんでした。不平、不満を言うこともあ
りませんでした。父親はおそらく、兄に対
して、仕事のことであれこれ注意する必要
もなかったことでしょう。兄は成長するに
つれて、父親の農場での仕事に精を出し
て働くようになりました。

ところが、弟はまるで正反対でした。彼
はわがままでした。自分がしたいことを
父親がさせてくれないので、よく不平、
不満を言っていました。父親は自分に何
の楽しみもゆるしてくれない、と思ってい
ました。この息子にとって、父親はただ「こ
れをするべきだ」とか「これはすべきで
ない」などと言っているだけのように見え
ました。

彼は成長するにつれて、どうしても家を
出たいと思うようになりました。そうすれ
ば、自分のしたい楽しいことが、何でも
自由にできます。けれどもお金がなかつ
たので、それはかないませんでした。彼
がやりたかった遊びをやるには、大金が
必要でした。

ある時このわがままな弟は、よい考え
を思いつきま
した。父親
が亡くなつた
ら、父のお金
と財産のすべ
てが自分と兄
に分けられる
ことを、彼は
知ってしまし



た。自分の分け前になるはずの財産を、父親が生きている間にもらえないだろうかと思ったのです。そうすれば、弟は家を出て自分の好きなことができます。そこでとうとう、彼は勇気を出して、父親にお願いすることにしました。

考えてみよう: あなたはこの弟をどう思いますか? また、兄のことをどう思いますか?

かようび 火曜日

物の語の中の父親は、悲しんだと思いますか? 彼は、ふたりの息子のどちらも愛していました。息子の住む家や必要なすべてのものを父親が与えていたのにもかかわらず、弟のほうは、それほど父親を愛していなかったようです。父親は、息子がどうすれば幸福になるのか、またどうすれば不幸になるのかを知っていました。それで、何が正しくて何が正しくないかを息子に教えようと思いました。ところがこの息子は、自分のやりたいようにやると言いはるのです。とうとう、父親はどうしましたか? **ルカ 15:12**。

下の息子は、よろこんだと思いますか?

もちろんです。いよいよ自由になれるのですから。おそらく彼は、喜びいさんで荷物をもつめ、さっさと



みんなに別れを告げて、旅立ったのでしよう。ついに自由を手に入れた、と思いましたが、これからは、なんだって自分のしたいことができます。

ところで兄のほうは、弟が出て行ったことを悲しんだと思いますか? そうではなかったかもしれません。兄は、父親がなまけ者の弟に財産を分けあたえたことをよく思っていないでしたが、不平は言いませんでした。いずれは自分も、財産をもらえることを知っていたからです。

心をいためた父親は、下の息子が大変なまちがいをしていることを分からせようしました。けれども、彼ももうおとなです。すすむ道は本人に選ばせるしかありません。道を下って行く息子を見送る父親の目には涙があふれ、彼が遠くに見えなくなるまで、そこに立っていました。それからゆっくりと、家にもどりました。手遅れになる前に、サタンがいかに恐ろしく残酷であるか気づいてくれるようにと願うばかりです。もし気づかなければ、愛する息子は永遠に失われてしまうのです。この息子が遠いところへ行ってしまったあとも、父は祈り、待ちつづけていたと思いますか?

若者は、家から遠くはなれたある町に来ていました。だれにもあとを追ってきてほしくはありませんでした。自分の楽しみを台なしにするようなことが、あってはなりません。

彼がたくさんお金をもっていることを知った遊び人たちは、すぐに彼の友だちになりました。もちろん、本当の友

だちではありません。彼のお金で遊ぶために、友だちのふりをしていたのです。お金さえあれば、町には楽しいことがいくらでもありました。

かんが
考えてみよう: サタンは、何がわたしたちを幸せにするのか、本当のことを教えてくれるでしょうか？自分を幸せにしてくれるとあなたが思っている、両親が、「それはよくない」と言ったことはありませんか？

すいようび 水曜日

この物語の弟は、長い間、自分はその楽しい人生をおくっていると自分に言い聞かせていました。しかし一方で、自分がまちがっていることにも気づいていました。時々、父親や家のことを思い出したかもしれません。それでも彼は、愚かな生きかたをつづけて、家や父親のことを忘れようとしたのです。ル

カ 15:13。

そのころ、予期していなかったことが起きました。父親からもらったお金を、すべて使いはたしてしまいました。お金はもうありません。けっきょく、すべ



てむだに使ってしまったのです。

でもきっと、友だちが助けてくれることでしょう。友人である彼らのために、たくさんのお金を使ってあげたのですから。ところが、お金がなくなると同時に、友だちもいなくなっていました。彼らは本当の友だちではなく、ただ、自分たちが楽しむために、彼にお金を使わせたのです。自分たちのお金を使ってまでは、彼とつきあう気はありませんでした。それから、さらに悪いことが起きました。14節。

おそらく彼は、食べ物を買うために、持ち物を売れるだけ売ったことでしょう。しかし飢きんがやってくると、食べ物の値段がはねあがります。仕事もありません。りっぱな着物も、ぼろぼろになってしまいました。

そしてじきに、乞食のように落ちぶれてしまいました。これからどうすればいいのでしょうか？

かんが
考えてみよう: あなただったら、この若者になんといえますか？

もくようび 木曜日

この物語に出てくる若者は、働くことが好きではなかったはずですが、ようやくある人が彼をやとてくれました。どんな仕事でしたか？ルカ 15:15。

彼は、ブタの世話をすることになりました。それは、ユダヤ人が考えられる仕事の中で、いちばんひどいものでした。ブタにさわってもいけないと

かみさま い
神様から言
われている
のに、より
によってブ
タの世話
をするので
す。それだけ
はありませ



ん。雇い主は、彼に十分な食べ物を与えませんでした。それでいつもお腹をすかせ、日に日にやせていきました。16節。

そんなある日のこと、ブタの世話をしていっていると、すばらしい考えが頭に浮かびました。まるで、眠りからさめたような気持ちでした。彼は、父親の使用人たちでも食べる物が十分にあったことを思い出したのです。父親に頼みこめば、その使用人のひとりに雇ってもらえるかもしれません。自分には助けをもらう資格がないことは分かっていたのですが、それでもたのんでみようと思ったのです。そして、父親になんと言ってお願ひしようかと考えました。

17-19 節。

若者はブタ飼いの仕事をやめて、わが家に向かって歩き始めました。まるで乞食のような姿になっていることは、自分でもよくわかっています。見るからに不潔で、服はぼろぼろで、靴ははいていません。「お父さんは僕と口をきいてくれるだろうか？」彼は、そんなことを考えていました。

若者は、父親がどれほど自分のことを愛しているか、まるでわかっていませんでした。父親はいつも息子のことを祈り、望みをすてず、遠くをながめては、息子

の帰りを待ちつづけていました。家の見えるところまで若者がたどりついたときに、何が起きましたか？ 20 節。

息子はとてもよごれていましたが、父親はまったく気にせず彼を抱きしめ、キスをしました。若者は泣いていたことでしょう。それから、彼は父に對して言うべきことを思い出します。ところが、練習してきたその短いせりふを、終わりまで語ることはできませんでした。21-24 節。

それからは、あつという間にいろんなことが起こりました！気がつくとき、食事の用意がととのえられ、若者はみちがえる姿になっていました。ぼろぼろの服ではなく、すてきな服を着せられています。足には靴をはき、髪は洗われて、きれいにとかれています。ああ、なんということでしょう！彼は自分の父親について、わが家について、また自分が追い求めた楽しみや快樂について、ひどくまちがった考えを抱いていたのです！

考えてみよう：この父親が息子にしたように、生きかたを変えてイエス様にたちかえる選びをした人々を、イエス様はよろこんで迎えて下さいますか？

きんようび 金曜日

ついに、下の息子が帰ってきました！ところで、弟とはまるでちがう選びをした兄はどうしたでしょう？みんなが弟の帰りをよろこび祝っているときに、兄は畑仕事からもどってきました。弟のた

めに歓迎会がひらかれて
いることを聞かされた彼
は、どんな気持ちでした
か？ルカ 15:25-28。

父親は急いで上の息子
のところへ行き、宴会に
参加して弟を歓迎するよ
うながしました。ところが、
上の息子は何と言
いましたか？それを聞いて、
父親は何と言いまし
たか？29-32節。

イエス様は、ここで話を終えられました。
なぜでしょう。それは、パリサイ人た
ちに、彼らがこの兄のようであることを知っ
てほしかったからです。この上の息子も、
父親を心から愛してはいませんでした。そ
してパリサイ人たちも同じように、神様の
ことを心から愛してはいませんでした。彼
らは、神様の律法にしたがうことによって、
神の国に入る権利を得ていると思ってい
ました。しかし、彼らが罪人と呼んでい
る人たちよりも、彼ら自身のほうがもっと
罪深かったのです。彼らは高慢〔思いあ
がって人を見下すこと〕でした。高慢な
人は、自分がほかの失われた罪人と同じ
状態にあることを知る必要があるのです。
救われるために必要なのは、わたしたち
を救ってくださるイエス様に信頼すること
です。律法に従うことによって救われるの
ではありません。

考えてみよう：十戒にしたがうことは
重要でしょうか？それは大切なことです。
では、安息日学校や礼拝に行くことは



大切でしょうか？それらも
大切です。しかし、これら
のをおこなうことによっ
て天国に行けるわけでは
ありません。イエス様は私
たちのために人となられて
人生をおくり、わたしたち
のために死んでくださった
という真理を受け入れるこ
とによってのみ、わたした
ちは天国へ入ることができ
ます。そして、イエス様がわたしたちの心
に住んで下さるとき、わたしたちもイエス
様を愛するようになり、十戒にしたがうよ
うになるのです。

まな もっと学ぼう！

★ルカ 15:11-32

★キリストの実物教訓第16章



やけんほかくいん あみ
スンカと野犬捕獲員の網 その1
アンナ・ラーセン

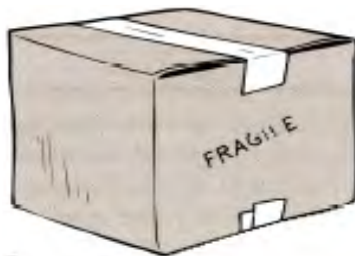


これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻と一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。

伝道犬スンカは、郵便屋さんが嫌いなのか、もしくはかなり危険な侵入者だと思っているようです。

「いったい何の用があって、うちにやってくるんだ？」と思っていたのでしょうか。郵便屋さんは、しょっちゅう来るといっわけではありません。というのは、ほとんどの手紙が郵便局の受取り箱に入れられたからです。たまに郵便屋さんが来ると、玄関の扉をノックするか、チャイムを鳴らすだいたい前に、スンカは大きな声で、その到着を知らせました。郵便屋さんが扉の下に手紙を荒っぽく入れると、スンカは狂ったように怒りました。その手紙をさっとくわえて、乱暴にふりまわすのです。もし外に出ることさえできたら、郵便屋

さんを取りおさえたことでしょう。一度か二度、本当にとりおさえたことがありました。郵便屋さんは、かなりおびえていました。彼はとび上がった、自分の前で配達用



のかばんをゆさぶったり振り回したりして、わたしが助けに行くまで、怒り狂った犬から身を守らなくてはなりませんでした。

わたしは、「やめなさい、スンカ。どうしてこんなことするの?」と喋ってスンカを叱りました。わたしの雷が落ちるのがこわくて、スンカはしぶしぶ命令にしたがいました。

おびえた郵便屋さんは、「おくさん、お宅の犬は手がつけられませんかよ」とうったえました。「いいえ、本気で人を傷つけることはありませんよ」とわたしは答えました。「とにかく、悪い人たちからこの家を守らなくては、という思いでいっぱいなんですよ。」



ある日、どうしたのか、スンカは郵便屋さんを追いかけるのを忘れたようでした。優しいような男性が、大きな箱の荷物を持ってきて玄関の階段におろしました。その荷物は、うちで働いているお手伝いさんのマルハの実家がある、森の中の小さな町から送られてきたものでした。ジャングルの湿気とコケの匂いにすっかり魅了され、スンカは鼻をククンさせています。箱の穴のひ

とつの匂い^{にお}をかいたあと、中^{なか}をじっと見^みています。中^{なか}で何か^{なに}が動^{うご}いたようです! スンカの耳^{みみ}がピンと立ちました。好奇心^{こうきしん}のせい^めか、目^めを大きく見開^{おひら}いています。それから、もういちどのぞきこみました。たしかに、中^{なか}で何か^{なに}が動^{うご}いています。いったい何^{なん}でしょう? ジャングルの動物^{どうぶつ}でしょうか? スンカは一方^{いっぽう}から箱^{はこ}に向^むかってほえ、また別の角度^{べつかくど}からほえたりしています。今^{いま}や、箱全体^{はこぜんたい}が動^{うご}いているように見えます。スンカは、しきりに激^{はげ}しくほえています。

「ちょっと、どきなさい」といって、マルハが犬^{いぬ}を横^{よこ}へ押しやりました。彼女^{かのじよ}は、「あなたのじゃないんだから」と言^いって箱^{はこ}をもち上げ^あ、裏庭^{うらにわ}へと運^{はこ}びました。スンカは彼女の横^{かのじよ}でとびはねています。

「さあ、もう家^{いえ}に入^{はい}って。言^いったでしょう? これはあなたのもんじゃないのよ。」マルハは犬^{いぬ}を後ろ^{うし}へ追^おいやって、扉^{とびら}をバタンと閉^しめました。

マルハとわたしが箱^{はこ}を開^{ひら}ける様子^{ようす}は、スンカから見^みえています。スンカとおなうに、わたしたちも箱^{はこ}の中身^{なかみ}が何^{なん}なのか、興味津々^{きょうみしんしん}でした。スンカを家^{いえ}の中^{なか}へ閉^とじ込^こめておくなんて、わたしたち、けっこう意地悪^{いじわる}ですね!

(つづく)

だい しょう 第7章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

もうじん 盲人バルテマイと ほか ばなし その他のたとえ話

あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしは大いなる獲物を得た者のように、
あなたのみ言葉を喜びます。」詩編 119:162

にちようび 日曜日

目が見えないというのは、大変なこと
とです。あなたも今までに、目隠
しをして行うゲームに参加したことがある
かもしれませんね。あるいは、目の見え
ない人のまねをしたことがあるかもしれま
せん。短い時間なら楽しいかもしれませ
んが、見えない状態でずっとすごしたいと
は、きっと思わないでしょう。

エリコという町からほど近いところに、
ふたりの目の見えない物乞
い〔物を恵んでもらって
生活する人〕がすわって
いました。マルコが書いた
福音書には、そのうちのひ
と、バルテマイのことがし
るされています。ではこれ
から、彼の物語を勉強して
いきましょう。

バルテマイは、盲人をい
やすことのできるお方がい
らっしゃると聞きました。そ



して、そのおかたにお会いしたいと、ど
れほど願ったことでしょう! イエス様なら
自分の目をいやしてくださるにちがいない
と、バルテマイはかたく信じるようになり
ました。ほかの盲人たちと同じように、バ
ルテマイは目が見えるようになりたいと、
心から願っていたのでした。

イエス様はちょうど、バルテマイがす
わっているその道を通して、エリコを去る
ところでした。その時、イエス様はおひと
りでしたか? マルコ 10:46。

ふだんから、人々はバルテマイの前を
通りすぎていくのですが、
その日はいつもより大勢の
人が歩いているのが、彼に
もわかりました。道行く人
たちのようすが、いつもと
はちがうことがわかったの
です。

通りかかった人に、「こん
なに大勢の人がとおって行
くのは、どうしてですか?」
とたずねました。答えを聞
いたバルテマイは、何をし

ましたか？ 47 節。

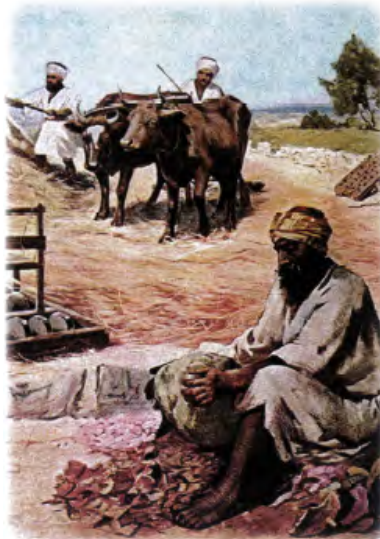
間もなく、イエス様がそこを通りかかりました。見ることのできないバルテマイでも、大きな声は出せます。そして、彼は叫びました。

かんが **考えてみよう**：私たちは目の見えない人
たちを気の毒に思い、いつの日か天国に
入れれば、そのような人でも幸せになれるだ
ろうと考えます。しかしバルテマイは、そ
のときこの地上で、またとないチャンスにめ
ぐりあったのでした。あなたがバルテマイ
だとしたら、どんな気持ちだったでしょう？

げつようび 月曜日

も **盲** 人バルテマイは、イエス様の名前
を大声で呼び始めました。それも
そのはずです！これは彼にとって、いやさ
れるための一生にいちどのチャンスでした
から。その叫び声があまりにも大きかった
ので、人々は彼をだまらせようとしてしま
した。バルテマイは、まわりの人たちから注意
されて静かになりましたか？いいえ。それ
どころか、さらに大きな声
で叫んだのでした。マルコ
10:48。

イエス様のまわりには
大勢の人がいたので、そこ
はかなりさわがしかったは
ずですが、そのような中で、
助けを求めるひとりの訴え
を聞くことができたのでし
ょうか？はい。盲人バルテ
マイの声は、しっかりイエス



様の耳にとどいたのです。そして、「彼を
ここへつれて来なさい」と言われたので
す。

このお言葉を聞いた何人かが、バルテ
マイにこう言ったことでしょう。「これでもう
大丈夫だよ。さあ、イエス様のところへ行
きなさい」と。49 節。

次に何が起こったか、想像できますか？
バルテマイは上着を脱ぎすててぴよんと
立ち上がり、おそらくだれかに手を引いて
もらいながら、はやあしでイエス様のとこ
ろへ行ったはずでした。50 節。

バルテマイが近づいてくるのを、イエス
様はほほえんで見ておられたことでしょう。
イエス様は彼に何とおたずねになりました
か？そしてバルテマイは、何と答えました
か？51 節。

「ラボニ」とは、「先生」または「偉大
なるおかた」という意味です。以来、イ
エス様はバルテマイの「ラボニ」となられ
ました。彼はもう、盲人でも物乞い〔物
を恵んでもらって生活する人〕でもありま
せん。彼は、イエス様の信奉者〔信じて
あがめ、したがう人〕となっ
たのです。52 節。

かんが **考えてみよう**：別の意味
で、盲人になるとい
うことはありますか？警告〔注意〕
されても、まちがったことを
しつづける人のことも、「目
の見えない人」と言えるで
しょう。パリサイ人たちは、
目の見える人たちでした
か？それとも、目の見えな

い人たちでしたか？彼らは、イエス様の教えに心の目を閉ざし、盲人になることを選びました。イエス様ご自身とその王国についての真理を、彼らは知りたくありませんでした。今の時代にも、このような人たちがいますか？

かようび 火曜日

イエス様は、ご自分がどういっておかたか、神の国とはどんなところか、またどのような人がそこにはいるかを理解させようと、人々を教え、助けておられました。人々が知る必要のあることがらについて、物語を話すことによってわかりやすく説明なさいました。そのひとつに、パンを作るお話がありました。

あなたは、パンが好きですか？パンにも、実にいろいろな種類がありますね。ほとんどのパンは、小麦粉と水と塩、そして油でつくられています。生地〔粉をこねあげたもの〕には、レーズンやナッツ、ほかにも何かおいしいものを加えることができます。しかし、パンを作るのにかならず必要な材料は何ですか？

パンをオーブンで焼くときに、その必要なものが生地に入っていないければ、たとえおいしそうなパンの形をしていたとしても、同じ大きさのまま、ふくらむことはありません。そして、とつてもかたくなってしまいます。いったい、何が足りないのでしょうか？答えは、イースト〔パン種〕です。少しばかりのイーストを水と粉に混ぜ

れば、生地全体にそれが行きわたり、パンをふくらませることができます。パンがふっくらと焼き上がると、オーブンからとり出します。イエス様は、パン種〔イースト〕について何とおっしゃいましたか？**マタイ 13:33。**

イエス様のお話を聞きにあつまった群衆の中には、あらゆる種類の人たちがいました。裕福な人や貧しい人、無学の人や賢い人、病気の人や健康な人、乞食や泥棒、その他たくさんの人たちがいました。イエス様のもとに集まった人たちを見たパリサイ人たちは、彼らがどうして神の国に入れるのか、ふしぎに思いました。

イエス様が彼らに理解してほしかったのは、神様の愛にはイースト菌のような作用があるということでした。パン種が生地をふっくらとおいしいパンに変えるのと同じように、わたしたちがどんな人間であろうと、これまでにしてきたことが何であろうと、心に入った神様の愛はわたしたちを変えてくれます。神様のすばらしい愛と力によって、わたしたちはイエス様に似る者となれます。わたしたちも、人としてこの地上で生活なさったときのイエス様のように、親切で愛情ぶかく、従順で忍耐強く寛大な〔思いやりがあって人を責めない〕人間になれるのです。

考えてみよう：イエス様に似る者となるために、いつも心にイエス様をむかえ、助けていただきたいと思えますか？それによって、あなたの行動にどんな変化があらわれるでしょうか？

すいようび 水曜日

イ エス様が話されたもうひとつの物語は、宝物をみつけた人についてでした。わたしたちは、宝さがしのゲームをすることがあるかもしれませんが、物語に出てくる男はゲームではなく、畑仕事をしていました。当時の人たちは、どろぼうや強盗やその他の敵から宝を守るために、それを土の中に埋めて隠すことがありました。

地中に宝を埋めた人たちは、おそらく、隠し場所をだれにも知られないように、できるだけ気をつけたことでしょう。しかし、もしその人が急に死んだり、敵の捕虜になってつれて行かれたり、あるいは年老いて宝のことをすっかり忘れてしまったりしたら、宝はどうなるのでしょうか？ほかのだれも、それがどこにあるかを知らないため、宝は隠された場所にずっと残されたままです。

物語の男は、作物を育てるための土地を借りました。畑を耕していると、とつぜんすき〔牛や馬に引かせてたがやす道具〕が何かかたいものに当たりました。

最初は、それを石だと思ったはずですが、それはずっと前にだれかが隠した宝物でした。もしかすると、それは

金貨の入った箱だったか
もしれません
ね。それが
何だったにせ



よ、その宝があれば、お金持ちになることにまちがいはありません。

この男がどんな気持ちだったか、想像できますか？彼はどうかして、この宝を自分のものにする方法を考えなくてはと思いました。だれにも見られていないのを確かめてから、急いでそれを地中にもどし、土でおおいました。これでだれも、ここに特別なものがあるとは気づかないでしょう。それから彼は、あとでもういちど見つけられるように、どこに隠したかを確かめました。

考えてみよう: 家へ帰る道を急ぎながら、彼はどんな計画を立てていたと思いますか？

もくようび 木曜日

イ エス様は、宝を見つけた男の話
をなさいました。男は、宝を自分のものにする方法をさぐっていました。この宝があれば、お金持ちになれるからです。

帰る道を歩きながら、何をすべきかを考えました。宝を自分の物にするには、畑を買いとらなくてははいけません。しかし、彼は、畑をかうための十分なお金をもっていましたか？

まず男は、畑の値段を調べました。しかし、畑をかうだけのお金を得るには、家と持ち物



のすべてを売り払わなくてはなりません。
また、畑を買ってしまうまで、だれにも宝
の話を話してはいけません。

男は家に帰るなり、妻と子供たちに、
今耕している畑を買うことにしたと告げま
す。なぜなのか、家族の者たちには想像
もつきません。さらにこの畑の値段を聞い
た彼らは、ひどくおどろいたことでしょう。
自分たちに、それだけの大金がないこと
を知っているからです。

それでも男は、何としてもこの畑を買わ
なくてはならないと言ひ張ります。住んで
いる家、財産、持ち物すべてを売り払っ
ても、畑を買うというのです。家族の者
たちは、必死にその決心を変えさせよう
としたかもしれませんが。また、そのことを
知った近所の人や友人たちまでも、彼は
気が狂っていると思ったかもしれません。

だれか、この男の決心を変えることがで
きましたか? いいえ。男には、その畑を
買うべきたしかな理由がありました。

かんが
考えてみよう: あなたなら、この男と同
じことをしたと思いますか? それはなぜで
すか?

きんようび 金曜日

いえ とすべての家具や持ち物を売っ
たその日、男の妻と子どもたち
は、ずっと泣いていたことでしょう。しか
し男は、家族がもうすぐ大喜びするのを
知っています。

畑が自分のものになるとすぐに、男は
家族をそこへ連れて行ったはずで。宝

のありかは、もうわかっています。ふたた
び注意ぶかく掘り起こし、箱を開けます。
家族の者たちは皆、思わず息をのんだに
ちがいありません。目の前の光景が、ま
るで信じられないのです。しかも、これ
らの宝物は、すべて彼らのものなのです。
ひとつ残らず。

家族の者たちが、先ほどとはうって変
わって喜ぶようすが、目に浮かびますね。
あわれな貧乏人になってしまったと思っ
ていたのに、実は大金持ちになっていたの
です。これはまぎれもない、ハッピーエン
ドの物語です。 **マタイ 13:44**。

イエス様は人々に、とても大切なことを
理解させようとしておられました。本当の
宝は、神の国です。物語の男は、宝を手
に入れるために、どれだけのものを手放
さなくてはなりませんでしたか? もってい
るものをすべて、手放さなくてはなりませ
んでしたね? それは、見つけた宝が、彼
の持っているどんなものよりも、はるか



に価値のあ
る物だった
からです。
宝物の価値
を知ってい
た男にとっ
て、全財産
を手放すの
は大変な
ことでした
か? いいえ。

イエス様
は救い主で

あられるという真理しんりを自分たちが信じてい
なかつたことひとびとに人々が気づくよう、イエス
様は望んでおられました。また彼らが、神
の国くにとイエス様についてのまちがった考
えすを捨てないために、真の宝しんを見失みうしなって
いることを分かってほしいと、イエス様は
願ねがっておられました。

かんが
考えてみよう：イエス様さまを信じて信頼しんらい
する人なら、だれでも神の国くにに入ることがで
きますか？そのとおりですね。子供こどもでも、
正しい選えらびをすることが出来るでしょうか？
もちろんです。子供こどもでも、ほかの人ひとが正
しい選えらびをするように、お手伝てつだいできます
か？はい、もちろんです。あなたはどのよ
うな選えらびをしていますか？また、どうやって
ほかの人ひとたちを助たすけようとしていますか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 13:33-44

★マルコ 10:46-52

★キリストの**じつぶつきょうくん** 実物教訓 7-8 章 **しょう**



やけんほかくいん あみ スンカと野犬捕獲員の網 その2

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。

前回のお話では、スンカが、郵便屋さんがもってきた箱の匂いをかいでいました。

箱はマルハの母親から送られてきたもので、どうやらマルハもこのことを知っていたようです。中には手紙が入っており、箱の中身はミセス・アニータさんへの贈り物だとの説明が書かれていました。

マルハが、それを箱からとり出しました。

それは、1羽の大きな、美しい、若い雄鶏〔おすのニワトリ〕でした。茶色と黄色で、しっぽは赤みがかかった金色、また頭には派手な赤色のトサカがありました。

スンカは中庭の扉を乱暴に引っかきながら、目を大きく見開き、あわれな声でクンクン鳴いていました。せっかくの楽しいひと時を、ガラスの扉の向こうに閉じこめられて過ごすなんて、残念ですな！雄鶏は長くて黄色い足をのぼしました。両方の足を糸でしばられているので、少しずつしか前に進めません。



マルハの母親は、宣教師の家庭で、娘が野菜ばかりの食事をさせられていることを、少しかわいそうに思ったようです。それで、いつもの食事とはちがう、おいしくて栄養のあるものを食べてほしいと思い、1羽の上等なニワトリを送ったのでした。正直わたしは、マルハもこの作戦の共犯者ではないかと疑っていましたが。

「じゃあ、おいしいスープの準備をしましょうよ」と、マルハが提案しました。

「いいえ」と、わたしは言いました。「このニワトリをどうするかを決める前に、主人が帰ってくるのを待ちましょう。」主人は、ボリビアへ旅行に出かけていました。

スンカは、中庭へ通じるドアのところに何時間もすわりっぱなしで、自分の縄張りに入って来たこの奇妙な生き物の動くようすをじっと見えています。雄鶏が不器用に小さく跳ねるたびに、また、羽をバタバタさせるたびに、ほえていました。

マルハは、しょっちゅう中庭をとおらなくてはいけませんでした。雄鶏に穀物を食べさせたり、わざわざスンカの水入れから水をとってあげたりしていました。

スンカは一日中、そこから動きませんでした。何も食べず何も飲まず、ひたすら

だい しょう 第 8 章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

で き ラザロよ、出て来なさい

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{はか なか}墓の中^{もの}にいる者たちがみな^{かみ こ こえ き}神の子の声を聞き、…
^{せいめい う}生命を受け^でるためによみがえり…^{とき}出てくる時^くが来るであろう。」

ヨハネ 5:28, 29



にちようび 日曜日

さて、ラザロとその姉妹、マルタとマリヤの家へもどってみましょう。彼らはイエス様の特別な友人で、エルサレムから3キロほど離れたベタニヤの町に住んでいました。初めてイエス様にお会いしたときから、彼が約束のメシヤである、心から信じていました。しずかで平和な彼らの家を訪れるのを、イエス様がお好きだったのもうなずけますね！彼らと過ごすときは、ご自分がどういっておかたであるかを理解させるために、特別な物語を話す必要はありません。彼らは、もうすでに分かっていたから。

そんなある日、ラザロがとつぜん病気になってしまいました。マリヤとマルタはけん命に看病しましたが、ますます具合が悪くなっていくのがわかりました。ふたりは、ラザロのことを愛しておられるイエス様なら、当然彼を助けようとなさるだろうと思ったので、知らせの使いを送りました。ヨハネ 11:1,3。

使いの者がイエス様のおられるところへ着くまで、まる1日はかかるはずでした。それからイエス様をつれてもどってくるのを、姉妹は期待していました。ラザロは死にかかっている、イエス様だけが彼をいやすことができるのを、姉妹は知っていました。ところが、知らせを受けたイエス様は何とおっしゃいましたか？ 4節。

イエス様がベタニヤの3人の友人を愛しておられることを知っていた弟子たちは、イエス様がラザロのことを心配したり、マルタとマリヤがどんな気持ちでいるかを気づかたりするようすがないのを見て驚きました。イエス様が、今いる場所にと2日とどまるとおっしゃるので、使いの

ものはひとりでベタニヤにもどりました。5,6節。

かんが 考えてみよう: つかいの者が、イエス様と
いっしょではなく、ひとりでもどってきたの
を見て、マリヤとマルタはどう思ったでしょ
う? イエス様は、ラザロのことを本当に気
にかけておられなかったのでしょうか? イ
エス様は、いつもわたしたちのことを気に
かけてくださいますか?

げつようび 月曜日

ラザロは重い病気にかかっています。ラザロの姉妹は、イエス様がきっと助けに来て下さると信じていました。でも、使いの者がもどって来ると、イエス様はいっしょではありません。それでも、ラザロの心臓が動いている間に、イエス様はきっと来られるだろうと思っていました。ところが、ラザロの心臓は止まってしまいました。愛するラザロが、死んでしまったのです。

なぜイエス様が親しい友だちをすぐに助けようとなさらないのか、弟子たちは理解できませんでした。彼らはラザロのことを考えていました。しかし、まる2日間、イエス様はラザロのことを話題にも



なさいませんでした。弟子たちは、イエス様がバプテスマのヨハネの命を助けなかったことを

思い出しました。大切な友人が辛い目にあっているのに、イエス様は何とも思われないのだろうか? ふたたび、イエス様に
対する疑いがわいてきました。

ベタニヤでは、マリヤとマルタが悲しみに暮れ、なぜイエス様
が来られなかったのかを理解できずにいました。それでもふたりは、イエス様がメシヤであることと、彼がラザロを愛しておられることについて、何の疑いも抱きませんでした。彼女たちは、今でもイエス様を愛し、信
頼していたのです。

2日たってから、ついに、イエス様は何とおっしゃいましたか? **ヨハネ 11:7**。

弟子たちはこれまでよりも、ますますわからなくなってしまいました。ベタニヤの近くには、イエス様の敵が大勢住んでいました。8節。

けれどもイエス様は、まったく恐れていないようでした。天の神様のご計画にしたがうことは、夜中ではなく、昼間に道を歩くようなものだということです。それから、イエス様は別のことも言われましたが、弟子たちにはそれが理解できませんでした。9-15節。

かんが 考えてみよう: 弟子たちのイエス様についての理解と、マリヤとマルタのイエス様についての理解とのちがいは、何でしたか?

かようび 火曜日

イエス様の最愛の友であった、ラザロが亡くなりました。それなの

にイエス様は、ご自分がそこに居合わせなかつたことをよるこんでいる、とまで言われました。しかも今になって、ラザロのところへ行くとと言われるのです。おかしい話ではないですか？弟子のトマスは、ベタニヤの近くに敵が多くいることを考えて、何と言いましたか？ヨハネ 11:16。

ベタニヤに来てみると、おおぜいの人たちがマリヤとマルタの家に集まっています。中にはイエス様の敵である。ユダヤの指導者たちもいました。17-19 節。

さわがしい泣き屋〔葬式で泣くためにやとわれた人〕たちの声がラザロの家から聞こえてきたので、イエス様は家には入らず、マリヤとマルタへ使いをやって、ご自分が到着したことを伝えさせました。さわがしい大勢の人たちの中で、彼女たちと話したくなかつたのです。

使いの者からの知らせを聞いたマルタは、急いで部屋を出ましたが、マリヤはその知らせを聞いていませんでした。

イエス様にお会いできたことを、マルタはどれほど感謝したことでしょう！しかし、もう少し早くイエス様が来て下さったなら！20,21 節。

マルタの言うことにまちがいはありません。イエス様がいて下さったなら、ラザロは死なずにすんだでしょう。イエス様は、命を救うおおかた、また命を与える



おかたですから。もしイエス様がラザロと共にいて下さったなら、死は、ラザロから命をうばうことはできなかつたはずです。

イエス様は、特別な目的のために、そこに居合わせなかつたのでした。大好きな友人ラザロのために、奇跡の中でも最高の奇跡をおこなおうとしておられたのでした。この奇跡が、イエス様が神様のみ子、救い主であられることを証明するのです。

かんが **考えてみよう:** とてもつらいことが起こったとしても、わたしたちはイエス様に信頼することができますか？

すいようび 水曜日

ラザロが死んでから、イエス様はベタニヤにもどって来られました。しかしイエス様にお会いした姉のマルタは、今でも彼にまったく信頼していることを言いあらわしました。ヨハネ 11:22-27。

これは以前、イエス様がご自分を愛し信頼する人々に対して、おおかた語りになった言葉でした。死は眠りのようなものである、ということば言葉です。イエス様のご再臨の前に亡くなる人たちは、ご再臨のときにイエス様によって目覚めさせられるのです。

おとうと
弟にまた会えるこ



とを思ったとき、おそらくマルタの涙は止まったことでしょう。彼女は家にもどりました。このことをマ

リヤに伝えなくてはなりません。イエス様は、マリヤともお話しなされたいはずですから。28-32節。

マリヤの行動と口から出た言葉は、姉のマルタとまったく同じものでした。イエス様はマリヤをごらんになり、それからふたりの姉妹をなぐさめに来た人々をごらんになりました。イエス様の心は、あわれみにみちていました。

まもなくすばらしい奇跡をおこなおうとしておられたイエス様でしたが、奇跡とは別のことを考えておられました。そしてそのことが、ラザロの死よりもはるかに、彼を悲しませていました。イエス様が考えておられたのは、カインがアベルを殺したときから、ご自身が再臨なさる時までつづく、すべての悲しみのことでした。すべてのつらい悲しみ、痛み、苦しみ、そして死—特に、イエス様を受け入れない人々にふりかかる恐ろしい死について、イエス様は考えておられました。

イエス様は、世界中のすべての人を愛しておられました。まもなく、すべての人のために死のうとしておられましたが、ほとんどの人は彼の死を、自分たちに永遠の命を与えるものとして受け入れ

ないでしょう。このことを思ったとき、イエス様の心は張りさけそうになりました。33節。

考えてみよう: 何か悪いことがわたしたちの身に起きるとき、または、わたしたちがまちがった選**えら**びをするとき、イエス様は今でも悲しまれますか? イエス様は、わたしたちを助けたいと思**おも**っておられますか?

もくようび 木曜日

イエス様は、マルタとマリヤをなぐさめようとしておられました。しかし同時に、イエス様を受け入れないために滅びてしまう人たちのことを思い、悲しんでおられました。

ラザロが葬られた墓に向かう途中、イエス様がなぜ悲しんでおられたのか、その本当の理由を知っている人は、だれもいませんでした。人々は、どう思っていましたか? ヨハネ 11:34-36。

中には、イエス様がおこなわれた数々の奇跡のことを考えている人たちもいまし

た。イエス様なら、ラザロを助けることができたはずなのに。なぜイエス様がそんなさなかつたのか、彼らには理解できませんでした。37節。

まもなく、みんなは墓場に



やってきました。墓はほら穴になっていて、入口が石でふさがれていました。38節。

イエス様は、天使に命じて、石を動かしてもらったこともできたはずですが、でも、そうはなさいませんでした？だれが、墓を開けるのはよくないと思いましたか？それはなぜでしたか？39節。

マルタは、イエス様がラザロの遺体をごらんになりたいのだろうと考えましたが、墓の中はもうくさくなっているはずですが、でも、イエス様は何とおっしゃいましたか？40節。

力持ちの男たちが石をどけると、イエス様は、顔をあげて天をあおがれました。その場にいた人たちは、彼が天のお父様とお話しなさるのを聞き、その顔が光輝くのを見ました。イエス様の本当の父親が神様であられることが、よくわかりました。中には、イエス様が神様を「お父様」と呼んだので、石を投げつけようとする者もいました。彼らは、イエス様がサタンに手伝ってもらって奇跡を起こそうとしている、とまで言いました。しかし今や、彼らの言ったことが真実でないのは明らかでした。

考えてみよう： 願いをかなえてくださるよう神様に祈ったとしても、なおも私たちのなすべきぶんがあることを、この物語のどの場面が教えていますか？イエス様に従順でいられるように助けて下さいと祈った後で、お母さんから食べないように言われているクッキーを食べようサタンに誘惑されたとしましょう。言いつけを守らずにクッキーを食べようとしたら、

天使は、クッキーへ伸ばしたあなたの手をたたくでしょうか？そうはしません。「食べないで下さい」と言うのは、あなたの良心です。従うことを選ぶとき、イエス様は助けて下さいますか？もちろん、いつでも助けて下さいます。

きんようび 金曜日

ラザロが死んでから、もう4日がたっていました。ところが、イエス様は短い祈りを終えると、墓の中を見つめ、はっきりとした大きな声で、ラザロに話しかけたのです。ヨハネ 11:43。

おおぜいの人々が、静かにそのようすを見守っていました。すると、ラザロが起き上がって墓から出てきたのです。彼の体は布で巻きつけられていたので、歩くのが大変でした。それでも墓の入口までやってきて、そこに立ちました。顔に巻きつけられた布をはずそうとして、手を動かしていました。

人々はおどろきのあまり、だまってその光景を見ていることしかできませんでした。ラザロは生きています。イエス様は、近くにいた人たちに、体に巻きつけてあ

る布をはずしてあげるように言いました。44節。

おそらく、マルタとマリヤが真っ先に走ってきて、愛する



おとうと ぬの
弟の布をはずしてあげたことでしょう。そ
してきっと、3人はその場で抱き合っにん ぼ だ あてよ
ろこんだことでしょう!ラザロはもう、病びょうき気
ではありません。彼の体は、健康そのもかれ からだ けんこう
のになっていました。ラザロと姉たちは、
イエス様さまに心こころから感謝かんしゃしました。

そこにいたほとんどの人たちは喜ひと よろこび、
神様かみさまを賛美さんびしていました。ただし、みん
なが喜よろこんだわけではありません。そこに
はイエス様の敵さまたも何人なんにんかいて、一部始終いちぶしじゆう
を見ていました。ほとんどの人ひとが、イエ
ス様さまは本当ほんとうに神様かみさまのみ子こであるとすなつとくっか
り納得なつとくしているのを見て、彼らはこれまで
以上いじょうに腹はらを立て、憎にくしみにみみたされてい
ました。彼らはすぐにそこを離はなれて、パリ
サイ人びとのところへ行いったのでした。

興奮こうふんした人々ひとびとは、あたりを見回みまわしてイエ
ス様さまをさがしましたが、イエス様さまはもう、
しずかにその場ばを去さっておられました。

かんが
考えてみよう: その日ひイエス様さまは、彼かれを
救すくい主ぬしとして受けいれる人ひとたちにとって、
死しはどのようなものであると証明しょうめいなさいま
したか? この物語ものがたりが、あなたにイエス様さまを
もっと愛あいし、信しんらい頼らいしたいと思おもわせるのはな
ぜでしょう?

まな
もっと学ぼう!

★ヨハネ 11 : 1-44

★ 各時代かくじだいの希望きぼう 58章しょう



やけんほかくいん あみ
スンカと野犬捕獲員の網 その3

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。前回のお話の中で、スンカは雄鶏

〔おすのニワトリ〕のことをもっと知ろうとしていました。

そんなことをして、1日が終わってしまいました。わたしとマルハが、このおかしな光景を笑っているのをよそに、スンカは新しいお友だちをじっと見つめ、うなりながら、少しずつ近づいて行きます。雄鶏は地面をひっかき、ニワトリ独特のおかしなやり方でえさを食べ、水を飲み、しばらくすると、「クワツクワツ」と鳴きました。スンカが近くにいることに、気づいてさえいないようです。

「ほらマルハ、見てちょうだい。本当におかしいんだから。」わたしは開いたままの扉のそばに立って、笑いながらこの光景を見ていました。マルハは、手に汚れたぞうきんをもったまま、急いでやってきました。

ついに、スンカが近くまで来ました。もうニワトリにさわられるほどの距離です。そ



れまでスンカは腹ばいですすんでいましたが、こんどはゆっくりしずかに、体をもたげて中腰になり、ほんの少し雄鶏にさわろうと鼻の先を伸ばしています。雄鶏に土をひっかけられて、スンカは後ずさりしました。

それから、ふたたび挑戦が始まりました。はいつくばって、どんどん近づいてきます。あっ、ほんの少しだけ、雄鶏の羽にさわりましたよ。でも、あら、あわれな鳴き声!スンカは鼻をつき上げ、痛みのあまり「キャン!」と鳴きました。それから、走って行きました。しっぽを巻いて、あわれな鳴き声をあげ、廊下を走りぬけ、寝室へ向かって階段をのぼり、ベッドの下の一番奥の角へもぐりこみました。

スンカが忍耐して仲良くなろうとしたこの奇妙な新しい仲間は、するどいくちばしでスンカの鼻に一撃を食らわせたのでした。この奇怪な鳥は何も言いませんでしたが、明らかにその態度で、「俺様にさわんな」と語っていました。マルハとわたしは大笑いしました。

「こんなにおもしろいものは、見たことがないわ!」わたしは前かがみになって、笑いで体をふるわせながら、両手でお腹

をかかえていました。

マルハは、「そうですね」と、エプロンで涙をぬぐいながら言いました。「かわいそうなスンカ。でも、きっとこれで懲りたはずですよ。わたしも、こんなにおかしなものは見たことがありません。」

「まさに、好奇心が災いしたのね」と私は言いました。

次の日になって、スンカはようやく中庭の近くにやってきました。しかし、またもスンカ的好奇心がだんだん強くなり、ついに恐怖心を征服しました。そしてこの奇妙な生き物とお友だちになるための挑戦が、ふたたび始まりました。スンカが、この「怪物くん」〔わたしたちが雄鶏につけた名前〕とついに仲良くなるまで、わたしたちはずいぶん楽しませてもらいました。犬とニワトリがお友だちになるまでには、数日かかりました。実際に、彼らがいっしょに遊ぶことはありませんでしたが、近づいてにおいをかいだり、お互いにくすぐり合ったりしていました。

ボリビアからもどった主人は、この勇ましい、新しいペットに感心していました。それからある朝、主人が事務所へ出かけた後、悲劇は起こりました。玄関のチャイムが鳴り、小さな手がドアをはげしくたたいています。

(つづく)

だい しょう 第9章 さま こども イエス様と子供たち



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「幼な子らをそのままにしておきなさい。
わたしのところに来るのをとめてはならない。
天国はこのような者の国である。」 マタイ 19:14

にちようび 日曜日

イエス様が子供たちを愛しておられることは、言うまでもありませんね。子供たちはイエス様の近くにいるのが大好きで、決して恐がることはありませんでした。イエス様が子供たちにむけられる笑顔は格別でしたし、まなざしも特別で、いつもできるだけたくさんの子供たちを抱きしめておられました。お母さんたちが、イエス様のところへ子どもたちを喜んでつれて行ったのも、うなずけますね！

あるお母さんは、いつも子供のために祈っていましたが、何とかしてかわいいわが子をイエス様のもとへつれて行き、祝福していただきたいと思っていました。けれども、イエス様のおられる場所が遠すぎました。子供づれで遠くにおられるイエス様のところまで歩いて行くのは、どうてい



無理だと思っていました。

そんなある日、イエス様が近くにきておられるということを、この母親は耳にします。近くといっても、歩いて行くにはまだ遠いのですが、とにかく行ってみることにしました。おそらく彼女は、お弁当をたずさえ、すぐに子供といっしょに出かけたことでしょう。

母親と子供は、近所の家々の前を通りすぎながら、イエス様に会いに行くことを近所の人たちに話しました。近所の人たちは、「わたしたちも行きたい」と言いました。おそらく彼らも、子供たちを呼び、

お弁当をたずさえて出かけたことでしょう。じきに、母親と子どもたちの集団ができあがりしました。みんなではこりまみれの道を下って行きます。皆、イエス様に会えるのがうれしくて仕方ありません。

かんが 考えてみよう：その日、あなたも彼らといっしょに行きたかったですか？それ

はどうしてですか？

げつようび 月曜日

母親と子供たちの一団は、ほこりだらけの道を歩いて、イエス様がおられるところへ向かって行きました。近くへ来ると、イエス様が大勢の群衆に囲まれているのが見えます。彼女たちは、イエス様のお話をさげろうとしましたか？

実のところイエス様は、すでに彼女たちをごらんになっていました。そして、これらの母親たちがどれほどわが子を愛して、彼に祝福していただきたいと願っているのかもご存知でした。彼女たちは、自分の子供がイエス様を愛し、神様の役に立つ人物に成長するようにと願っていました。まさにイエス様も、子供たちがそうなることを願っておられました。しかしまず、弟子たちがどうするのか、ようすを見ようと思われました。

子供づれの母親たちを見た弟子たちは、彼女たちがそこに来た目的がわかると、首を振って道のほうを指さしました。こんな人たちに、イエス様の

じゃまをさせてはならないと考えたのです。子供よりも、イエス様のお話を聞いている大人のほうが大事だと思ったのでした。マルコ 10:13。

がっかりした母親たちの目には、涙があふれてきました。彼女たちの願いは、イエス様にわが子を祝福してもらうこと



だけでした。そのために祈り、思い切ってここまで来たのに、弟子たちが追い返そうとするのです。

イエス様は、そのようすを静かに見ておられました。それから、断固とした口調で語られました。弟子たちのとった行動が、イエス様の思いとはちがうことが、だれにでも分かりました。みんなの前で、イエス様は弟子たちをやめさせたのです。母親に連れてこられた子供たちは、イエス様にとって、追い返すにはあまりにも大切な存在でした。そしてさらに、これらの子供たちのようにならなければ、だれも神の国にはいることはできないと言われたのでした。14,15節。

考えてみよう：イエス様は大人たちと同じように子供たちを愛しておられることを、あなたはうれしく思いますか？イエス様は、当時の子供たちになされたのと同じように、今でも子供たちを祝福したいと思っておられるでしょうか？また、あなたがイエス様に祝福されることを願い、まもなく来られるイエス様の王国にあなたが入るのを心から願う両親がいることを、あなたは神様に感謝していますか？

かようび 火曜日

わが子をイエス様に祝福してもらいたいと願って、母親たちの一団がやってきましたが、弟子たちはこれらの親子づれを追い返そうとしました。しかしイエス様

は、弟子たちをとめて、子供たちをご自分の近くに呼び集めたのでした。イエス様が、つかれた赤ん坊をひざに乗せると、赤ん坊はすぐに小さな頭を横たえて眠ってしまいました。



ひとりずつ、次々にイエス様は子供たちを抱き寄せました。祝福するときには、子供たちの頭に手をのせました。イエス様を恐がる子供はひとりもいません。これまで出会ったおとなたちの中で、イエス様はもっとも愛情ぶかくて、やさしくて、おだやかなかたでした。マルコ 10:16。

イエス様は、ご自分が幼かったころに何が好きだったのか、よく覚えていました。もしかすると、子供たちが飼っているペットのことをたずねたのかもしれませんがね。もしかしたら、けがをしたところをイエス様に見せた子供がいたかもしれません。イエス様は花をつんで、神様がどれだけ完ぺきに美しくこれらを創造なさったかを、子供たちに示してあげたかもしれません。子供たちは熱心にイエス様のお話に聞き入り、ただイエス様のそばにすることをよろこんでいました。

帰り道、母親たちの心は軽くなり、よろこびにあふれていたことでしょう。また子供たちも、それぞれ特別な思い出ができました。彼らは、このすばらしい日のことを決して忘れないでしょう。

イエス様も、決して忘れませんでした。イエス様が天国へもどられたのちに、

聖霊がこれらの子供たちに注がれました。その中のある者は、成長してイエス様のため の強力な働き人となりました。彼らは熱心に、ほかの人たちがイエス様について知り、神の国にふさわしい者になるおてつだいを手伝いをしました。その中には、イエス様のために命を捨

てた人もいました。

天国での楽しい日々を考えてみて下さい。彼らはふたたび、イエス様にお会いするでしょう。そして彼らは、あの日イエス様が、自分たちのために時間をとってお話をなさり、祝福まで下さったことを、あらためて感謝することでしょう。イエス様は、彼ら一人ひとりの名前をご存知です。イエス様が彼らの名前を呼んで、一人ひとりを抱きしめる光景を想像できますか？

考えてみよう: あなたがお祈りするときには、イエス様とお話しているのです。たとえ目には見えなくとも、イエス様はそこにおられるのです。はるか昔、この地上におられたように、今も私たちのそばにおられるのです。ですからいつでも、イエス様にお話することができるのです。イエス様はあのころと同じように、今でも子供たちを祝福したいと望んでおられます。それに、彼はあなたの名前もご存じなのですよ。

すいようび 水曜日

イエス様は弟子たちに、子供たちが大切であることをお示しになりました。幼な子のようになることがどれほど大事であるかについて、あの日、イエス様が話されたことを覚えていますか？マ

ルコ 10:15。

小さい子供たちは、お父さんとお母さんが自分のことを大事にしてくれると確信しています。彼らは、両親が食べ物や服を与えてくれて、さまざまな危険から守ってくれることを知っています。

小さい子供たちは、ほかの子たちの肌や髪や目が何色なのか、お金持ちか貧乏か、足が不自由か、目が見えるかどうか、などは気にしません。

しかし、イエス様の弟子たちは、幼な子のようにではありませんでした。弟子たちは今でも、ほかの国からきた人たちを異教徒とみなし、彼らのことを嫌っていました。弟子たちはまた、イエス様がこの地上で王国をうち建て、自分たちをローマ人の支配から解放して下さると考えていました。その時には、イエス様が王様となり、自分たちは彼の重臣〔身分の高い家来〕にしてもらえると。

弟子たちは時々、その新しい王国では、だれが一番えらい地位につくかについて、言い争うことがありました。もちろん、イエス様に聞こえないようにしていましたが、イエ



ス様はそのことをご存知でした。

考えてみよう：子供たちは、どのようにしてわがままにならない練習ができますか？いくつか考えてみてください。

もくようび 木曜日

弟子たちは時々、とても自分中心でしと〔人をうらやみねたむこと〕ぶかくなり、イエス様の王国ではだれが一番えらい地位につくのかと、互いに言い争うことがありました。ヤコブとヨハネの母親は、わざわざイエス様のところへ来て、息子たちを一番高い地位につけてくれるように頼んだこともありました。**マタイ 20:20,21。**

ヤコブとヨハネは最初の弟子たちで、イエス様は彼らを愛しておられました。しかし彼らは、自分たちが本当に何をお願いしているのかまるでわかっていないことを、イエス様はご存じでした。じきに彼らは、大いに失望することになります。わたしたちの救いのために、イエス様が死なれるのです。それなのに、イエス様がどんなにそのことを前もって話しても、弟子たちは信じようとしませんでした。**22節。**

イエス様は、「えらくなりたい」という弟子たちの思いを変えてあげたいと、強く望んでおられました。そこである日、カペナウムへ向かう道中で、ふたたび弟子たちのまち

がった^{おも}思いを^か変えようとなさったのでした。
弟子^{でし}たちはイエス^{さま}様の^{ある}うしろからついて歩
き、イエス^{さま}様に^{こえ}聞こえないように^{はな}声をひそ
めて^{はな}話して^{かれ}いましたが、^{なに}彼らが^{はな}何を話して
いるかを^{ぞん}ご存じであったイエス^{さま}様は、^{かな}悲し
んで^{かれ}おられました。彼は^{でし}弟子^{なん}たちに^{なん}何とお
たずねになりましたか？マルコ 9:33。

弟子^{でし}たちは、^は恥ずかしくな^{おも}ってしまいま
した。自分^{じぶん}たちの^{はな}話していることが^{さま}まさか、
イエス^{さま}様に^し知られているとは思^{おも}っていてもいま
せんでしたし、イエス^{さま}様に^しだけは^{せつ}知られた
くな^{おも}かったのです。34 節。

しかし^{おも}とうとう、自分^{じぶん}たちが^{ぎもん}疑問に^{おも}思っ
ていることを、^{おも}思いきって^{おも}ぶつけることに
しました。マタイ 18:1。

そこでイエス^{さま}様は、^{かれ}彼らをご^{じぶん}自分のまわ
りに^{つぎ}すわらせました。次に^{さま}イエス^{かた}様が^{かた}語ら
れたことは、^{でし}弟子^{かんが}たちが^{かんが}考^{かんが}えていたのとは
正^{せい}反対^{はんたい}の^{おも}ことでした。マルコ 9:35。

仕^{つか}える人^{ひと}になることが、^{いちばん}一番^{おも}えらいで
すって？^{おも}そんなことが^{おも}あり得^{おも}るのでしょうか？

そこでイエス^{さま}様は、^{ちい}小さな^{こども}子供を^よ呼び
よせ、その^こ子を^{はな}ひざにのせて^{おも}あげました。
それから、^{はな}話し^{おも}始め^{おも}られました。36,37 節、
マタイ 18:2-4。

かんが **考えてみよう：** ^{こころ}心を^{ひく}低くして^か変わらな^{おも}け
れば、^{さま}イエス^{でし}様の^{てんごく}弟子^{てんごく}たちで^{てんごく}さえも^{てんごく}天国に
^{はい}入れ^{かんが}ない^{かんが}のでしょうか？^{かんが}これは^{かんが}ぜ^{かんが}ひとも^{かんが}考
え^{かんが}なくては^{かんが}ならない、^{じゅうだい}重大^{じゅうだい}なことでは^{おも}あり
ません^{おも}か？^{いちばん}一番^{おも}になりたいと^{ねが}願^{おも}うのは、^{おも}イ
エス^{さま}様の^{おも}ようになること^{おも}から^{おも}かけ^{おも}離^{おも}れてい
ませんか？^{じぶんちゆうしん}自分^{こうまん}中心^{こうまん}〔^{おも}わが^{おも}まま〕で^{おも}高^{おも}慢^{おも}
な^{おも}人^{おも}たちは、^{てんごく}天国^{おも}に^{おも}いても^{おも}幸^{おも}せ^{おも}では^{おも}ない

で^{まいにち}しょう。わた^{おも}した^{おも}ちは^{おも}毎日^{おも}、^{おも}どの^{おも}よう^{おも}にし
て、^{おも}自分^{おも}中心^{おも}な^{おも}思い^{おも}を^{おも}捨^{おも}てる^{おも}練^{おも}習^{おも}が^{おも}でき
ます^{おも}か？

きんようび 金曜日

「わ^{おも}が^{おも}ま^{おも}ま^{おも}を^{おも}捨^{おも}てる^{おも}こと」^{おも}につ^{おも}いて
弟子^{でし}たち^{おも}にお^{おも}話^{おも}し^{おも}な^{おも}さ^{おも}った^{おも}と
き、^{おも}イエス^{おも}様^{おも}は^{おも}幼^{おも}い^{おも}子^{おも}供^{おも}を^{おも}抱^{おも}いて^{おも}お^{おも}ら^{おも}れ
ました。弟子^{でし}たち^{おも}にも、^{おも}子^{おも}供^{おも}たち^{おも}の^{おも}良^{おも}い
模^{おも}範^{おも}にな^{おも}って^{おも}ほ^{おも}しい^{おも}と^{おも}願^{おも}って^{おも}お^{おも}ら^{おも}れた^{おも}から
です。それは、^{おも}ど^{おも}れ^{おも}くら^{おも}い^{おも}大^{おも}事^{おも}な^{おも}こと^{おも}で^{おも}し
た^{おも}か？^{おも}マルコ 9:42。

それは、^{おも}と^{おも}ても^{おも}大^{おも}事^{おも}な^{おも}こと^{おも}なの^{おも}ですが、
す^{おも}べて^{おも}の^{おも}子^{おも}供^{おも}が^{おも}つ^{おも}ね^{おも}に^{おも}覚^{おも}えて^{おも}お^{おも}く^{おも}べ^{おも}き^{おも}
こ^{おも}と^{おも}が^{おも}あ^{おも}り^{おも}ます。あ^{おも}る^{おも}親^{おも}た^{おも}ち^{おも}は、^{おも}イエス^{おも}様^{おも}の^{おも}
こ^{おも}と^{おも}を^{おも}し^{おも}ら^{おも}ない^{おも}た^{おも}め^{おも}に、^{おも}子^{おも}供^{おも}たち^{おも}の^{おも}良^{おも}い
模^{おも}範^{おも}にな^{おも}って^{おも}い^{おも}ない^{おも}場^{おも}合^{おも}が^{おも}あ^{おも}り^{おも}ます。し^{おも}か
し、^{おも}た^{おも}と^{おも}え^{おも}親^{おも}が^{おも}よ^{おも}い^{おも}模^{おも}範^{おも}にな^{おも}って^{おも}く^{おも}れ^{おも}ない
場^{おも}合^{おも}でも、^{おも}わた^{おも}した^{おも}ち^{おも}が^{おも}手^{おも}本^{おも}と^{おも}す^{おも}ること^{おも}の
で^{おも}き^{おも}る^{おも}お^{おも}か^{おも}た^{おも}が^{おも}い^{おも}ら^{おも}っ^{おも}し^{おも}ゃ^{おも}い^{おも}ます。ま^{おも}た、
す^{おも}べて^{おも}の^{おも}子^{おも}供^{おも}と^{おも}大^{おも}人^{おも}の^{おも}た^{おも}め^{おも}に、^{おも}そ^{おも}の^{おも}お^{おも}か^{おも}
た^{おも}は、^{おも}よ^{おも}き^{おも}親^{おも}と^{おも}な^{おも}って^{おも}く^{おも}だ^{おも}さ^{おも}い^{おも}ます。天^{おも}の^{おも}
神^{おも}様^{おも}は、^{おも}わた^{おも}した^{おも}ち^{おも}の^{おも}愛^{おも}情^{おも}ぶ^{おも}か^{おも}い^{おも}お^{おも}父^{おも}様^{おも}
で^{おも}あり、^{おも}イエス^{おも}様^{おも}は^{おも}わた^{おも}した^{おも}ち^{おも}の^{おも}兄^{おも}弟^{おも}です。
な^{おも}ん^{おも}て^{おも}す^{おも}ば^{おも}ら^{おも}しい^{おも}こ^{おも}と^{おも}で^{おも}しょう！^{おも}神^{おも}様^{おも}と^{おも}イエ
ス^{おも}様^{おも}は、^{おも}最^{おも}高^{おも}の^{おも}親^{おも}た^{おも}ち^{おも}よ^{おも}り^{おも}も、^{おも}わた^{おも}した^{おも}ち^{おも}
を^{おも}愛^{おも}す^{おも}る^{おも}こ^{おも}と^{おも}が^{おも}お^{おも}で^{おも}き^{おも}に^{おも}な^{おも}り^{おも}ます。

イエス^{さま}様^{おも}と^{おも}の^{おも}交^{おも}わり^{おも}を^{おも}と^{おも}お^{おも}して、^{おも}ユ^{おも}ダ
以^{おも}外^{おも}の^{おも}弟^{おも}子^{おも}たち^{おも}は、^{おも}か^{おも}な^{おも}り^{おも}変^{おも}わ^{おも}っ^{おも}て^{おも}き^{おも}
て^{おも}い^{おも}ました。こ^{おも}れ^{おも}か^{おも}ら^{おも}は^{おも}彼^{おも}ら^{おも}が、^{おも}神^{おも}様^{おも}の^{おも}群
れ^{おも}に^{おも}加^{おも}わ^{おも}る^{おも}人^{おも}た^{おも}ち^{おも}の^{おも}世^{おも}話^{おも}を^{おも}す^{おも}る、^{おも}羊^{おも}飼^{おも}の
よ^{おも}う^{おも}な^{おも}働^{おも}き^{おも}を^{おも}す^{おも}よ^{おも}う^{おも}に^{おも}なる^{おも}こ^{おも}と^{おも}を、^{おも}イエ
ス^{おも}様^{おも}は^{おも}ご^{おも}存^{おも}じ^{おも}で^{おも}した。

かんが
考えてみよう: イエス様は子供が大好きです。子供たちもイエス様が大好きです。イエス様は数々の興味ぶかい物語をお話なさったので、子供たちは熱心に聞きました。またイエス様は、わかりやすい簡単な言葉でお話なさいました。彼は決してふきげんだったり、イライラしたりすることはありませんでした。子供たちは、イエス様のうれしそうな顔を見るのが大好きでした。イエス様は、子供たちが困っていることを打ち明けると、聞いて下さいました。子供たちが傷ついていると、イエス様は彼らをかわいそうに思い、助けてあげました。それに、もうひとつ知っていますか？ イエス様は今でも、よろこんでそうして下さいのですよ。そう、あのころのイエス様のままなのです。マラキ 3:6。

まな もっと学ぼう！

★ マタイ 18:1-6; 20:20-28;
19:13-15;

★ マルコ 9:33-37; 10:13-16;

★ ルカ 18:15-17;

★ 各時代の希望 48, 56 章



やけんほかくいん あみ スンカと野犬捕獲員の網 その4

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。スンカは、「怪物くん」と名づけられた雄鶏〔おすのニワトリ〕と仲良くなりました。ところがそのことが原因で、大変なことが起きてしまいます。

わたしは扉を開けました。「おばさん、おばさん! スンカが捕まっちゃったよ。あの人たちに捕まえられたんだよ!」近所の子供たちがいちどに、大慌てで狂ったように話しています。

「何ですって? だれがスンカを捕まえたの?」彼らの興奮した声から、わたしたちの犬にとんでもなく悪いことが起こったのを察しました。

「あの人たちが、トラックにのってる大きな檻にスンカを入れたの!」ひどくおどろいた女の子は、泣き叫んでいます。近所の子供たちは皆、スンカのことを大好きでした。

「スンカは、あの人たちに、大きな網で捕まえられたんだ!」と、別の少年が大声で言いました。

「え、だれ? あの人たちって誰のこと?」わたしの頭の中は、めまぐるしく動いてい

ました。そのせいで、めまいを感じるほどでした。

「野犬捕獲員だよ、おばさん。のら犬を捕まえる人たちのこと。」道の向こうから来たルチョは、状況をよくわかっているようでした。

「野犬捕獲員の人たまたま通りかかって、スンカが雄鶏を追いかけているのを見つけたんだ。」

「雄鶏ですって!」マルハが泣き叫びました。彼女は両手をふり上げながら、怪物くん〔雄鶏〕をさがしに道を下って行きました。

「かわいそうなスンカ!」ルチョは、重々しく口を開きました。「あの人たちに殺されちゃうよ。」

「殺される? そんな、まさか!」わたしは恐ろしくなりました。「何とかしないと

大変だわ。主人に電話しないと。」

その夜、主人とわたしは野犬収容所へ行きました。スンカは困惑し、途方にくれたようすで、震えながら、大きな犬たちの間にすわっていました。わたしが入って来たところを見ていませんでしたが、聞き覚えのある声が「スンカ、スンカ」と呼ぶのを聞くと、態度ががらりと変わりました。立ち上がって、耳をピンと立てています。



そして、よろこびのあまりキャンキャン鳴
きながら飛び上がり、大きい犬たちのあ
いだをくぐりぬけて近づいてきました。

わたしたちはスンカを車に乗せ、前の
座席のふたりの間にすわらせて、よろこび
いさんで家に帰りました。

さて、少年少女の皆さん。この物語は、
本当にあった興味深い話ではありますが、
スンカが伝道犬だったことを直接えがいて
はいませんね。それでも、スンカの経験
からいろいろ学ぶことができるはずです。

スンカの第一の仕事は、主人の家の
入口を守ることでした。あなたが心の扉
を見張っていなくてはならないのと同じ
です。次に、スンカは忍耐強く、隣人
〔雄鶏〕と友だちになりました。わたした
ちも、隣人が優しくないからという理由
で、あきらめてはいけません。忍耐と愛
によって、隣人を友とすることができるの
です。また、あまり好奇心が強すぎても
いけないことを、スンカから学べます。あ
とで困ったことになるかもしれないからで
す。スンカは、道路をひとりで走るべきで
はないことを学びました。そうしなかった
ために、恐ろしい経験をしなくてはなりま
せんでした!しかし、たとえサタンにつか
まっても、イエス様はかならず、わたした
ちを買いもどしてくださるのです。

(つづく)

だい しょう 第 10 章 かねも あわれな金持ち



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

かえ 「帰ってあなたの持ち物（も）を売り払い（う）、貧しい人々に施（はら）しなさい。そうすれば、天（てん）に宝（たから）を持つようになろう。そして、わたしに従（したが）ってきなさい。」 マタイ 19:21

にちようび 日曜日

こん 今（しゅう）週（わ）わたしたちが学（まな）ぶ、ある男（おとこ）について、マタイ、マルコ、ルカが書いていますが、その中のだれも彼（かれ）の名前（なまえ）を明（あ）かしていません。わかっているのは、この男（おとこ）がひじょうにお金（かね）持ち（も）だったこと、そして若い役人（やくにん）だったということです。役人（やくにん）であったということは、おそらく、権威（けんい）あるユダヤ議（ぎ）会（かい）の一員（いちいん）だったのでしょうか、かなり身分（みぶん）の高い人物（じんぶつ）だったと考え（かんが）られます。

この若い役人（やくにん）は、イエス様（さま）のことをすでに知（し）っていて、イエス様（さま）のお働（はたら）きも何度（なんど）か見た（み）ことがありました。あの日（ひ）、つまり母（は）親（おや）たちが、子供（こども）たちをイエス様（さま）に



しゆくふく 祝福（しゆくふく）していただこうとつれて来た（き）ときの出来事（できごと）も見て（み）ていました。イエス様（さま）が子供（こども）たちをかわいがって、彼（かれ）ら（こ）う（ふ）く（な）き（も）ち（に）さ（せ）た（の）も（見）ま（し）た。この若い役人（やくにん）は、自分（じぶん）も同（おな）じよう（な）幸（こ）う（ふ）く（を）得（え）たい（と）思（おも）い、イエス様（さま）に祝福（しゆくふく）して（い）た（だ）き（た）い（と）願（ねが）って（い）た（の）で（し）た。イエス様（さま）が「天（てん）国（こく）は幼（お）な（子）のよう（な）者（もの）た（ち）の（国）で（あ）る」と話（は）さ（れ）た（と）き、彼（かれ）は（お）そ（ら）く、そ（れ）が（ど）う（い）う（い）み（か）よ（く）分（わ）か（ら）な（か）つ（た）の（で）し（よ）う。彼（かれ）は、ぜ（ひ）天（てん）国（こく）に（い）き（た）い（と）思（おも）う（よ）う（に）な（り）ま（し）た。

じっかい し 十戒（じっかい）も知（し）って（い）ま（し）たし、ユダヤ人（じん）が作（つく）った「規則（きそく）」も知（し）って（い）ま（し）た。神（かみ）様（さま）の律法（りっぽう）であ（れ）、人（にん）間（げん）の「規則（きそく）」であ（れ）、す（べ）て（の）決（き）まり（に）し（た）が（つ）て（い）る（じ）しん（じ）信（しん）が（あ）り（ま）し（た）。

ひと み 人（ひと）から（み）れば、この若い役人（やくにん）は（と）と（も）幸（こ）う（ふ）く（で）、神（かみ）の（国）に（い）る（の）は（か）く（じ）つ（お）も（確）実（じつ）な（よ）う（に）思（おも）わ（れ）た

かもしれません。ところが彼自身は、何か大事なものが足りないのに気がついていました。それは、彼に備わっていないものだということは、わかっています。それは何でしょう？イエス様ならきっと、それを教えて下さるでしょう。

ある日、この若い役人は、イエス様が人々と話を終えて、弟子たちと去って行くのを見かけました。とつぜん、イエス様に大事な質問しなくては、と思いました。それはすべての人にとって、もっとも重要な質問といえるものでした。

かんが **考えてみよう**：それはどんな質問でしたか？答えは、明日わかります。

げつようび 月曜日

イ エス様は子供たちを祝福し、人々を教えたあとで、弟子たちといっしょにその場を去るところでした。とつぜんあの若い役人が、彼らに追いつこうと走ってくるではありませんか。イエス様の足もとにひざまずいた彼の口から出たのは、どんな質問でしたか？マルコ 10:17。

若い役人はイエス様のことを「よき師」と呼びました。イエス様はまず、そのことを彼に考えさせたかったので、彼の質問に答える前に、なぜ自分をよき師と呼んだのかをたずねました。イエス様は、神様のほかに良いものは何ひとつないことを、彼に気づかせました。若い役人は、イエス様が本当の神の子であられることを、心から信じましたか？

それからイエス様は、永遠の命を得る

人たちは十戒を守るであろうとおっしゃいました。マタイ 19:17。

人間によって作り上げられた「規則」は、数多くありました。若い役人はそれらの「規則」を学び、したがう努力もしていました。そこで彼は、イエス様がどちらのきまりのことを話しておられるのかをたずねました。18,19 節。

イエス様が十戒のことを話しておられるのは、すぐに分かりました。十戒のことは、ユダヤ人ならだれもが知っています。ですから彼は、自分が十戒を守っていないはずはないと思いました。彼は何と言いましたか？ 20 節。

かんが **考えてみよう**：あなたは十戒について学びましたか？十戒の言葉をすべて覚えるだけで、神の国に入れるでしょうか？最も大事なことは、十戒の意味を理解し、心からしたがうことです。

かようび 火曜日

こ の若い役人にむかって、イエス様はただ、神の国に入りたければ十戒を守るようにとおっしゃいました。けれども、人間の作り上げた「規則」にしたがう必要があるとはおっしゃいませんでした。若い役人は、本当に十戒にしたがっていたでしょうか？

イエス様の次の言葉を聞いて、彼は信じられないほどのショックを受けました。マタイ 19:21。

イエス様は、本気でそうおっしゃったのでしょうか？様々な考えが、彼の頭の中を

かけめぐったにちがいません。自分^{じぶん}は
十戒^{じっかい}にしたがっていないのではと、疑^{うたが}った
ことは一度^{いちど}もなかったからです。しかしイ
エス様^{さま}は、彼^{かれ}がした^かがっていないことをご
ぞんじ^{ぞんじ}存知^{ぞんじ}でした。

イエス様^{さま}はこの青年^{せいねん}を愛^{あい}しておられまし
た。彼^{かれ}なら良い弟子^よになれたでしょうし、
最後^{さいご}には神^{かみ}の国^{くに}に入^{はい}ることもできたはずで
した。彼^{かれ}が、「天^{てん}におられる真^{しん}の神^{かみ}様のほ
かに、なにものをも神^{かみ}としてはならない」
という十戒^{じっかい}の最初^{さいしよ}の戒^{いまし}めをやぶっているこ
とに気づ^きいていないのを、イエス様^{さま}はご
ぞんじ^{ぞんじ}でした。彼^{かれ}は神^{かみ}様^{さま}よりも、お金^{かね}持ち
で偉^{えら}い地位^{ちい}にいることを愛^{あい}していました。
またイエス様^{さま}は、彼^{かれ}が自分^{じぶん}自身^{じしん}を愛^{あい}する
ように、ほかの人^{ひと}々^{ごと}を心^{こころ}から愛^{あい}していない
ことも、知^しっておられました。さあ、どち
らかを選^{えら}ばなくてははいけません。

イエス様^{さま}の目^めを見つめた若^{わか}者^{もの}の心^{こころ}の中^{なか}
では、はげしい戦^{たたか}いが起^おこっていました。
イエス様^{さま}が「しなさい」とおっしゃったこ
とを、実^{じつ}行^{こう}できるでしょうか？そんなこと
をしたら、貧^{びん}乏^{ぼう}になっ
てしまいますし、身^み分^{ぶん}の高^{たか}
い友人^{ゆうじん}たちも、きつと離^{はな}
れて行くでしょう。人^{ひと}々^{ごと}
は彼^{かれ}のことを、頭^{あたま}が
おかしな^{おかし}な^なと思^{おも}うでし
ょう。しかし、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}
もほしかったのです。彼^{かれ}は、
とてむずかしい分^わかれ
道^{みち}に立^たっていました。

かんが
考えてみよう:この若^{わか}
い役^{やく}人^{にん}が神^{かみ}の国^{くに}を選^{えら}ば

ないように引^ひき止^やめていたのは、だれでし
たか？今^{いま}でも、人^{ひと}々^{ごと}に神^{かみ}の国^{くに}を選^{えら}ばないよ
うにさせているのはだれですか？あなた^{あなた}が
この若^{わか}い役^{やく}人^{にん}だったら、どうして^{どうして}いたと思^{おも}
いますか？

すいようび 水曜日

イエス様^{さま}は、裕^{ゆう}福^{ふく}な若^{わか}い役^{やく}人^{にん}の
大切^{たいせつ}な質^{しつ}問^{もん}に、お答^{こた}えになりまし
た。彼^{かれ}は今^{いま}、どちらかを選^{えら}ばなくてははい
けません。ふたりの会^{かい}話^わを聞^きいていた人^{ひと}
たちは、彼^{かれ}がどうするの^{ちゅうもく}か注^{ちゅう}目^{もく}していたは
ずです。イエス様^{さま}は彼^{かれ}に、神^{かみ}の国^{くに}を選^{えら}
んでほしいと強^{つよ}く望^{のぞ}んでおられましたが、サ
タンがそれと反^{はん}対^{たい}のこ^{のぞ}を望^{のぞ}んでいま
した。結^{けつ}局^{きよく}、どち^{えら}らを選^{えら}びましたか？**マタイ**
19:22。

若^{わか}い役^{やく}人^{にん}は富^{とみ}〔ゆたかさ〕を自^じ分^{ぶん}の神^{かみ}
として選^{えら}び、その後^{あと}も決^{けつ}心^{しん}を变^かえることは
ありませんでした。重^{おも}い足^{あし}どりで去^さって
い^いく彼^{かれ}を^{かな}ごらんになっ^きて、イエス様^{さま}も悲^{かな}
しい^き気持ち^{きもち}になりました。

弟^で子^したちは、がっか
りしました。イエス様^{さま}は
なぜ、この裕^{ゆう}福^{ふく}な役^{やく}人^{にん}
に、全^{ぜん}財^{ざい}産^{さん}を売^うって貧^み
しい人^{ひと}に施^{ほどこ}すよ^いうにと言^い
われたのでしょ^{かみ}う？神^{かみ}様^{さま}
がと^{とみ}み富^あを^あお与^あえになるのは、
その人^{ひと}を特^{とく}別^{べつ}に愛^{あい}してお
られるからだと、彼^{かれ}らは
おも思^{おも}っていました。そのよ
うに教^{おし}えられてきたから



です。弟子たちは、もしイエス様の王国が実現したら、この裕福な役人は大いに役に立ったはずなのに、と思ったのでした。

特にユダは、おもしろくありませんでした。彼の目にはしばしば、イエス様をしていることが、まちがっているように見えてしまうのです。自分の計画にみんなが従えば、新しい王国をすぐにうちたてることができるのに、と思いました。イエス様が次におっしゃったことを聞いて、ユダとほかの弟子たちが何を考えたか想像できますか？ 23 節。

考えてみよう：1 テモテ 6:10 を読んで下さい。この聖句を読めば、イエス様が言われたことの意味が、もっとよく理解できますか？ イエス様が伝えたかったことは何でしょう？ あの日、正しい選びをしなかったあの若い役人は、幸せな一生をおくったと思いますか？ イエス様は、お金持ちの人はだれも天国に入れないと語っておられるのですか？ いいえ、ちがいます。それがどういう意味なのか、もう少し学んでみましょう。

もくようび 木曜日



十戒の第1条は何ですか？
お金持ちの若い役人は、永遠の命を得るためには何をしたら

よいのかをたずね、イエス様は、十戒にしたがうことだとお答えになりました。自分は十戒に従っていると若者は思っていましたが、心から神様を愛していませんでしたし、ほかの人よりも自分のことを愛していました。それでも、そんな自分を変えたいとは思いませんでした。

この役人が去ったあとで、イエス様は、お金持ちの人が神の国を選ぶのはとてもむずかしいことだとおっしゃいました。驚いた弟子たちをごらんになったイエス様は、もういちど、その言葉をくりかえされました。 **マタイ 19:24,25**。

針の穴をとおるですって？ ラクダにそんなことができるはずがありません。それはぜったいに無理だということは、弟子たち全員が知っています。イエス様が話しておられたことは、彼らが教えられてきたこととはまるで違っていました。

わたしたちは皆、生まれながらに自分中心〔わがまま〕であることを、弟子たちは理解する必要がありました。自分中心でないことのほうが不自然なのです。そしてお金持ちの人は、そうでない人と比べると、自分中心の思いを捨てるのがむずかしい、ということです。わたしたちを変えることができるのは、神様だけです。そして、神様に自分を変えてもらえるかどうかは、自分自身の選びにかかっているのです。 **26 節**。

弟子たちは、イエス様をじっと見つめていたことでしょう。イエス様の言葉にびっくりしすぎて、信じられないくらいでした。もしそれが本当なら、いったいだれが

天国にふさわしいと、神様から認められるのでしょうか？

おそらく、イエス様から弟子に選ばれた人の中で、お金持ちだったのは、レビ・マタイだけでした。イエス様の弟子のひとりになるために、彼はどんな選びをしましたか？ルカ 5:27,28。

ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネは、漁師の仕事をしていました。イエス様から声をかけられたとき、彼らはどんな選びをしましたか？マタイ 4:18-22。

考えてみよう：時々わたしたちは、お金持ちを特別な人たちだと思って、特別なつかいすることがあります。サタンはお金持ちの人を、高慢〔思いあがって人を見下すこと〕になるように誘惑すると思えますか？またお金持ちでない人たちは、ねたむ〔うらやんでにくむ〕ように誘惑されると思えますか？イエス様に似る者となれるように、イエス様がわたしたちを助け、変えてくださることを、あなたはうれしく思えますか？そのことを毎日思い出して、イエス様をお願いしていますか？

きんようび 金曜日

お金持ちについて語られたイエス様のお話を、弟子たちはなかなか理解できずにいました。いつものように、ペテロが真っ先に口を開きます。弟子で



ある自分たちは、イエス様に従うためにすべてを投げうったことを、イエス様にうったえしました。ルカ 18:28。

これから必要とする物については、何の心配もしなくてよいと話しながら、イエス様はほほえんでおられたことでしょう。29,30 節。

あのお金持ちの若い役人は、富〔ゆたかさ〕と名誉を選びました。しかし、それらを大事にしなから、神の国に入ることを望むのは不可能でした。つまり彼は、まちがった選びをしてしまったのです。

イエス様を選ぶ人は皆、あの日、イエス様が弟子たちに約束なさったことを思い出す必要があります。わたしたちはイエス様を愛し、信頼し、どんな人や物よりも、イエス様に従うことを優先させる必要があります。そのうえで、たとえば大きな問題にぶつかったとしても、イエス様は決して自分たちをお見捨てにならないと確信できるのです。イエス様がおいでになるときには、わたしたちは永遠の命をいただいて、イエス様といつまでも暮らすことでしょう。

イエス様を愛し、信頼し、彼に従うことを選んだために苦しむことは、よくあります。職場の人や友人、親戚、時には家族でさえも、あなたの選びが気に入らないこともあるからです。しかしその一方

で、同じようにイエス様にしたがう選びをした人が、家族のように親しくなることもあります。

かんが **考えてみよう**：イエス様にしたがう選びをしたために、仕事を失ったり、親や友達からよく思われなかったりする人が、あなたの知り合いにいますか？もしあなたにそんなことが起きたなら、あの日、イエス様が弟子たちになさった約束に信頼するでしょうか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 19:16-30

★マルコ 10:17-31

★ルカ 18:18-30

★各時代の希望 57 章

てんごく
天国とのつながり その1

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについて、本当にあったお話です。

くるまを見張っている間、わたしは小さな犬をつれ、リマのプラザ大学の歩道を行ったり来たりしていました。

スンカは、暴れてひもをあまりに強く引っぱったので、もう少しで窒息するところでした。スンカは散歩が好きですが、それ以上に走ることが大好きでした。

わたしは、「スンカ、いいかげんにしなさい」と、きびしい口調で命令しました。そして、ひもをぐいと引っ張りました。

スンカは少しの間立ち止まって、目を上げました。

「わかるわね。わたしの横についてしっかり歩くのよ。」わたしはもういちど、ひもをぐいと引きながら言いました。



スンカはそれを理解して、おりこうにふるまおうとしているようでした。

リマではよくあることですが、灰色の雲で覆われた空と、冷たい湿気をふくんだ風が、町をどんよりと不愉快なものにしていました。でもスンカにとって、日々の生活は楽しくて

仕方ありませんでした。

ひとりの若い女性が、腕に本の山を抱えて歩いてきました。彼女はスンカを一目見て、大好きになりました。

「なんてすてきな、かわいい犬だこと！」女の人は地面にしゃがみこみ、本を横に置いて、両手でやさしくスンカ

をなでました。スンカも愛情のお返しに、彼女の顔をなめまわしていました。

「だめよ、スンカ。おとなしくしていなさい。おすわり！」わたしはきびしい口調で、命令しました。

スンカは、従順にすわり、しっぽをふっています。

「すごいわ！」その若い女性は、スンカに心を奪われているようです。



「あなた、賢い犬ね。」彼女はそう言って、
スンカの右前足にさわりました。「スンカっ
ていうのね。」

わたしが、「さあ、こんどは横になって、
スンカ」と言い終わらないうちに、スンカ
はゴロンと横になって、ふたたびおすわり
をしました。

「まあ、なんて賢い犬なんでしょう!わた
しもこんな犬が欲しいわ。」

「さあ、他にもできることを、お嬢さん
に見せてごらん。」わたしが伸ばした腕で
輪をつくると、スンカは矢のような速さで
くぐりぬけました。

少女は、思わず叫びました。「まあ、ま
るでサーカスだわ。なんてすごい犬なん
でしょう!」

「じゃあいつか、スンカがボールで遊ぶ
のを見にきてちょうだい。本当にすごいわ
よ。」

「ボール遊びもできるんですか?」

「そうよ。いつかうちに来てくれたら、
見せてあげるわ。」わたしは財布から、
名刺をとり出しました。「これがわたした
ちの家の住所よ。」

「ありがとうございます。必ず行きます。
でもすみません、もう行かないといけませ
ん。あと数分で約束の時間ですから。お
会いできて本当にうれしいですし、また
お会いしたいです。スンカ、バイバイ。」
彼女は大学の入口で、ほかの学生たちに
混じって歩きながら、にっこり笑ってスン
カに手をふりました。

それから約20分後、わたしは車にす
わって、図書館へ行った主人を待ってい

ました。スンカは、開いた窓のところに
立って、近づきすぎた人に向かってうなっ
ています。

「あら、まだここにいてよかったわ。ス
ンカにどうしても会いたくて、もどってきた
んです。」息を切らしながら、若い女性が
言いました。

「こんにちは、スンカ。本当にかわいら
しい犬ね!」

ところが、スンカはうなって、鋭い牙を
むき出しにしています。

(つづく)

だい しょう 第 11 章

かねも ふたりの金持ち



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{ひと}人の子がきたのは、^こ、
^{うしな}失われたものを^{たず}尋ねだして^{すく}救うためである。」

ルカ 19:10

にちようび 日曜日

エリコというにぎやかな町に、ザアカイという人が住んでいました。彼はお金持ちでしたが、背の低い男でした。

ザアカイには、あまり友だちがいませんでした。それは、彼がローマのために働いていたからです。その仕事は、ローマのために税金を[あつめる](#)ことでした。ユダヤの人々は、ローマ人と取税人が大嫌いでした。当時のユダヤ人はローマ人に支配されていて、ローマに税金をおさめさせられていました。その税金を人々からとりたてていたのが取税人でした。しかも彼らは、ローマに払うべき以上のお金をとりたてていました。ルカ 19:2。



ザアカイは取税人の長〔かしら〕でしたので、エリコ中の取税人の責任者でした。しかし、ザアカイがもう、お金をごまかしていないことを知っている人は、あまりいませんでした。

バプテスマのヨハネが説教をしていたヨルダン川は、エリコの町からそう遠くありませんでした。取税人に向かってバプテスマのヨハネが語った言葉を聞いて、ザアカイは、これまでの自分の行いがまちがっていたことを知り、変わる決心をしたのでした。ルカ 3:12,13。

そのことを知らない人たちは、今でもザアカイを信用していませんでした。彼が心を入れかえて正直になったなんて、とても信じられませんでした。これまでだましてきたお金を返し始めてからも、ほとんどの人はまだ、彼をうたがっていました。

もちろんエリコの人たちも、

イエス様のことを知っていました。ザアカイも、イエス様の弟子のひとりが取税人だったと聞いて、自分も神様にゆるしていただけるかもしれないという望みを抱いていました。

かんが 考えてみよう：人々をだまし
ていたことを心から反省した
ザアカイは、どんな行動に出ましたか？



とつぜん、ある考えが浮かびました。道のそばに1本の木があって、その木の枝が道のほうまでのびていることを思い出したのです。そこでザアカイは、先回りして木のほうへ行き、その枝のひとつに腰かけました。ここなら、高いところからイエス様を見ることができはるはず。4節。

イエス様が近くをとおられると、そこにいた人たちから歓迎の叫び声があがりました。祭司や律法学者たちが大声で文句を言っているのも聞こえました。イエス様は、ザアカイが心の中で求めていたことをご存知でした。

とつぜんイエス様が立ち止まると、群衆も立ち止まりました。イエス様はザアカイがすわっている枝の下で、ザアカイを見上げておられます。ザアカイはイエス様のお顔を見つめました。あたりは静まりかえり、イエス様が彼に話しかけると、人々は耳をすましました。5節。

かんが 考えてみよう：イエス様は、わたしたちの家にも入りたいと願っておられますか？
わたしたちは、イエス様をよろこんでむかえたい気持ちを、どのように表すことができますか？

取 税人〔税金をとりたてる人〕のザアカイは、自分が罪人であることを知っていて、今までの悪事を心から悪かったかと思っていました。ある日、イエス様がエリコをとおられることを耳にしたザアカイは、ぜひイエス様に会いたいと思いました。ふだんからにぎやかな町の通りは、その日、いつもよりもこみあっていました。エルサレムで特別な祭りがおこなわれることになっていたの、多くの人は、エルサレムに向かう途中でした。その人たちが、イエス様がこの町をとおることを聞きつけ、彼を一目見ようと集まってきていたのです。そういうわけで、イエス様のまわりには、大きな人だかりができていました。ルカ 19:3。

ザアカイは群衆をかきわけて進もうとしましたが、だれも動いてくれません。その上、ザアカイは背が低すぎて、人々の頭ごしに見ることもできません。いったい、どうしたらよいのでしょうか？

かようび 火曜日

ザアカイは、びっくりしました。木から落ちなかったのが、ふしぎなくらいです！彼はあつという間に木から

おりて、にっこりほほえむイエス様の前に立っていました。「イエス様がわたしの家に行きたいと言っておられる！」もう、考えただけでわくわくしました。ルカ 19:6。

そこで、ザアカイの家に向かって歩き始めたわけですが、彼はうれしさのあまり、何を話していいかも分かりません。ただひとつ、まわりにいた人たちがイエス様について話していることだけが、気になりました。7節。

ザアカイは急に、自分が心を入れかえたことと、これまでの悪事を心から悔いていることを、人々にわかってほしいと思いました。自分が正しい生き方をしようとしていることを、みんなに知ってほしかったのです。そこでザアカイは、みんなが聞いているところで、イエス様に何と言いましたか？そして、イエス様は何とおっしゃいましたか？ 8-10節。

祭司や律法学者たちは、取税人〔税金をとりたてる人〕のことをひどい罪人だと思っていたので、彼らが礼拝のために会堂に入ることも禁じていました。しかし、イエス様を家にむかえ入れたザアカイ



は、家族とともに神様を礼拝することができました。

イエス様は、自分が罪人であることを知っている人だ

けが救われることを、もう一度みんなに伝えようと思いました。自分に助けは必要ないと思っている高慢〔思いあがって人を見下すこと〕な人たちに、罪人を救う愛と助けを押し売りすることはできません。

若い役人との会話のあとで、イエス様は弟子たちに、お金持ちの人にとって、救われるために神の国を選ぶのはむずかしいことだと言われました。ただし、神様にできないことはないとも言われました。お金持ちのザアカイが、そのことを証明しています。

かんが **考えてみよう:** 自分中心〔わがまま〕な **おも** **思い**をすてて、**せいれい** **聖霊**の声にしたがうこと **えら** **を選んだ**とき、ザアカイは**かわ** **変わ**りました。**じっかい** **十戒**にしたがうことが、ほかの何よりも**だいじ** **大事**になりました。わたしたちがイエス様 **あい** **を愛し**、**しんらい** **信頼し**、**かれ** **彼**にしたがうとき、イエス様 **さま** **は**わたしたちを**か** **変**えて**くだ** **下さ**いますか？

すいようび 水曜日

ある日、イエス様が教えておられるときに、男がやってきて、自分と兄弟との間の問題を解決してほしいとお願いしました。神様がお与えになったきまりによると、父親が亡くなった場合、長男はほかの息子たちの2倍の財産をもらう権利がありました。この日イエス様のもとへやって来た男は、自分の兄弟が財産を公平に分けていないと思いました。彼はイエス様に、何とお願いしましたか？
ルカ 12:13。

イエス様は、この男が自分のことしか

じっこう
を実行できていますか？どうすれば、それ
にしたがうことができますか？

きんようび 金曜日

か み さま ぞんじ
神様はすべてをご存知ですか？その
とおりです。きのうのものがたり
昨日の物語にでてき
かねも おとこ し
た、お金持ちの男が知らなかったことまで、
かみさま し
神様は知っておられました。「これからは
ゆうゆうと、らくして暮らせるぞ」と考え、
まんぞく ねむ よる くれ
満足しながら眠りについたその夜に、彼
しんぞう と かみさま ぞん
の心臓が止まることを、神様はご存じでし
おとこ けいかく
た。男の計画は、すべてむだになってしま
うのです。自分のためだけにとっておいた
もの たにん て
物は、すべて他人の手にわたるでしょう。

ルカ 12:20。

ものがたり お
この物語の終わりに、イエス様は何と
い せつ きょうだい ざいさん
言われましたか？ 21 節。兄弟が財産を
こうへい わ おも おとこ
公平に分けていないと思っていた男は、
ものがたり おとこ じぶん かんが
物語の男のように、自分のことばかり考え
ていました。じっかい ほ
十戒の「欲しがってはなら
ない」という戒めにしたがっていません
たのです。

き ひと じぶん ものがたり おとこ
聞いていた人たちも、自分も物語の男
か じぶんちゆうしん かんが
とたいして変わらず、自分中心の考えをし
ていたことに
き づかされま
した。みんな
が、変わる
ひつよう
必要がありま
した。

わたしたち
も、変わる
ひつよう
必要がありま



にんげん つく くら
す。人間ははじめに造られたときと比べ
て、すっかり変わってしまいました。罪
せかい はい
がこの世界に入ってきたときからずっと、
じぶんちゆうしん ころ
自分中心〔わがまま〕とよくばりの心が
そんざい
存在しているのです。

かんが
考えてみよう：ザアカイは、かねも
かねも
人でも変わることができることを証明して
ひと か しやうめい
います。今でも、イエス様にしたがう決心
いま さま けっしん
をしたお金持ちの人がいますか？もちろ
かねも ひと
んです。彼らは自分のお金と時間をささげ
かれ じぶん かね じかん
て、神の国に入るにはどうしたらよいかを、
かみ くに はい
人々が理解できるように助けています。し
ひとびと りかい たす
かし、変わる必要があるのは、お金持ち
か ひつよう かねも
の人だけではないことを、わたしたちは
ひと
知っていますね。たくさん欲しがるのは、
し
決してお金持ちの人だけではありません。
けつ かねも ひと
わたしたちはあまり深く考えずに、「欲し
ふか かんが ほ
がってはならない」という戒めをやぶって
いまし
いることがあります。あなたは心から喜ん
ころ よろこ
で、神様に変えていただきたいと思ってい
かみさま か おも
ますか？

まな もっと学ぼう！

★ルカ 19:1-10; 12:13-21

★各時代の希望 61 章

★キリストの実物教訓 20 章



てんごく 天国とのつながり その2

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。先週のお話では、友だちになろうと思って近づいてきた若い女の人に、スンカが歯をむき出してうなっていました。

「あら、スンカ。どうしたの？わたしに怒っているの？」女の方は少しびっくりして、後ずさりしました。

わたしはにっこり笑いました。「だいじょうぶ。スンカはあなたのこと今も好きよ。ただ、この車を守ろうと思って、警戒しているだけなの。それで車には、だれも近づかせないようにしているのよ。さあ、ここにすわってみて。スンカが、あなたのこと大好きなのがわかるはずよ。」

若い女の方はドアを開け、わたしのそばにすわりました。彼女が入ってきて、スンカは大はしゃぎです。スンカがはしゃげばはしゃぐほど、彼女も喜んでいようです。

「おば様、後ろの座席にある手紙の山は何ですか？」

「ああ、それはわたしたちの郵便物よ。今から郵便局へ行くの。」

「それにしても、こんなにたくさん！わたし、こんなにたくさんの手紙を見たことありません。いつもこんなにたくさん郵便物をおつかっているのですか？」彼女は、きれいにまとめて結ばれた手紙の山に、ふたたび目をやりました。

「主人は、ペルーで9000人の生徒に通信講座の指導をしているの。」

「9000人も生徒がいるんですか！」少女が、おどろきのあまり思わず声をあげたので、スンカまでびっくりしています。

「そう、ボリビアには、あと2000人の生徒がいるわ。エクアドルには、さらに1000人。」

「ということは、おば様もご主人も、全部に目を通さないといけないうことでですか？」

「そのとおりよ、お嬢さん。お手伝いしてくれる人もいるけどね。とてもすばらし

Be a missionary like Sunca!
• Ask your pastor for Bible correspondence cards that you can pass out to others.
• Tell others about Bible study helps now available online at:



い仕事よ。」

「その大勢の生徒さんたちは、何のお勉強をしているのですか?」彼女はスнкаをなでながら、また後ろの座席をちらっと見ました。

「聖書の勉強よ。イエス・キリストや預言、クリスチャン生活についての学課なの。」

「聖書の勉強ですか!」彼女は、少し興味があるようでした。

「そう、これは人生の幸福や真の成功、人格形成や悪習慣の克服などについて、神様の言葉である聖書から学ぶお勉強よ。そうね、あなたに見せてあげるわ、お嬢さん。」そう言ってわたしは、封筒のひとつをぬき出しました。「これはクスコに住む青年が学んでいるものよ。この学課のテーマは、聖書が教える求婚と結婚について。あなたは、こういうことに興味ある?」

「ええ、あります。でも…」彼女はためらいました。

わたしは、なぜ彼女がためらっているのかわかりました。「あなたには、青年向けコースの一番はじめの学課を送るから。受けとっても、必ずやらなければいけない、ということはないから大丈夫よ。それに、お金はまったくかからないから安心して。コースをつづけたいかどうかは、あとで自分で決めればよいことよ。学課の指導は、わたしたちがさせていただきます。教科書を買う必要もないわ。」

「本当ですか?」彼女は安心したようでした。「もちろんよ。じゃあ、最初の学課をわたしに送ってね。」それからもしばら

く、彼女とスнкаは遊んでいました。そして、彼女はこう言いました。「おば様、わたしは今日、天国とのつながりを作ったんですね。」

若い女の人が通りの人ごみに消えて行くとき、わたしは彼女を目で追いました。「天国とのつながり…」わたしは考えました。これ以上に、わたしを喜ばせ、満足させた言葉はほかにありません。わたしはスнкаをなでながら、「あなたは立派な伝道犬ね。あなたが伝道犬でなかったら、このすてきな出会いは決してなかったはずよ。あなたは、ひとりの新しい生徒に、聖書通信講座の申し込みをさせるお手伝いをしたのよ。」

ベアトリス〔彼女の名前〕は、聖書への大きな関心を見せ、聖書通信講座の2つのコースを終了しました。まもなく、彼女は教会員になりました。

だい しょう 第 12 章

えん はたら びと ぶどう園の働き人



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたがたの救われたのは、**実に、恵みにより、信仰によるのである。**」
エペソ 2:8

にちようび 日曜日

わたしたちが、自然に神様と同じ
ような思いをいただくことはありません。
天が地よりもずっと高いところにあ
るように、わたしたちの考えよりも、神様
の思いははるかにすぐれています。**イザヤ**
55:8,9。神様はわたしたちのことを、どの
ように思っておられるのでしょうか？**エレミヤ**
29:11。

イエス様は、人間の考えかたと神様の
考えかたがどれほどちがうかを、少しで
も私たちに分からせるために、ある物語
をお話しなさいました。そのお話では、



神様のわたしたちに対する愛と、隣人に
対するわたしたちの愛とが比べられていま
す。また、神の国に入るために、わたし
たちが抱かなくてはいけない考えかたが
示されています。

パリサイ人たちは、まるでそのような考
えをいどころとはしませんでした。彼らは
ただ、すべての律法にしたがうことによ
って、神の国に入れると思っていたからで
す。彼らがイエス様を救い主として受け
入れなかった理由のひとつは、イエス様
が、人間の作り上げたすべての「規則〔き
まり〕」にしたがわなかったからです。た
しかにイエス様は、神様の十戒にだけし
たがっていました。十戒にしたがうとい
うことは、ほかの何よりも神様を愛し、
自分を愛するように隣人を愛すること
を意味します。そういう意味において、
パリサイ人たちは十戒を守っていません
でした。

あのお金持ちの若い役人は、自分
が十戒のすべてに従っていると思っ
ていましたが、実際はちがっていました。
彼は、神様以上にお金を愛し、

じぶんじしん あい おな ひと
自分自身を愛するのと同じようにほかの人
を愛していませんでした。

イエス様の12弟子は、どのような考
えかたをしていたのでしょうか？彼らは、心
をつくして神様を愛し、自分を愛するよう
にほかの人たちを愛していましたか？イエ
ス様から隠れて、彼らは何について言い
争っていましたか？マルコ 9:33,34。

考えてみよう：わたしたちも、一番にな
りたいとか、一番大きいものや一番いい
ものが欲しいと思うことはありませんか？こ
れは、イエス様がわたしたちに望んでおら
れる考えですか？

げつようび 月曜日

イエス様がお話しなされたのは、あ
るお金持ちの農夫についてでし
た。彼は広大なブドウ園をもっていました。
ちょうど収穫の時期になり、たくさんの働
き人〔労働者〕が必要でした。

ある朝はやく、ブドウ園の主人は、
労働者たちがやとわれるのを待っている
場所へ出かけて行きました。この男たちは、
「1日分の仕事に1デナリ払ってくれる
なら、あなたのところで働きましょう」と
言いました。ブドウ園の主人は、それに
同意しましたか？マタイ 20:1,2。

男たちは、その朝早くから仕事を始め
たのでしょうか。ところがまもなくして、もっ
と人手が必要なことがわかりました。9時
になって、ブドウ園の主人は何をしました
か？ 3,4 節。

この時にやとわれた労働者たちは、

賃金をいくらほ
しいとか言い
ませんでした。
朝早くから仕事
をしていない彼
らは、1デナリも
らえる約束をし
ていたわけでは
ありませんでし

たが、それでもやとわれたことをよろこん
で、ブドウ園の主人がそれなりの賃金を
払ってくれると信じていました。

すでに2つのグループの労働者がやと
われていましたが、あとになって、さらに
多くの労働者が必要でした。9時にやと
われた人たちと同じく、12時と3時にや
とわれた人たちも、賃金をいくらほしいと
かは言いませんでした。ブドウ園の主人
が決めた金額をもらえればありがたいと
思っていたのです。5 節。

夕方までには、もっと多くの人をやとわ
なければ、日が暮れるまでに収穫を終え
ることができないことがわかりました。日
が暮れるまであと1時間しか残っていま
せんでしたが、ブドウ園の主人は急いで
労働者をさがしに行きました。すると、い
ましたよ。まだやとわれていない人た
ちが。6,7 節。

考えてみよう：あなたは、意外な終わり
かたの物語が好きですか？まさにこのお話
は、そんな最後の場面が待っています。



かようび 火曜日

イエスは、ブドウ園の主人が、日が暮れる前にブドウの収穫を終わらせようとして、なんども労働者をやとう物語をお話しなさいました。日が暮れる前に、5つのグループの労働者がやとわれ、それぞれちがう時間に仕事を始めていました。

最初のグループは、朝早く仕事を始め、日が暮れるまで仕事をつづけました。報酬として、それぞれ1デナリずつもらう約束でした。彼らのあとから、ほかのグループの労働者がやとわれて、次から次へと収穫の仕事に加わりました。そのようすを横目に見ながら、彼らは、自分たちよりも遅く仕事を始めた連中は、賃金も自分たちよりは少ないだろうと思ったことでしょう。

仕事を終える時間になると、ブドウ園の主人は、管理人に何をするように言いましたか？**マタイ 20:8。**

おかしなことに、農夫はまず、一番遅く始めたグループから賃金を払い始めまし



た。しかも、彼らは1時間しか働いていないのに、1デナリずつもらっていました。そのあとで、どのグループの人たちにも、1デナリが支払われていました。**9節。**

いよいよ、最初に仕事を始めた人たちがお金を受けてる番になりました。1デナリの賃金をもらう約束でしたが、自分たちはほかの人たちよりも長く働いたので、約束したよりも多くの賃金をもらえるだろうと期待していました。

かんが **考えてみよう:** この日、ブドウ園の主人が労働者らに支払った賃金について、あなたは**どう**思いますか？

すいようび 水曜日

よ 明けから日暮れまで働いた人たちは、自分たちよりも働く時間が短かった人たちが、1デナリの賃金を受け取るのを見ました。さあ、いよいよ自分たちが受けてる番です。1日の賃金として1デナリをもらえる約束をしてはいたものの、もっと多くもらえるだろうと考えていました。しかし、本当にそうでしたか？**マタイ 20:10。**

いちにちじゅうはたら ひと ふまん
一日中働いた人たちは、不満そうです。このブドウ園の主人は不公平だと思いましたが、自分たちよりも働く時間が短かった人たち、とりわけ1時間しか働いていない最後のグループにも、12時間もけん命に働いた自分たちと同じ金額が支払われたからです。いちにちじゅうはたら ひと しゅじん はな
一日中働いた人たちは、主人と話すことにしました。**11,12節。**

ブドウ園の主人は、不平不満の声に耳をかたむけました。その上で彼は、自分は約束をやぶっていないと言いました。

13 節。

さらに主人は、自分のお金から賃金を支払ったのですから、自分があげたいだけあげても、だれも文句は言えないはずで、ほかの労働者たちにも気前よくしてあげたからといって、一日中働いた人たちが、そのことでねたんだり腹を立てたりしてよいでしょうか？ 14,15 節。

不満は残りましたが、やといぬしと言いつ争うことはできませんでした。彼の言っていることは正しかったからです。話を終えたイエス様は、何とおっしゃいましたか？

16 節。

考えてみよう：仕事が終わって、最初にきた労働者とほかの労働者とでは、どんな気持ちのちがいがありましたか？賃金のことを一番考えていたのは、どちらでしたか？

もくようび 木曜日

たとえ話の中では、長い時間働いた人たちもいれば、そうでない人たちもいました。でも、その日の終わりに、ブドウ園の主人は、一人ひとりの労働者に同じ額の報酬を支払いました。1時間しか働かなかった人にさえ、一日中働いた人と同じ賃金が支払われました。

夜明けから日暮れまで働いた人たちは、おもしろくありません。ブドウ園の主人に不平を言うと、彼は何と言いましたか？

しかし、数時間しか働かなかったのに、1日分の賃金をもらった人たちは、心から感謝しました。それだけの仕事をしていなかったことは、自分でもよく分かっていたからです。自分をやとってくれた、この気前のよい人を信頼してよかったと、彼らは思ったでしょうか？この物語をとおしてイエス様は、パリサイ人たちの期待がすべてはずれることをお示しになりました。自分たちは働き〔おこない〕がいいから、神様から永遠の命という報酬〔賃金〕がもらえるものだと、彼らは信じていました。また彼らが「罪人」と呼んでいる連中は、自分たちのような善人ではなく、いい働きもしていないから、神の国に入ることはできないと考えていました。パリサイ人たちの考えと神様のお考えとは、まったくちがっていたのです。

イエス様の弟子たちでも、自分たちの考えと神様のお考えとはちがうことに気づく必要がありました。神様は、すべての人を愛しておられます。また、だれが心から神様を愛し、信頼し、イエス様を信じているのかをご存知なのです。

考えてみよう：多くの人たちの考えと神様のお考えがちがっていて、よかったと思えますか？最初の労働者のグループと、ほかの労働者のグループと、あなたほどのグループの人のようになりたいですか？

きんようび 金曜日

き日は、ブドウ園の働き人についてイエス様が言われたことを、もう

すこ かんが
少し考えてみましょう。こ
ものがたり あいじょう てん
の物語は、愛情ぶかい天
とうさま おも
のお父様がどのような思
いをいただいておられるか
について、わかりやすく教
えています。では、これか
らいくつかの質問に答え
てください。

えん しゅじん
ブドウ園の主人は、ほ
かの人と同じようなやりか
たで、働き人に賃金を払いましたか？どん
なちがいがありましたか？

おそ じかん ひと ちんぎん
遅い時間にやとわれた人たちは、賃金
み あ はたら
に見合うだけの働きをしていましたか？

あなたが1時間しか働いていない
ろうどうしゃ じかんぶん ちんぎん
労働者だったら、12時間分の賃金をもら
えることを期待しますか？もし12時間分
の賃金をもらえたら、払ってくれた人のこ
とをどう思いますか？

いちにちじゅうはたら おとこ しゅじん
一日中働いた男たちは、なぜ主人のこ
とを不公平だと言ったのでしょうか？

ひと みな かみ くに はい
人は皆、神の国に入るのにふさわしく
ないという事実を理解するのは、多くの
ひと ひと ひとり
人にとってむずかしいことでした。よい働
き〔おこない〕によって、神の国にふさわ
しい者になれる人は、ひとりもいません。
たとえ、この物語に出てくる、一日中働い
た人たちのように働いたとしても、天国に
ふさわしい者にはなれないのです。

かみ くに はい ほうほう
神の国に入れるただひとつの方法は、
イエス様を救い主、また神として受け入
れることです。イエス様は、人間になって
わたしたちのために死んで下さるほど、わ
たしたちのことを愛しておられます。イエ



さま つみ
ス様だけが、罪をいちど
も犯さなかったただひとり
の人間であられ、罪から
はな わたし たす
離れるように私たちを助け
ることのできる、たったひ
とりのお方なのです。

さま つみ おか
イエス様は罪を犯さな
かったので、死ぬ必要は
ありませんでした。しかし、
わたしたちすべての人間

つみ おか じぶん み が
が罪を犯したので、ご自分が身代わりにな
って死ななければ、すべての人が失わ
れてしまうことをご存じでした。イエス様
が死んで下さったおかげで、わたしたち
は、神の国に入る選りをする事ができる
のです。

じぶん かみさま
もしかすると、自分は神様のため、また
きょうかい なが じかんはたら
教会のために長い時間働いているので、
自分は神の国にふさわしいと考えている
ひと
人たちがいるかもしれません。そのよう
な人たちは、物語に出てくる、夜明けか
ら日暮れまで働いた人たちに似ています。
自分たちは、ほかの人たちよりも多く働い
たので、もっと多くの報酬〔賃金〕をもら
えるはずだと思っっているのです。

いっぽう さま し しほら
一方、イエス様が死をもって支払って
くださった救いに、自分はふさわしくないと
おも ひと なが じぶん
思っている人たちは、物語の中で、自分
たちは主人が支払ってくれた賃金にふさわ
しい働きをしていないと感じた人たちに似
ています。ブドウ園の主人がしたことは、
かみさま ひとり
神様がわたしたち一人ひとりをどのように
あつかわれるかを示しています。

かんが
考えてみよう：イエス様がこの地上で受

けられた仕打ち〔あつかい〕は、本来わたしたちが受けるべきものでした。わたしたちは、ひどい仕打ちを受けるのにふさわしい人間であり、そのような報いを受けるのにふさわしいことをしてきているからです。ですから私たちは、イエス様と同じように、人からひどいことをされることがあるかもしれません。わたしたちは、永遠に生きるにふさわしい者でしょうか？いいえ。わたしたちは皆、罪を犯しています。イエス様は、死にふさわしいことをなさいましたか？いいえ。イエス様は、ただのいちども罪を犯しませんでした。イエス様は、わたしたちをこよなく愛しておられることを、自らの行動で証明なさいましたか？私たちはどうやって、感謝をあらわすことができるでしょうか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 20：1-16

★キリストの実物教訓 28章

p. 374-383



スンカがない その1

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。

リマから中央道路を20マイルほど上ったところに、太陽の町と呼ばれる、小さな美しいチョシカの町があります。リマが一面雲でおおわれ、何日も何週間も、時には何か月も、一筋の太陽の光すら届かないことがある一方で、この小さな町にはいつも太陽が照りかがやいているため、霧の立ちこめたリマの住人たちの行楽地になっています。どんよりした場所から、太陽の光がまぶしく輝くところへ向かう人たちは、だれもがワクワクしていたことでしょう。



ある日わたしは、「さあ行きましょう、スンカ」と言いました。スンカは、ドアをあけたと同時に車に飛びこんでいたので、わざわざそう言う必要はないのですけどね。ドライブが大好きなスンカは、特にチョシカへの道がお気に入りでした。そこではピクニックや、太陽の下でいろんな楽しいことができるからです。

スンカは、ドライブを十分に楽しんでるようです! なにもかもが、スンカの

好奇心をそそります。まず、にぎやかな町の一角からせまい道路を通りぬけると、さわがしい市場にでます。そこからは、たくさんの楽しそうな音が聞こえてくるし、おいしそうなにおいがただよってきます。次に、スンカの大好きな遊びがたくさんできる田舎に出ます。牛や馬やロバが見えるたびに、スンカは興奮してほえるのです。

リマック川沿いの道路を走っていると、緑のトウモロコシ畑や草原や綿の木があたりこちに見えます。チョシカの近くにあるナナも雲より高い町で、そこにインカ・ユニオン大学があります。そこを通るほとんどの宣教師は、この学校に立ち寄ります。学生たちに大人気のスンカも、学校をおとずれるのが大好きでした。

わたしたちの車が学校のキャンパス内に入るとすぐ、「スンカだ! スンカが来たぞ!」との叫び声があがりました。学生たちは決して「ラーセン夫妻が来た」とか「アニータさんが来た」とは言いません。「スンカが来た!」と言うのです。

この学校で、わたしはスンカの心配をする必要はありませんでした。スンカにボールをあげれば、ずっと子供や学生たちと楽しく遊んでいました。学生たちはス

ンカにボールを投げて、スンカが鼻ではね返すのを見るのが大好きでした。

チョシカでは、主人とわたしは日光に当たりながら散歩したり、広場にある大きな木のかげに入ったりしました。庭にある美しい花の色や香り、また屋根から玄関へたれ下がった見事なブーゲンビリアは、わたしたちを楽しませてくれました。

スンカはほかの犬を追いかけたくても、飼い主とそこにとどまり、ベンチにすわってくつろいでいる人たちに、いろんな芸を見せていました。

近くにすわって犬を見ていた小柄な女性が、「わたしも、自分の子供たちをみんなふうに従順に育てられたら、どんなにいいでしょう!」と言いました。彼女は若い娘といっしょです。「あなたが何か言うだけで、犬はすぐに従うんですね。『すわれ』と言えばすわるし、『転がれ』と言えばころがるし、『伏せ』と言えばそのとおりにする!」

わたしは、「そうですね」と言って、小さなスンカをなでました。「自分に従ってくれるだれかがいるって、いいものですよ。」わたしはその小柄な女性にほほ笑んで、言葉をつづけました。「神様の子供であるわたしたちが、みことばに従うと、神様はどんなによろこんで下さることでしょね。」わたしは、キリスト教の原則をいくつか説明するチャンスだと思い、会話を続けました。

そこを去るときに、その小柄な女性に、1冊のスペイン語の書き物を手わたしました。彼女の若い娘には、聖書物語のす

てきな絵を1枚と、子供聖書通信講座の最初の学課をあげました。「これ、きっと楽しいわよ」と、わたしは言いました。「それに、もし12課のおもしろいお勉強を終えたら、すぐくてきな証明書がもらえるのよ。」

「本当?」若い少女は、うれしそうにしています。「わたし、これ全部お勉強しようっと。」車に入ってドアを閉めても、少女はずっと手をふっていました。

広場を去って通りへ車を走らせると、あの少女が車より先回りして両手をふっているのが見えました。よろこんで興奮しているようすです。

30分ほど車で走ったころでしょうか、わたしたちはすでに、あの陰気な、じめじめした、冷たい雲におおわれた場所へもどっていました。そこでわたしは「スンカ、おいで」と呼び、ふだんスンカを横にすわらせるときにするように、座席を手でたたきました。

「あら、スンカ?どこにいるの?」わたしは、スンカがいつも横になっている後ろの窓をみました。「スンカ!スンカ?」

(つづく)

だいしょう 第13章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

さま おく もの イエス様への贈り物

あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」1ヨハネ 4:19

にちようび 日曜日

アダムとエバが罪を犯して、最初の犠牲の小羊がささげられたときから、神様の民は、同じように犠牲の供え物をささげていました。これらの犠牲の供え物は、神様のみ子が真の小羊であることを思い起こさせるためのものでした。この真の小羊は、わたしたちの世界に生まれ、わたしたちの身代わりとなって死なれるのです。それは、彼を愛し、信じ、彼に従う人たちが救われるためでした。

毎年、過越しの祭りに小羊を犠牲としてささげるのは、神様が、エジプトで奴隷となっていたご自分の民を解放して下さった夜を思い出すためでした。

神様は強情なパロ〔エジプトの王様〕に、もし神の民を解放しなければ、エジプト中の長男が死ぬことになるだろうと警告なさいました。しかし、小羊を殺して、その血を家の戸口にぬる家族は、安全に

守られることになっていました。死の天使がそれらの家々を通りすぎても、長男が殺されることはありません。それで、これは『過越しの祭り』と呼ばれるのです。戸口にぬられた血は、イエス様が彼らに代わって流される血をあらわし、彼らがその血に信頼することをあらわしていました。1コリント 5:7。

実は、人々がこれまで祝ってきた中で、最も重要な過越しの 때가近づいていました。ただし、そのことを知っているのはイエス様だけです。彼だけが、これから数日のうちに、ご自分が真の小羊として犠牲になることをご存知でした。また祭司や律法学者たちが、彼を殺す計画をたてていることも、知っておられました。マルコ 10:33,34。

イエス様は、どんなにさびしく感じたことでしょうか! 弟子たちでさえ、いまだにイエス様が偉大な王様となって、ローマの支配から自分たちを解放するだろうと考えていました。サタンは人々が、地上の

偉大な王国の**ことばかり**考えるように望んでいました。自分たちは罪人であって、自分たちを救って神の国に入れてくださる救い主が必要であることを、忘れさせたかったのです。

考えてみよう：わたしたちを救うすばらしい計画を、サタンは台無しにしようとしていましたか？どのようにして？

げつようび 月曜日

過ぎ越しの祭りまで、あと6日しかありません。イエス様は祭りに参加するために、エルサレムに向かっておられました。そしていつものように、ベタニヤのラザロの家に泊まりました。このラザロは、イエス様が死からよみがえらせた男です。**ヨハネ 12:1**。

ベタニヤには、イエス様に感謝している、もうひとりの男がいました。彼は裕福なパリサイ人で、名前をシモンといいます。イエス様に、ライ〔ハンセン〕病を治してもらっていました。

シモンはイエス様の弟子になっていましたが、まだイエス様がメシヤであるという確信がもてず、自分が罪人であるとも思っていないませんでした。ライ病をいやしていただいた後でも、その考えを変えていませんでした。

いやしていただいたことへの感謝をあらわそうと、

シモンは、イエス様のために宴会をひらきました。そこには、ラザロも招かれていました。食事の席で、シモンはイエス様のそばにすわり、ラザロは反対側にすわっていました。マリヤとマルタも、そこに出席していました。そしていつものように、マルタは食事を出す手伝いをしていました。**2節**。

その日、大勢の人がベタニヤにきました。中には、イエス様に会いに来ていた人もいました。また中には、死んだ後、4日もたってからよみがえらせたラザロを見に来ていた人もいました。死ぬとはどういうことか、経験した人に聞いてみたかったです。しかしラザロは、死んでいた間のことを、何も覚えていませんでした。**伝道の書 9:5,6**。

ラザロがみんなに語れたのは、イエス様がたしかに神様のみ子であられるということだけでした。神様だけが、死んだ人に命をお与えになることができるのです。

考えてみよう：イエス様の真の弟子となるために、シモンは何をする必要がありましたか？自分自身について、シモンが抱

ていたまちがった考えは何でしたか？

かようび 火曜日

シモンの病気をいやしになったイエス様は、ベタニヤにある彼の家に、特別な客として招かれました。大勢



あし こうゆ か
足にも香油をぬったと書いています。ヨハ
ネ 12:3。

はじめのうちは、マリヤがしたことに誰
も気づきませんでした。ところが、しばらくして香油のにおいがしてきたため、何が
起こっているかをみんなが理解しました。
すると、イエス様の弟子のひとりが、ひど
いことを言ったのです。4-6節。

マリヤは困ってしまいました。自分の
していることを、だれにも知らせるつも
りはなかったからです。香油のにおいが
部屋中に行きわたるとは、考えもしません
でした。こんなに恥ずかしい思いをする
なんて!人々が自分のことを話しているの
が聞こえます。また、こんなにたくさんの
お金を使ったことで、マルタにしかられた
かもしれません。そしてもし、イエス様ま
で、自分のしたことをばかげていると思っ
ておられたらどうしましょう?

マリヤはひどくきまり悪くなって、あわて
て部屋を出ようと思いました。すると、イエ
ス様の声が聞こえました。それは、彼女
にとっては信じられないようなお言葉でし
た。マルコ 14:6-9。

考えてみよう: イエス様のお言葉を聞いて、マリヤはどんな気持ちだったと思いま
すか?ユダはどんな気持ちだったでしょう?
あなたがその場にいたら、どんな気持ち
だったと思いますか?

もくようび 木曜日

ユダは腹を立てました。もちろん、
怒るべきではありませんでした。

かれは、イエス様と弟子たちを援助するた
めにささげられたお金を任せられて、その
お金を注意ぶかく管理しているかのよう
にふるまっていました。ところが実際は、
彼自身がどろぼうでした。聖書の中で、彼
について書かれているところを読んで下さ
い。ヨハネ 12:4-6。

ユダは、ほかの弟子たちが自分を信頼
しているのを知っていました。しかし、イ
エス様と弟子たちのためにささげられたお
金をユダが盗んだのは、一度だけではあ
りませんでした。そして彼は、その盗んだ
お金を自分のために使っていました。

マリヤをかばいながら、イエス様は、
ユダをまっすぐ見つめておられました。そ
の時、ユダは初めて、イエス様と弟子た
ちのお金を自分がごまかしてきたことを、
イエス様もご存じだと悟りました。もしマ
リヤが、香油に使ったお金を貧しい人の
ためにといてユダにわたしていたら、ユ
ダがそのお金をどうしていたか、そのこと
もイエス様はご存知でした。

ユダはマリヤに、とても恥ずかしい思
いをさせました。しかしそれでも、イエ
ス様が彼の正体〔かくされている本来の
姿〕をその場で明らかにして恥をかかせ
なかったことを、ユダは感謝すべきでした。
けれども、感謝して罪を悔いるどころか、
彼はイエス様に腹を立てたのでした。

それからユダは、祭司や役人たちと会
うために、急いでエルサレムへ行きました。
祭司と役人たちは大祭司の家で話し
合いをしていましたが、ユダはおかまい
なく、会議中の部屋に入って行きました。

イエス様の弟子であるユダが、イエス様を捕らえる手助けをしようと申し出たとき、彼らはどう思いましたか？

考えてみよう: あなたが誰かにユダのことを話すとしたら、どのように説明しますか？ マリヤのことは、どのように話しますか？ マリヤが香油を買ったのは、イエス様に愛してもらったからですか？ それともマリヤがイエス様をとて愛していたからですか？



るしを求めました。しかしシモンは、まだそれをしていませんでした。

イエス様は、シモンが何を考えているかをぞんじ存知でした。シモンの考えがまちがっていることを、イエス様がどうやって理解させようとしたのか、聖書から読んで下さい。

40-47 節。

わたしたちの罪の報いは、永遠に死ぬことです。イエス様がわたしたちのために死んで下さったので、わたしたちは彼に恩義があります。イエス様は、わたしたちの負債を支払って下さいました。それは、莫大な借金のようなものです。しかし、もしマリヤのように自分の罪を告白しなければ、イエス様の死は、わたしたちを救うことはできません。マリヤは、心をつくしてイエス様を愛しました。それは、イエス様が彼女をゆるして下さったからです。マリヤは自分が大きな負債をかかえていることを知っていましたが、イエス様の死は、その負債を払ってくれたのでした。

イエス様は、マリヤと同じようにシモンのことを愛しておられましたが、シモンは自分の負債がそれほどたくさんあるとは思っていませんでした。彼は、宴会でイエス様に好意を示そうと思いました。つまり、イエス様が彼のライ〔ハンセン〕病をいやして下さったことに、お礼をしたい気持ちでした。しかし、ほかの人たちが自分の客に対してするような、礼儀正しい

きんようび 金曜日

シモンの家でマリヤがしたことに対して、まちがった考えを抱いていたのは、ユダだけではありませんでした。シモンはマリヤを見ながら、イエス様がほんとうのメシヤかどうか、うたがいの心がわいてきました。彼は、何を考えていましたか？ **ルカ 7:36-39。**

シモンは、もしイエス様がいやして下さらなかつたら、自分は恐ろしい病気のために死んでしまっていたことを忘れていました。彼はまだ、自分が罪人であることを認めない、高慢〔思いあがって人を見下すこと〕なパリサイ人でした。そのためイエス様は、マリヤにしたように、シモンをゆるして罪をとりのぞくことがおできにならなかつたのです。マリヤは罪人でしたが、自分の罪を悲しみ、イエス様にゆ

行為こういをしていませんでした。彼のかれのしもべは、
イエスイエス様のさま足あしからほこりを洗い落とすこと
さえしませんでした。

イエスイエス様がさまふり返かえってマリヤはなに話はなしかけ
ると、彼女かのじよはこれまで以上いじょうに感謝かんしゃをあらわ
しました。48-50節せつ。

シモンは、イエスイエス様にさま言いわれたことを
理解りかいしましたが、ユダユダのように怒おこりません
でした。むしろシモンは、自分じぶんの罪つみのこ
とを、イエスイエス様がさまほかの客きやくたちはなに話はなされな
かったことに感謝かんしゃしました。シモンは完全かんぜん
に考えかんがかたをか変かえ、その時ときからへりくだ
った弟子でしのひとりとなったのでした。

かんが **考えてみよう**：この物語ものがたりの、悲かなしいとこ
ろと喜よろこばしいところはどこですか？なぜそう
おもおもいますか？毎日まいにちイエスイエス様にさま罪つみをゆるして
いただくのは、大だい事じなことですか？イエス
様さまはそうそうななさりたいですか？

まな もっと学ぼう！

★ルカ 7:36-50

★ヨハネ 12:1-8

★マタイ 26:6-16

★マルコ 14:3-11

★各時代かくじだいの希望きぼう 62章しょう



スンカがない その2

アンナ・ラーセン



これは、^{みなみ}南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、^{かぬし}飼い主のラーセン夫妻といっしょに^{でんどう}伝道の働きをした、^{いっぴき}一匹の小さな犬スンカについての、^{ほんとう}本当にあった^{はなし}お話です。

「スンカはどこ？」わたしの^{しんぞう}心臓のドキドキが、はげしくなってきました。「スンカ！」わたしは^{ざせき}座席の^{あいだ}間をのぞきました。「スンカがない！」

「どうして？僕たち、どこにも^よ寄らなかったよね。」主人は^{しゆじん}落ち着いているようでした。「車のどこかにいるだろう。」

「いいえ、^{ほんとう}本当にいないの。きっと^{ひろば}チョシカの広場において^き来たのよ。さがしにもどらないと。」

「さがしに行くだって？^{いま}今から1時間以上はかかるよ。スンカはもういなくなっているはずだよ。」

「じゃあ、^{なに}ほかに何が^いできるっていうの？とにかくさがしに行かないと。」わたしの^{こえ}声は^{なみだ}涙でふるえています。「スンカのこと^{わす}忘れるなんて！」



^{しゆじん}主人はまず、^{くるま}車をUターンさせる^{ばしょ}場所をさがしました。そして^{もう}猛スピードで、

チョシカにもどりました。彼は^{かれ}車を^{くるま}走らせながら、「お祈りしよう」と^{いの}言いました。「きっと^{かみさま}神様が^{たす}助けて^{くだ}下さるよ。」^{しゆじん}主人も、わたしと^{おな}同じくらい^{しんばい}心配しているようでした。

「急いで！ああ、こんなに^{とお}遠かったかしら?!」ひどく^{しんばい}心配しながら、わたしは^{どうろ}道路の^{りょうわき}両脇を^み見ていました。「ねえ、スンカが^{どうろ}道路を^{くだ}下って、わたしたちの^{あと}後を追って^{くる}来るかもしれないわよ。」

「それも^{いそ}ありえるね。でも、^{ねが}そうしないことを^{くるま}願うよ。車に^{ひか}ひかれて^{しま}しまうだろうから。」

「ええ、でも^{ぬす}だれかがスンカを^{ぬす}盗むかもしれない。あれほど^{いぬ}いい犬を^ほ欲しが^{ひと}る人は、^{ねが}たくさん^{いそ}いるはずよ。お願い、急いで！」^{ゆうがたちか}夕方^{うつく}近くになって、わたしたちは^{うつく}美しい^{おどお}大通りで^{くるま}さらに車を^ととばして^{ひろば}広場へと^む向かいました。

「あ、あそこに^{すわ}すわってる！」わたしは、もう^{すこ}少しで^{さけ}叫ぶ^{ところ}ところでした。「スンカが^み見えたわ。ほら、わたしたちが^いおいて^い行った



のと同じところにいる。」

まだ車が止まらないうちに、わたしは窓から「スンカ! スンカ! スンカ!」と呼びました。ドアを開けると、スンカはすぐに飛びこんできました。犬の愛情のすべてをそそいで、私の顔をなめています。

「かわいいスンカ!」わたしはスンカを抱きよせました。「置きざりにしてしまって、本当にごめんね。」

主人は、「僕が思っていたよりもずっと賢いんだなあ、スンカは」と言いました。

「そうですね。」まだ広場に残っていた、あの小柄な女性がうなずき、車のところまでやってきました。「わたしはずっと、この犬のこと見ていたんですよ。どこにも行かないし、だれも自分に近づけようともしない。ただ同じ場所にじっとすわって、車が自分のところにもどってこないか見ていましたよ。実に賢い犬ですね。」

「おばさん、おばさんからもらったお勉強、全部おわったよ。」少女がにっこり笑って、わたしに通信講座の学課をわたしました。

「もう終わったの? すごいわ! どれどれ、見てみるわね。ああ、よくできているわ。」わたしは問題をていねいに調べ、すべて正解しているのを確認しました。「じゃあ、次の分をあげる。」わたしは、通信講座の教材がいつもよぶんに入れられている、主人のかばんをさぐりました。「それとも、第2課と第3課の両方あったほうが、第2課をわたしたちに送っている間に、第3課を勉強できるからいいかもしれないわね。はい、どうぞ。これは封筒よ。」

「友だちの分ももらえるかしら? みんな勉強したいって言っているの。」3、4人の女の子がそばに立って、何かを期待している顔で見えています。「もちろんよ。この子たちみんなが、聖書学校の生徒になってくれたら、すごくうれしいわ。はい、どうぞ。」わたしは一人ひとりの女の子に、第1課と封筒をわたしました。それから、「これは大人用の学課です。奥様もきくと、この聖書通信講座を楽しんでいただけると思えますよ」と言って、この小柄な女性と握手をかわしました。「さようなら。スンカを見守って下さって、本当にありがとうございました。」

(つづく)